

社会福祉法人 太陽の家  
創立50周年記念誌

1965—2015

No Charity, but a Chance!



目次

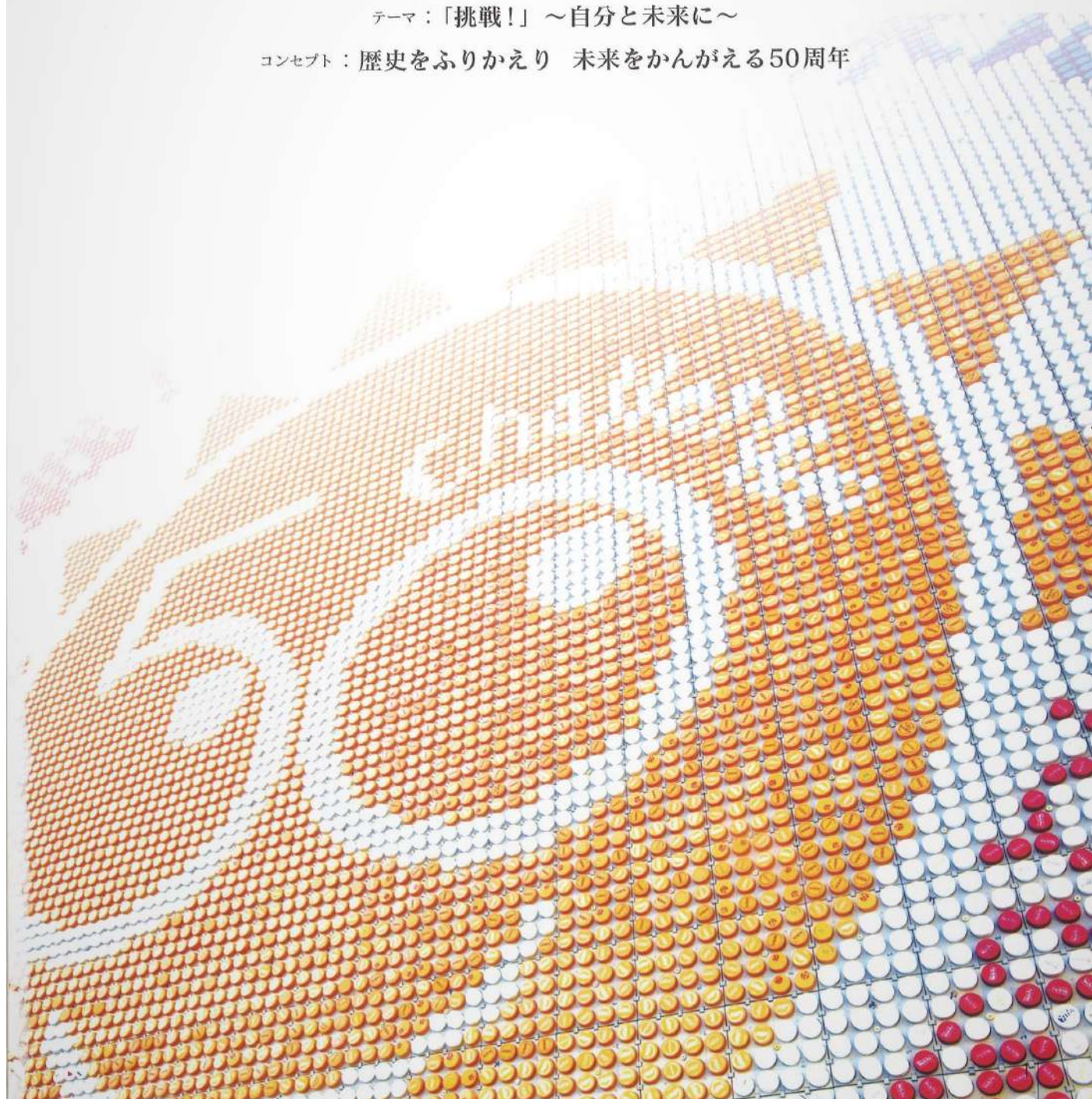
太陽の家理念	2
巻頭言 太陽の家 理事長 中村 太郎	3
祝辞 厚生労働大臣 塩崎 恭久	4
大分県知事 広瀬 勝貞	5
別府市長 長野 恭紘	6
太陽の家 会長 立石 義雄	7
太陽の家 顧問 鍋島 英幸	8
太陽の家 前理事長 畑田 和男	9
全国の事業所(航空写真)	12
第1部 太陽の家 50年のあゆみ	
あゆみ	16
創立50周年記念式典	34
第2部 挑戦の歴史	
創設者 中村 裕博士	44
中村語録	48
挑戦の歴史	52
第3部 挑戦！自分と未来に	73
[51人のチャレンジャー紹介]	
第4部 そして未来へ	
創立50周年記念シンポジウム	92
将来構想検討委員会報告	96
第5部 太陽のなかまたち	101
資料編	
事業一覧	134
歴代役員	136
現在の役員	139
主な補助金	140
見学者数の推移	143
在籍者数の推移	144
授産施設・B型事業所から雇用された人数	147
事業種目の変遷	148
共同出資会社一覧	150
給与・工賃支給実績	151
障がい者スポーツ	
フェスピック大会参加状況	152
大分国際車いすマラソン大会参加状況	153
全国障がい者スポーツ大会参加状況	154
パラリンピック夏季大会参加状況	155
主な国際スポーツ大会参加状況	156
主な研究開発一覧	157
主な研究概要	158
研究紀要発行	161
敷地・建物配置の推移	162
敷地建物の変遷(今昔航空写真)	164
むぎの会	170
過去に出版された太陽の家関係の書籍・記念誌 / 編集後記	172

# 太陽の家創立 50 周年記念事業



テーマ：「挑戦！」～自分と未来に～

コンセプト：歴史をふりかえり 未来をかんがえる50周年



理 念

No Charity, but a Chance!

人間としての尊厳が保たれる社会の実現



麦には

きびしさがあります

麦は

踏まれても踏まれても

ぐんぐん成長します

太陽に向かって

のびつづける麦の形には

団結を意味するものがあります



## 創立50周年を迎えて

社会福祉法人太陽の家

理事長 中村 太郎

2015年10月4日天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、企業・行政・団体をはじめ地域の方々など多くの皆さまにご出席いただき、太陽の家創立50周年記念式典が盛大に執り行われました。

1964年父である中村裕は東京パラリンピック日本選手団長を務めました。大会は成功裏に終わりましたが、大会後にまた病院や施設に戻らなければならなかった選手達は「私達も欧米の選手のように自立したい。障がい者の働く場所を作ってください」と中村に懇願しました。そして東京パラリンピックからわずか1年後の1965年10月5日大分県別府市亀川に、障がい者7人と職員5人で太陽の家は創設されました。

「障がい者を働かせるなんて、かわいそう」という当時の日本において、太陽の家は、“No Charity, but a Chance”の理念の下、障がい者が地域社会で普通に働き、暮らし社会の実現を目指し、半世紀にわたって幾多の困難を乗り越え、チャレンジしてきました。現在では、オムロン、ソニー、ホンダ、三菱商事、デンソー、富士通エフサスとの共同出資会社、別府を本部に愛知、京都、大分市、杵築市、日出町にも事業体を設け、1,200人の障がい者・高齢者と700人の健常者、合わせて1,900人がともに働き、生活しています。

また、第1回が大分市・別府市で開催され、現在はアジアパラ競技大会へと発展しているフェスティック、2015年に35回目を迎えた大分国際車いすマラソン大会など国内外の障がい者スポーツの発展に尽力してきました。

当法人が50年を迎えられたのも、長年太陽の家をご支援いただいている行政や企業、地域など多くの皆さま方の深いご理解とご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。そして、障がいをもった方々の半世紀にわたるご努力やご苦勞に深く敬意を表します。

しかし、社会には重度の障がい者や精神障がい者など、いまだ生活の向上や自立が叶わない方々がたくさんいます。太陽の家は、これからも取り残される人のいない社会の実現、ソーシャルインクルージョンを目指して、チャレンジを続けます。2020年には日本は世界で初めて2度目のオリンピック、パラリンピック開催国となります。2度目の東京パラリンピックを控え、共同出資企業と協力してジュニアアスリート育成のための事業も開始します。創業の原点に立ち戻り、さらなる飛躍をしたいと思えます。今後とも皆さま方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## 創立50周年をお祝いして

厚生労働大臣 塩崎 恭久

本日ここに、天皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、社会福祉法人太陽の家の創立50周年記念式典が、かくも盛大に開催されるに当たって、一言お祝いの言葉を申し上げます。

太陽の家は、昭和40年に創設されて以来、一貫して障害のある方々の働く場の確保に努められ、一人ひとりが能力を発揮しながら、地域で生活を送ることができるよう多様な支援に取り組まれてこられました。

また、大分国際車いすマラソン大会の支援など、障害者スポーツへの取組を通じた障害のある方々の社会参加の推進や、外国人研修生の受け入れなどの国際貢献にも大きく寄与してこられました。

こうした長年にわたる活動を支えてこられた関係者の皆様のごこれまでのご尽力に対し、心より感謝申し上げるとともに、深甚なる敬意を表します。

創立50周年という節目を新たな出発点として、これまでも増して、充実した活動に取り組まれることを心から期待いたしております。

さて、「障害者総合支援法」が施行され、2年半が経ちました。この間、障害福祉施策につきましては、障害のある方々を地域全体で支える取組や就労支援の充実を進めるとともに、障害の有無に関わらず活躍できる環境整備を推進してまいりました。

今後は、障害者権利条約の趣旨を踏まえ、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、更なる取組が求められています。

厚生労働省といたしましても、現在議論が進められている法施行3年後の見直しを含め、ひとつひとつの課題に真摯に向き合い、障害福祉施策の着実な進展に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、太陽の家の今後の益々のご発展と、本日お集まりの皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成27年10月4日

創立50周年記念式典ご祝辞



## 太陽の家 創立50周年を祝して

大分県知事 広瀬 勝貞

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、太陽の家創立50周年記念式典が、このように盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

太陽の家は、設立以来、中村裕博士の「保護より機会を」を理念に、大分県のみならず、国内外における障がい者の福祉向上やスポーツ振興に多大な貢献をいただいております。ここに、あらためて心から敬意を表し、深く感謝いたします。

さて、私どもは、だれもが安心して心豊かに暮らすことのできる大分県を目指して、全力で取り組んでいます。中でも、障がい者が住み慣れた地域で安心して自立した生活を送り、積極的に社会参加できる環境づくりが大変重要であると考えています。

太陽の家は、障がい者の特性に応じた工具の開発や就業形態の工夫をされ、障がい者の就労に力を入れておられます。共同出資会社8社を設立して、障がい者の就労相談、訓練や雇用の場の創出などに努め、現在では障がい者約千名を含む1900名の従業員や利用者が在籍しています。

「保護より機会を」、太陽の家はまた、障がい者スポーツの分野において、昭和50年、第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会を開催し、アジアや南太平洋地域の障がい者スポーツの普及にご尽力されるとともに、大分国際車いすマラソン大会の開催にもご尽力いただきました。同大会は今年で35回目を迎え、今では国内外から多くの選手が参加する世界最高峰の大会に成長しています。今日、大分県が障がい者スポーツの先進県と言われる所以であります。

昨今、障がい者の高齢化や障がいの重複化など、障がい者を巡る環境が大きく変化してきております。太陽の家が創業当時の理念の下、新たなニーズに応えながら、その名のおり、障がい者の未来を明るく照らす希望として、引き続き活動していただくよう心から期待いたします。

社会福祉法人「太陽の家」の一層のご発展と、関係の皆様方のご健勝を祈念して、祝辞といたします。

平成27年10月4日

創立50周年記念式典ご祝辞



## 創立50周年 ～さらなる発展を祈念して～

別府市長 長野 恭紘

社会福祉法人「太陽の家」が、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、創立 50 周年の栄えある日を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

「太陽の家」は、1960 年代に欧米から広まったノーマライゼーションの理念に呼応するかのごとく 1965 年に設立され、これ以後、バリアフリーやユニバーサルデザイン、地域で暮らせる社会へと昇華される社会福祉施策を具現化した先駆的な施設として、重みある歴史を持ちながら、尚ご努力を続けられ、新しい歴史を築いている姿に感銘しているところでございます。

また、「保護より機会を」との創設者中村裕博士の理念のもと、共同出資会社の設立をはじめ、各協力企業から仕事の提供を受け、数々の就労支援を行うとともに、生活支援・在宅支援・地域生活支援等を総合的に展開し、機能回復を図るためスポーツを取り入れるなど、現在の障がい者スポーツ発展の礎となっております。

現在、「太陽の家」敷地内では、ロボットスーツ HAL を活用した九州で初めてとなる「大分ロボケアセンター」が事業を開始しており、最先端の科学技術を既存の福祉の概念にとらわれることなく、新しい社会資本として活用されている関係者の皆様のご努力とご尽力に、深く感謝と敬意を表する次第でございす。

「太陽の家」の皆様方が、地域で障がい福祉に取り組み続けたこれまでの時間は、設立の理念と同様に貴重な財産であります。

是非、別府ならではの国際色豊かな可能性あふれる多くの人材を活用し、全世界に向けて、これまで培ってこられた福祉に関する数多の知識・経験、きめ細やかな福祉モデルを展開するとともに、福祉基盤の構築を所望する国々への支援を積極的に行っていただくことにより、別府市発「太陽の家」のブランドが、世界基準として確立されることをご期待申し上げます。

本市におきましても、福祉に関する各種の法改正等に柔軟に対応するとともに「別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」の理念のもと、障がいのある人への生活のしづらさや不安を解消し、共生社会の実現に向けて一層努力してまいり存でございます。

結びになりますが、社会福祉法人「太陽の家」の今後ますますのご発展と関係者の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、創立 50 周年のお祝いの言葉といたします。





## 創立 50 周年にあたって

太陽の家 会長 立石 義雄  
オムロン株式会社 名誉会長

太陽の家は、2015年10月5日に創立50周年を迎えることが出来ました。この半世紀の歩みは、中村裕先生をはじめ歴代・現役の役職員の皆様、ご家族の皆様、そして、行政、企業、取引先などの皆様のご努力の賜物であり、心より敬意と感謝を申し上げます。

中村先生は1964年にアジアで初めて開催された東京パラリンピックの団長を務め、翌年の1965年には大分県別府市亀川に太陽の家を設立されました。改めてその情熱と行動力に敬服いたします。

障がい者福祉に心血を注がれた中村先生の逸話は数多くありますが、その一つが私の父であり立石電機（現在のオムロン）の創業者である立石一真との出会いです。障がい者の自立と福祉工場の設立を訴え続けていた中村先生は、それまで何社にも断られていましたが決して諦めませんでした。1970年、評論家の秋山ちえ子氏と創業者を訪問した中村先生は「保護より機会を」、「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」という太陽の家の理念を熱く語ったと聞いています。その理念が、オムロンの「われわれの働きでわれわれの生活を向上しよりよい社会をつくりましょう」という企業の公器性に基づく社憲に合致し、中村先生の情熱と行動力が創業者の心を動かしたのです。

その結果、別府本部にオムロン太陽電機株式会社(当時)と福祉工場(当時)が設立され、その後、ソニー、ホンダ、三菱商事、デンソー、富士通エフサスとのご縁へとつながることになりました。現在では8社の共同出資会社を数え、協力企業も増え、太陽の家50年間の在籍者は約6000名と発展し続けています。

2015年10月4日には、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、別府本部において創立50周年記念式典を挙行することが出来ました。皇太子時代を含めて3回目のご視察であり、太陽の家をお心に留めていただいていることは、大変ありがたく名誉なことと思います。当日は、パラリンピックを目指す選手の練習も視察され、選手にとっては忘れることのできない励みとなり、天国の中村先生もお喜びになられたと思います。

現在、太陽の家では、大分、愛知、京都に障がい者約1,200名、健常者約700名の合計1,900名が働き生活しています。50年間の活動に対して社会から評価いただいた結果でもあると思いますが、これからも社会からの期待に応えていく責務の大きさを改めて感じています。社会には、難病や重度の障がい、精神障がいなど支援を必要とされている方々がまだ多くいます。中村先生が掲げられた理念のもと、情熱と行動力を発揮して、これからも多くの課題に果敢に取り組んでまいりたいと思います。皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 創立 50 周年に寄せて

太陽の家 顧問 鍋島 英幸

三菱商事株式会社 常任監査役  
三菱商事太陽株式会社前会長

太陽の家設立 50 周年、おめでとうございます。

50 年前に太陽の家を設立、そして数多くの太陽の家の関連企業を設立され、障がい者雇用の場を作り、多くの障がい者に勇気と希望を与えてこられた、まさしく日本の障がい者雇用の父とも呼ぶべき中村裕先生、中村裕先生を支えてこられた奥様、ご家族、そして中村裕先生の思いをしっかりと受け継ぎ、障がい者雇用の拡大に取り組まれている太陽の家の職員の皆様の御尽力に深く敬意を表するとともに心よりお祝い申し上げます。

太陽の家と三菱商事の出会いは 1979 年に遡ります。「コンピューターのソフトの仕事は最重度の障がい者に向いている、重度の障がい者でもできる仕事を作りたい」という中村裕先生の強い要請に応え、三菱商事が、コンピューターを寄贈し、講師を派遣し、そして太陽の家と三菱商事の共同出資会社である三菱商事太陽がスタートしたのが 1983 年になります。スタート時の職員 14 人、内 10 人はコンピューター教育を受けた障がい者でしたが、現在では、社員総数 95 人、内、障がい者が 61 人、スタート時の訓練生であった山下達夫さんが社長を務め、障がいがある人となない人が共に働く共生会社として成長し続けています。

障がい者も働いて税金を払うようにするんだというのが、中村裕先生の口癖であったと聞いていますが、三菱商事太陽は、2012 年度には累損を一掃、補助金は頂いておりますが、それを差し引いても利益が出せて納税する会社になりました。

約 40 年前に今日のような IT の時代が来ることを見越し、そしてこの分野では障がい者は健常者といささかも変わらない仕事ができるとして、障がい者がコンピューターの仕事をするという世界でも類がない画期的な事業へ取り組まれた中村裕先生の先を見通される力、そして実現された圧倒的な行動力にただただ感服する次第です。

中村裕先生は「将来は福祉が確立して、太陽の家が必要なくなる。そんな時代を待っている」と言われております。改めて 50 周年の機会に、この中村裕先生が仰った言葉を我々はしっかりと受け継ぎ、中村裕先生が全身全霊で障がい者の問題に取り組まれたように、太陽の家と関連企業が、障がい者雇用の拡大、真の福祉社会の実現に向けて、共に全力で取り組んでいく事を中村裕先生に誓い、新たな 50 年に向けてスタートしましょう。



## 太陽の家創立 50 周年に寄せて

太陽の家 前理事長 畑田 和男

太陽の家創立 50 周年心よりお慶び申し上げます。

光陰矢のごとしと言いますが、太陽の家は昭和 40 年 10 月 5 日、「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」をモットーに、故中村裕博士によって創設され 50 年。あつという間に過ぎましたが、この間に多くの障がい者が社会復帰されたことは大変よろこばしいことであります。太陽の家開設当時の日本の国内で障がい者の社会復帰（就労）は殆どなく、家庭や社会の厄介者でありました。障がい者福祉に対して政策・環境・国民意識ともに消極的であり、このような時代に中村裕先生は障がい者の社会復帰の場を創設することに挑戦されました。

創設 50 周年にあたり、先生が私に話して下さった太陽の家創設に至るお考えと、創設時前後の様子を記憶をたどってみました。そもそも私が太陽の家と関わるようになったきっかけは、昭和 35 年 9 月九州大学整形外科医局より別府国立病院整形外科へ 1 年間の研修を命じられたことに始まります。その時、整形外科科長は中村裕先生であり、先生から医学や障がい者スポーツ、障がい者の社会復帰などを学び、先生とともに生きていくことを決めました。先生は英国・ストークマンデビル病院より帰国後間もない頃でした。英国で学ばれたことは、脊髄損傷者の治療と障がい者の社会復帰、障がい者スポーツでした。

先生は、「整形外科医は外傷、障がいの治療で機能が回復しても治癒とせず、社会復帰するまで見届ける義務がある」と言われ、入院している患者の体力回復のためのスポーツも治療に取り入れ、早い退院と社会復帰に情熱を燃やしていました。昭和 39 年、先生はある事情により障がい児療育施設、別府整肢園園長を兼任されることになりました。私も同年 9 月別府整肢園に副園長として赴任し障がい児の治療をしました。当時、作家の水上勉氏のお嬢さんが整肢園で治療を受けておられ、水上先生と会い、障がい者（児）の社会復帰の場である太陽の家の構想を語り、水上氏も賛同し協力することを約束されました。先生は、昭和 40 年 4 月、障がい者を社会復帰させるための、「別府善意工場」の設立の構想を別府整肢園の付帯事業として行うことを理事会に申し出て承認を受けました。「別府善意工場」の事業はアメリカで不用品の更正、販売で業績をあげている「グットウイルインダストリーズ」方式を行うこととなり、私も大分・別府で不用品の回収を行いました。集まった物は廃品同様の物で更正することが出来ない物ばかりで、この善意工場事業は中止となりました。その後、先生は「別府リハビリセンター」構想を考え別府整肢園で設立発起人会が開かれ、その設置が決まりました。施設建設用地は、別府市亀川にある、元小野田セメントの結核療養所で、別府白土という会社が管理しており譲渡交渉の結果、譲渡してもらい購入契約をしました。この療養所は木造モルタル作りで、10 人の病床、診察室、食堂、医師宿舎などがあり、かなり古い建物でした。

建設用地も決まり、建設に向けて別府整肢園で設立発起人会が開かれ、「別府リハビリセンター」設立が決まりました。その後、設立準備委員会で社会福祉法人の認可申請をすること、開所式を 10 月 5 日に行うこと、また水上勉氏の提案により、この施設の名称を「太陽の家」とすることとなりました。開所日まで期間も少なく、中村先生は障がい者の仕事探しに東奔西走し、竹工芸、縫製、義肢製作、木工所を誘致しました。また、太陽の家のシンボルマークの制作を大分県立芸術短期大学の蔵善雄先生に依頼し、赤い太陽の中に麦の穂が描かれたこのマークは「麦にはきび

しさがあります、麦は踏まれても、踏まれてもぐんぐん成長します。太陽にむかってのびつづける、麦の形には団結を意味するものがあります」という意味を表しています。

10月5日の開所式には、整肢園児やその父兄、木下郁大分県知事と、他多数の名士が参列され、大分県ろうあ学校の生徒によるプラスバンドの演奏、花火も打ち上げられ、県知事と高安慎一太陽の家初代理事長のテープカットで施設が開所されました。作業所は屋外にもプレハブが建てられ、竹工部、義肢装具部、縫製部、木工部で作業場は少なかったが、障がい者と職員を含む12名で太陽の家がスタートしました。正面玄関に太陽の家のマーク、玄関を入ると正面に太陽の家のモットーである『世に身心障害者（児）はあっても仕事に障害はあり得ない』『太陽の家の社員は被護者ではなく労働者であり後援者は投資者である』の額が掲げられていました。社会福祉法人認可や補助金申請作業は専任の牟田氏が夜を徹して作業を行い開所式には申請する書類は出来上がっていました。法人が認可されるまで施設運営費も少なく、食費にも事欠く状態であり、中村先生の御母堂の御支援があり何とか賄われたのであります。作業は、竹工部はおしぼり入れや竹籠作りをしていました。義肢装具部はコルセットの製作、縫製部は婦人服を縫っていました。作業に当たっていた障がい者は慣れぬ仕事でしたが、楽しそうに仕事に打ち込んでいました。

翌年の昭和41年2月14日社会福祉法人の認可が下り、国庫補助金もあり4月には身体障害者収容授産施設に指定されました。これで「社会福祉法人・太陽の家」が発足しました。法人認可の後は、太陽の家入所希望者が増えたための宿舎の建設、第一期工事（第1工場、宿舎、食堂、浴場）、第二期工事（第2・3作業等、道路を挟んである国立病院の用地取得。金工科のパイプ椅子、木工科の早川電気の電気やぐら炬燵工場が稼働を始め、障がい者の工場らしくなりました。開所から1年でありましたが、急速な発展で、障がい者も100名を超え、この後も電子印刷、スチールメジャー組み立て作業、プラスチック成型等々多くの作業が導入されてきましたが、現在の太陽の家の姿になったきっかけは、国の政策である、福祉工場の誘致でした。中村先生と評論家の秋山ちえ子女史が京都にある立石電機株式会社の立石一真社長（当時）に粘り強い福祉工場設置の要請の結果、昭和47年4月、新しい方式として企業、太陽の家と障がい者の3者の共同出資によるオムロン太陽電機株式会社が創業しました。重度障がい者の作業能力が評価され、また障害者雇用促進法の改正で企業が一定率の障がい者雇用が義務づけられ、太陽の家と大規模の製造会社やIT企業などが太陽の家との特例子会社ができ、多くの企業が障がい者の雇用をしていただき太陽の家も大きく発展しました。

現在は別府を本部に、京都、愛知など多くの事業所や協力企業で多くの障がい者が就労し、療護、介護施設では生きがいを求めながら生活をしています。現在就労している障がい者も高齢化し、自立生活に困難をきたしている人もいるのではないかと思います。太陽の家も創立50年になりますが、創立時の精神を思い返し、重度障がい者の就労による自立心を高め、よりQOL（生活の質）をあげる施策を講じていただき、協力企業のもとに、将来に向けてますます発展されることを祈ります。



## 太陽の家

1965年10月5日設立  
〒874-0011  
別府市大字内蔵 1393 番2  
土地合計：27,441.83㎡  
建物合計：34,101.85㎡



## 愛知事業本部

1984年4月1日開所  
〒443-0103  
愛知県蒲郡市形原町北浜 28-1  
土地合計：11,840.00㎡  
建物合計：11,721.06㎡



## 京都事業本部

1986年4月1日開所  
〒601-8155  
京都市南区上鳥羽塔ノ森上河原 37-2  
土地合計：10,029.00㎡  
建物合計：7,986.51㎡



### 日出事業本部

1988年4月1日開所  
〒879-1504  
速見郡日出町大神 1402-6  
土地合計：42,720.63㎡  
建物合計：8,146.49㎡



### 杵築事業本部

2012年3月1日開所  
〒879-1307  
杵築市山香町大字野原字船木 1662番1  
土地合計：5,571.77㎡  
建物合計：4,799.62㎡



### 大分事業本部

2012年3月1日開所  
〒870-0022  
大分市大手町2丁目3-17  
土地合計：747.09㎡  
建物合計：1,027.44㎡



太陽の家  
50年のあゆみ

## 主な研究開発一覧

No.	研究タイトル・事業名	期間	助成団体	助成金額
1	重度身体障害者のための居住実験(実験住宅テトラエース)	1969～1970	あゆみの箱	376万円
2	身体障害者労働医学研究機器整備	1969	日本船舶振興会	600万円
3	労働省委託研究 重度身体障害者労働機能研究	1969	労働省	100万円
4	重度身体障害者に関する労働医学的人間工学的研究	1970	三菱財団	800万円
5	重度身体障害者の労働に関する研究の拡充	1971	三菱財団	1100万円
6	電動車椅子開発研究事業	1972	中央競馬会福祉財団	250万円
7	労働省委託研究 脊髄損傷者に係る合併症の予防および治療に関する研究	1973	労働省	80万円
8	身体障害者機能開発補助事業(1973)	1973	大分県商工労働部労政課	200万円
9	身体障害者機能開発補助事業(1974)	1974	大分県商工労働部労政課	200万円
10	労働省委託研究 労災事故等による頸髄損傷者の工作機器類の改良研究	1974	労働省	150万円
11	重度身体障害者の労働医学的研究	1974	三菱財団	550万円
12	大分県研究事業委託 脳性小児まひリハビリテーション専門研究	1974～1975	大分県	40万円
13	自助具改良開発研究	1975	日本IBM	200万円
14	身体障害者機能開発センター補助事業	1975	大分県商工労働部労政課	180万円
15	重度身体障害者による電動車いすの製作および製作工場システムの開発研究(身障モデル福祉機械工場)	1975	通産省	2000万円
16	作業用座椅子の製作・研究	1976	身体障害者雇用促進協会	100万円
17	リングダックシステムによる重度障害者の新しい職業分野の開拓研究	1977	三菱財団	1000万円
18	身体障害者雇用自立センター展示用機器の開発	1978～1980	身体障害者雇用促進協会	
19	コンピューター利用による重度障害者の適職判定ならびに重度障害者を対象とするコンピューター要員の養成	1979	三菱財団	700万円
20	身体障害者雇用促進協会職域拡大等研究調査委託研究①～⑩	1977～1981	身体障害者雇用促進協会	5950万円
	①重度障害者の雇用管理上の医学的配慮(1977)	1977	身体障害者雇用促進協会	500万円
	②重度障害者の就労状況を通してみた労働能力の向上主に脳性まひ者を中心として(1977)	1977	身体障害者雇用促進協会	500万円
	③重度障害者に対する小型工作機械治具等の改善(1977)	1977	身体障害者雇用促進協会	500万円
	④重度障害者のプラスチック射出成型作業における仕上げ作業の改良(1978)	1978	身体障害者雇用促進協会	750万円
	⑤重度障害者の作業姿勢と作業用椅子・作業用具等の改良(1978)	1978	身体障害者雇用促進協会	150万円
	⑥重度障害者用特殊運搬用具の開発(1978)	1978	身体障害者雇用促進協会	100万円
	⑦重度障害者の職業適性解析、適職配置の近代的評価及び企業内訓練システムの確立。(1979)	1979	身体障害者雇用促進協会	1000万円
	⑧重度障害者用電動台車の開発(1980) 運搬作業の実施に基づく作業効果の測定(1980)	1980	身体障害者雇用促進協会	1000万円
	⑨障害者による電動台車の走行・操作・	1980	身体障害者雇用促進協会	450万円
	⑩重度障害者のための電動台車の開発(継続)(1981)	1981	身体障害者雇用促進協会	1000万円
21	身体障害者の残存能力強化に関する研究	1987	中村裕記念身体障害者福祉財団	200万円
22	シルバーハウジング開発研究	1987～1989	厚生省	1億2000万円
23	高齢身障用モデルハウスの建築	1989	日本船舶振興会、大分県	5119万円
24	シルバーハウジングモデル住宅における高齢老夫婦の生活についての実験実証研究	1990	大分県	160万円
25	寝たきり老人および障害者の在宅介護システムの開発研究	1990	大分県	
26	車いすマラソンのスピード・トレーニング練習機の試作	1992	中村裕記念身体障害者福祉財団	100万円
27	身体障害者の職能評価器具の開発(メカニック検査の標準化)	1992～1994	三菱財団	700万円
28	軽量化判型電動車いす(マニピレータ付)の開発	1992～1994	大分県地域技術起業化支援事業研究	
29	言語障害者に発声練習が与える訓練効果の研究	1994	中村裕記念身体障害者福祉財団	100万円
30	ウェルフェアテクノハウス大分研究会(大分県産学官共同研究)福祉機器の研究①～⑤	1993～2002	大分県地域産学交流研究会	
	①動態調査研究	1996	大分県地域産学交流研究会	
	②福祉機器開発研究推進事業(音響式コース標識システムの試作)	1996	大分県地域産学交流研究会	
	③車いす生活者のための快適生活環境設計	1997	大分県地域産学交流研究会	
	④実生活場面における電動車いすのエネルギー需要評価	1998	大分県地域産学交流研究会	
	⑤歩行/移乗動作解析による障害者トイレの研究開発	1998～2002	大分県地域産学交流研究会	
31	介護データ入力処理装置に関する研究開発(平成14年度新事業創出研究開発事業)	2002	大分県	540万円
32	介護データ記録システムの開発および実証実験	2003	三菱財団	220万円



# The history of 太陽の家 1961~1967

- 1961** (昭和37) 10.22 大分県身体障害者体育大会開催
- 1963** (昭和38) 5. 水上勉「拝啓池田総理大臣殿」を中央公論6月号に発表  
11.10 第1回身体障害者体育大会(山口)
- 1964** (昭和39) 11. 8 東京パラリンピック開催(東京ストークマンデビル大会)
- 1965** (昭和40) 5.10 株式会社別府善意工場の設立計画発表  
9.11 別府リハビリテーションセンター設立発起人会  
9.28 別府リハビリテーションセンター設立準備委員会(太陽の家と名称決定:水上勉氏命名)  
9.30 小野田セメントと土地建物売買契約を結ぶ  
10. 5 太陽の家開所式  
義肢装具部、竹工部、金工部、木工部、洋裁部発足  
11. 6 第1回全国身体障害者スポーツ大会が開催される[岐阜県]
- 1966** (昭和41) 1.中旬 太陽の家東京事務所開設  
2. 1 タイムカードを採用  
2.14 社会福祉法人として認可される  
2.23 アメリカ、グッドウィル社のトレベサン副社長来訪  
3. 8 社会福祉法人成立登記完了  
4. 1 身体障害者授産施設として指定される(定員34名)  
4.16 自治組織「木の芽会」発足  
4.30 アメリカアビリティーズ社ヘンリー・ビスカルディ社長来訪  
6. 3 身体障害者授産施設指定通知受領('66.4.1から定員34名として認可する)  
7.28 寮の名前を決定(九重・鶴見・由布・扇)  
7.30 隣接国有地譲渡契約成立(第1回)  
8.20 木の芽会主催第1回納涼大会  
9. 3 第1期工事(第1工場・宿舍・食堂・浴場)落成式  
10.14 第2期建設工事落成式(第2作業棟、第3作業棟、プール)  
10.18 プール開き  
10.22 昭和天皇皇后両陛下ご視察  
11. 6 皇太子ご夫妻ご視察  
11. 9 理容室営業開始  
12. 1 印刷科発足(杉本印刷所:印刷作業)

- 1967** (昭和42) 1.24 入所定員124名に増加  
2.27 西鉄ライオンズ善意野球チャリティー行事開催[県営球場]  
2.28 姫野国夫・船成道代結婚(結婚第1号)  
5.19 木工科(早川電機株式会社:やぐらこたつ製造)  
クリーニング科(綿久寝具株式会社)発足  
7.18 医務室設置  
11. 1 金工科発足(関西エパーブラック株式会社:レンズキャップ・圧板製造)  
12.17 木の芽会主催クリスマスパーティー開催



▲1965.10 竹工部



▲1965.10 太陽の家開所式



▲1966.10 太陽の家全景(第1・2期工事完了後)



▲1966.7 九重寮・鶴見寮・由布寮・扇寮



▲1966.10 昭和天皇皇后両陛下ご視察



▲1966.11 皇太子ご夫妻ご視察



▲1966.12 印刷科発足



▲1967.5 木工科発足



▲1967.11 金工科発足

# The history of 太陽の家 1968~1971

**1968**  
(昭和43)

- 2.10 第3・4期工事(3階建宿舎・体育館)落成式
- 4. 1 身体障害者労働研究室開設
- 4.25 韓国聖世再活院児童一行来所
- 6. 1 金工科発足(株式会社京都度器製作所:スチールメジャー組立作業)
- 6.19 呼吸スイッチによる自動機および環境制御装置試作1号機公開
- 9.21 身体障害者雇用促進に貢献したことにより労働大臣より表彰
- 10.21 木の芽会主催運動会開催
- 11.12 常陸宮ご夫妻ご視察



▲1968.2 第3・4期工事完了後



▲1968.4 身体障害者労働研究室開設

▲1968.4 韓国聖世再活院一行来訪

**1969**  
(昭和44)

- 1.15 川口鉄工株式会社、関屋化学株式会社他によりプラスチック射出成型機寄贈
- 2.20 プラスチック科発足(湯桶、小鉢の成型)
- 4.19 隣接国有地譲渡契約成立(第2回)
- 7. 4 理事長に中村裕、常務理事に畑田和男就任
- 7. 5 木の芽会主催プール開き
- 7.15 国際ストックマンデビル競技大会に太陽の家から初参加
- 9. 9 電器科発足(ウェストン音機株式会社:ボイスコイル巻き作業)
- 10. 1 入所定員154名に増員
- 10. 2 NHKブックス「太陽の家の記録」出版される



▲1969.2 プラスチック科発足

**1970**  
(昭和45)

- 5.21 心身障害者対策基本法公布・施行
- 6. 2 第2プラスチック科発足(京屋工芸:マネキン製作)
- 10. 1 金工科発足(株式会社田島製作所:スチールメジャー製作)
- 12. 4 四肢まひ者用モデルハウス「テトラエース」オープン
- 12.21 温泉掘削(100m自噴 180リットル/分 温度51°)



▲1970.10 金工科発足(機田島製作所)

**1971**  
(昭和46)

- 身体障害者福祉工場制度化**
- 3.20 公衆浴場「太陽の湯」開設
- 4.18 本館(鉄筋6階建)落成
- 4.18 医療機器科発足(川澄化学株式会社:注射針製造)
- 5. 3 韓国聖再園へ親善訪問(11名)
- 6. 1 重度身体障害者授産施設(定員83名)指定
- 8.18 脊髄損傷者のプッシュアップのための音楽を流し始める
- 8.20 木工科サンアップ発足(サンアップ工芸株式会社:神棚製作)
- 10. 9 秩父宮妃殿下ご視察
- 10.16 身体障害者機能開発センター増築完工
- 10.16 元韓国王妃、李方子氏ご視察
- 12. 1 木工科発足(伏野唐木株式会社:高級紫檀家具製作)電機科発足



▲1970.12 四肢まひ者モデルハウス「テトラエース」オープン



▲1971.3 公衆浴場太陽の湯開設



▲1971.4 本館(鉄筋6階建)落成



▲1971.4 医療機器科発足



▲1971.8 木工科サンアップ発足

# The history of 太陽の家 1972~1975

**1972**  
(昭和47)

- 2. 5 スウェーデンフォーカス運動開始 (Focus movment)
- 4. 1 オムロン太陽電機株式会社設立 (1990.1.1オムロン太陽株式会社に社名変更)
- 4. 1 身体障害者福祉工場およびオムロン太陽電機株式会社創業
- 4. 1 応用資材科発足(オムロン太陽株式会社;電子部品組立)
- 5. 1 工芸科木工発足
- 10. 7 研修センター「憩いの家」落成式



▲1972.2 オムロン太陽電機株式会社設立



▲1972.4 オムロン太陽電機工場創業

**1973**  
(昭和48)

- 3. 5 自治親睦組織「むぎの会」発足(木の芽会は発展的解消)
- 7.26 厚生省社会局「身体障害者福祉モデル都市設置要綱」策定
- 7.27 別府市が国の福祉モデル都市として指定される
- 7.30 むぎの会「太陽新聞」創刊
- 8.29 杵築市塩屋崎に土地約5万9千平方m購入
- 9. 8 オーストラリア・センターインダストリーズのマクレオード理事長来訪、講演会開催
- 10. 1 園芸科発足(みかん園・構内庭園管理)
- 11.10 第1回文化祭実施 展示会(書・華道、フラワーデザイン)、映画会、バザー等を行う
- 11.11 「ハンディキャップべっふガイド」発行(太陽の家関係者を主メンバーとする福祉都市を促進する会が編集)
- 12.24 全従業員が拠金して児童養護施設栄光園へすべり台奇贈



▲憩いの家での結婚式



▲1972.10 研修センター憩いの家開設



▲1973.10 園芸科発足



▲1973.7 ハンディキャップ別向ガイド発行

**1974**  
(昭和49)

- 2. 4 中国スポーツ視察団一行来所
- 5.29 太陽の家東京事務所、サン・インフォメーションセンター(後の身体障害者自立情報センター)開設
- 6. 1 特機科ソニー発足(ソニー株式会社;ラジオ組立)
- 9.20 アピリンピック旋盤の部で杉尾良一3位入賞
- 10.17 「フェスピックに発展途上国を参加させる会」発足、街頭募金開始
- 10.21 特産科発足(株式会社OSK;椎茸包装)
- 12. 2 工芸科つけ発足(有限会社釜我つけ工芸;つけ細工)
- 12.11 韓国聖再園より5名研修開始(1年間)



▲1974.6 特機科ソニー発足



▲1974.10 特産科発足



▲1974.12 工芸科つけ発足



▲1975.1 発明コンクール入賞(ミニチェア)

**1975**  
(昭和50)

- 1.23 発明コンクール入賞(レバー式車いす、和室車いす、航空機内ミニチェア)、奨励賞(バック防止式車いす)
- 4.11 中村理事長「吉川英治文化賞」受賞
- 4.28 企画広報室長吉永栄治が別府市議会議員に初当選
- 5.16 太陽の家前横断歩道に信号機設置(盲人用ミュージックチャイム取付)
- 6. 1 極東南太平洋身体障害者スポーツ大会(フェスピック大会) 選手35名、役員5名参加[大分市・別府市 ~6/3]
- 6. 2 皇太子ご夫妻ご視察
- 6. 2 工作科発足(電動車いす製造)
- 7. 1 太陽二平株式会社を設立
- 10. 5 創立10周年記念式典実施
- 10.17 特機科ソニー森伸吉がアピリンピックのラジオ・テレビ修理部門で第2位入賞
- 11.19 中村裕著「太陽の仲間たちよ」講談社より刊行
- 12. 9 「障害者の権利宣言」が決議される(第30回国連総会)



▲1975.6 工作科発足



▲1975.4 吉永栄治、別府市議会議員に当選

## The history of 太陽の家 1976~1979

- 1976**  
(昭和51)
- 3. 1 県知事他へ福祉システム村構想(サニー・ニュータウン)提出
  - 5.28 身体障害者雇用促進法の一部改正(雇用の義務化、雇用納付金制度の創設)
  - 6.28 オーストラリア・センターインダストリーズのマクレオド所長講演会
  - 7. 1 身障者用環境制御装置:リングダック説明会実施
  - 7. 1 工芸科カナクラ発足(有限会社金倉仏光堂:仏壇金箔作業)
  - 7. 5 大分県福祉の町づくり委員会が開かれる
  - 10. 1 特修科発足
  - 11. 8 スウェーデン・エーテポリ大学のスペン・オルフ・ブラッドゴールド教授講演会
  - 11.24 杵築農園体験実習



▲1976.7 リングダック説明会



▲1976.7 工芸科カナクラ発足

- 1977**  
(昭和52)
- 5.18 オランダ・アーネムの身障者の町「ヘット・ドルブ」創設者:アリ・クラブワイク博士講演会
  - 8. 1 トンガ王国研修生2名受入れ(~11/9)
  - 9.22 労働衛生週間の行事として、第1回職場対抗バドミントン大会開催(~1989年)
  - 10. 1 電子科TI発足(日本テキサスインスツルメンツ株式会社:IC外觀検査)
  - 11.13 第2回フェスピックオーストラリア大会応援ツアー(~23日)
  - 11.20 第2回フェスピックオーストラリア大会選手5名、役員2名参加(~11/26)
  - 12. 1 商業科サンストア発足
  - 12.11 スーパーマーケット「サンストア」開店
  - 12.17 別府市ロードレース大会車いす部門に9名参加



▲1977.8 トンガ王国研修生



▲1977.12 スーパーマーケット「サンストア」開店



▲1977.12 別府市ロードレース大会

- 1978**  
(昭和53)
- 1.14 障害者住宅整備資金貸付制度が創設される
  - 株式会社サンインダストリー設立('81.9.「ソニー・太陽株式会社」に社名変更)
  - 1.15 第2作業棟落成式
  - 1.15 「太陽の家讃歌」「一粒の麦」「応援歌」発表
  - 2.23 有限会社タキ商会大分営業所(上野茂所長)が太陽の店内で車いす修理開始
  - 4.27 韓国・太田市聖再園の聖世再活院開院式出席のため訪問旅行23名(~5/1)
  - 6. 1 電機科発足(オムロン太陽株式会社:リレー部品組立)
  - 7. 1 精機科発足(ホンダ太陽株式会社:スピードメーターの部品組立)
  - 11. 8 三笠宮妃殿下ご視察
  - 12.16 別府市車いすロードレース大会(3km)に3名参加



▲1978.1 第2作業棟落成式



▲1978.7 精機科発足



▲1978.11 三笠宮妃殿下ご視察

- 1979**  
(昭和54)
- 4. 1 新作業員制度発足
  - 4.15 身体障害者職能開発センター完工
  - 8. 1 プラスチック科杵築作業所発足
  - 9.21 コンピュータ・プログラマーの養成講座開講
  - 10.12 日本障害者職業リハビリテーション研究大会、太陽の家で開催(~13日)



▲1979.4 身体障害者職能開発センター完工



▲1979.8 杵築作業所発足

# The history of 太陽の家 1980~1983

**1980**  
(昭和55)

- 5.16 身障スポーツ創立20周年記念身体障害者競技大会(～18日)
- 5.18 国際技能競技大会のプレ大会を太陽の家で開催「ザ・よっちょいで」コンサート(永六輔・坂本九ら出演)
- 6.21 情報処理科発足(三菱商事太陽株式会社:プログラミング)
- 6.24 電動車いす「太陽」初出荷
- 7. 3 大分銀行太陽の家支店竣工式(コミュニティーセンター1・2階)
- 7. 9 大分銀行太陽の家支店開店
- 9.26 厚生省 在宅障害者サービス事業創設
- 11. 3 中村理事長「西日本文化賞」受賞
- 11. 7 中国武漢市第二病院に車いす1台寄贈
- 12.11 国連、国際障害者年(IYDP)を決議、「完全参加と平等」を宣言する
- 12.25 むぎの会15周年記念写真集発行



▲1980.6 情報処理科発足



▲1980.7 大分銀行太陽の家支店開店



▲1980.6 電動車いす「太陽」初出荷



▲1980.7 大分銀行太陽の家支店開店

**1981**  
(昭和56)

- 3.21 コミュニティーセンター開設
- 4. 1 重度身体障害者更生援護施設「ゆたか寮」開所
- 4.17 応用訓練科発足
- 4.19 「わたぼうしコンサート」開催
- 5.26 中村理事長、障害者福祉功労者として「厚生大臣表彰」受賞
- 8. 3 工作科で八重洲リハビリ株式会社の車いす生産開始
- 9. 1 制御機器科発足(オムロン太陽株式会社:リレー部品組立)
- 9.16 国際アピリンピック出場外国選手研修受入れ(9カ国32名、～10/16)
- 9.25 ホンダ太陽株式会社設立
- 9.29 第1作業棟落成式、操業開始
- 10. 1 三笠宮寛仁殿下ご視察  
重度身体障害者授産施設定員増員(145名から175名へ)
- 10.17 第1回国際アピリンピック開催 51カ国850名参加[東京]
- 10.30 第1回大分国際車いすマラソン大会前夜祭
- 10.31 「われら人間コンサート」開催  
三笠宮妃殿下ご視察
- 11. 1 第1回大分国際車いすマラソン大会(14カ国118名参加)
- 11. 3 中村理事長「大分県功労者表彰」受賞  
太陽の家「大分合同新聞文化賞特別功労賞」受賞  
中村理事長「内閣総理大臣賞」受賞



▲1981.4 重度更生援護施設「ゆたか寮」開所



▲1981.8 工芸科で車いす生産開始



▲1981.10 第1作業棟落成、操業開始



▲1981.11 第1回大分国際車いすマラソン大会

**1982**  
(昭和57)

- 3.23 国際障害者年(メインテーマ・完全参加と平等)「障害者対策に関する長期計画」策定される(総理府)
- 5.24 愛知より明石会研修生受入れ
- 7.19 韓国車いす楽団「ベテスタ弦楽四重奏団」の演奏会開催
- 10.30 第3回フェスピック香港大会応援ツアー(～11/2)
- 10.31 第3回フェスピック香港大会(～11/7)



▲1982.5 明石会研修生受入れ



▲1982.7 韓国ベテスタ弦楽四重奏団演奏会

**1983**  
(昭和58)

- 7. 1 愛知太陽の家建設準備室開設
- 12. 1 三菱商事太陽株式会社設立

## The history of 太陽の家 1984~1987

- 1984**  
(昭和59)
- 1.27 中村理事長「朝日社会福祉賞」受賞
  - 3.30 デンソー太陽株式会社設立
  - 4. 1 愛知太陽の家開所 身体障害者福祉工場開設  
電装科発足(デンソー太陽株式会社:自動車部品製造)
  - 4. 4 中国武漢市へ車いすスポーツ指導
  - 4.20 常陸宮ご夫妻、愛知太陽の家ご視察
  - 4.21 **第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会開催[蒲郡市]**
  - 5.25 中国身障スポーツ視察団(張自覚団長)来訪  
視察団にスポーツ用車いす66台寄贈
  - 6.28 オムロン(株)創業者・立石一真氏の胸像除幕式
  - 7.23 創設者・中村裕理事長逝去(57才)
  - 7.26 畑田和男常務理事、理事長に就任
  - 7.28 故中村裕博士告別式(井深大葬儀委員長 約3千人参列)
  - 8. 3 愛知太陽の家むぎの会発足
  - 8. 7 **身体障害者福祉法が改正され、身体障害者の範囲が拡大、費用徴収規定の追加**
  - 10. 3 中曽根康弘総理大臣来訪
  - 12.25 「中村裕先生を偲ぶ」追悼集を作成

- 1985**  
(昭和60)
- 3. 6 オムロン京都太陽株式会社設立
  - 4. 1 機材科発足(ホンダ太陽株式会社:自動車部品組立)
  - 4.15 京都太陽の家研修生受入れ
  - 7.27 第1回愛知太陽の家むぎの会納涼大会
  - 8.19 京都太陽の家建設準備室開設
  - 8.31 創立20周年記念レクリエーションキャンプ大会[住吉浜]
  - 9.30 愛知太陽の家コミュニティセンターに蒲郡信用金庫太陽の家支店・喫茶ふるさと開店
  - 10. 5 創立20周年記念式典実施中村裕博士像除幕式  
創立20周年を記念して中村裕博士像裏にタイムカプセル埋設(2015年開封)
  - 10.12 愛知太陽の家コミュニティセンター落成式
  - 11.28 永六輔氏一行による演芸会開催

- 1986**  
(昭和61)
- 4. 1 **障害基礎年金創設・実施**  
京都太陽の家開所 身体障害者福祉工場開設  
制御機器科発足(オムロン京都太陽株式会社:電子部品組立)
  - 5. 6 書籍「すすめ太陽をあびて」(きりぶち輝著)を大分県内の小・中学校に寄贈
  - 8.31 第4回フェスピックインドネシア大会(~9/7)
  - 8.31 第4回フェスピックインドネシア大会応援ツアー(~9/4)
  - 9.12 第2回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会[オランダ:アーネム]
  - 11. 1 故中村裕博士メモリアルセミナー開かれる[大分市]
  - 12. 6 第1回日本車椅子ツインバスケットボール大会参加
  - 12.25 京都太陽の家むぎの会発足

- 1987**  
(昭和62)
- 4.16 財団法人中村裕記念身体障害者福祉財団設立[大分市]
  - 7. 1 サン・コミュニティ・大神建設準備室開設
  - 8. 1 第1回サマーフェスティバル(京都太陽の家納涼大会)
  - 9. 1 **精神保険法制定**
  - 10.20 京都勤労身体障害者教養文化・体育施設「サン・アビリティーズ京都」落成式



▲1984.4 愛知太陽の家開所



▲1984.4 第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会



▲1984.7 故中村裕博士告別式



▲1985.4 京都太陽の家研修生受入れ



▲1985.10 中村裕博士像除幕式



▲1985.8 創立20周年記念レクリエーション

### 京都太陽の家 開所式



▲1986.4 京都太陽の家開所



▲1986.11 故中村裕博士メモリアルセミナー開かれる

# The history of 太陽の家 1988~1991

- 1988** (昭和63)
- 3.20 愛知太陽の家工場増築工事落成式
  - 4. 1 身体障害者療護施設「ゆうわ」開所
  - 6. 1 身体障害者福祉ホーム「大神ハイツ」開所
  - 7. 1 太陽の家のシンボルマーク変更  
(デザインは大蔵善雄氏)
  - 7. 2 サン・コミュニティ・大神開所式
  - 10.14 ソウルパラリンピック応援旅行(～10/18)大分空港よりチャーター便176名参加
  - 10.20 太陽の家「大分県知事表彰」
  - 10.27 「中村裕伝」発刊記念 水上勉先生講演会
- 1989** (平成1)
- 2. 2 トヨタ自動車株式会社の豊田章一郎社長視察[愛知]
  - 4.11 IBMウェルフェアコンサート[愛知]
  - 4.17 愛知太陽の家創立5周年記念式典
  - 4.20 太陽の家広報誌「太陽通信」発行
  - 4.30 韓国明暉園の李方子理事長逝去
  - 7.14 中村裕博士を偲ぶ会[大分市]
  - 7. 8 第5回フェスピック神戸大会聖火採火式[別府本部玄関前]
  - 9.14 第5回フェスピック神戸大会応援ツアー(～16日)
  - 9.15 第5回フェスピック神戸大会 選手9名、役員2名参加(～20日)
  - 10.27 愛知太陽の家創設に尽力された明石六郎氏逝去(85才)
  - 11. 2 常陸宮ご夫妻サン・コミュニティ・大神ご視察
  - 11. 2 モデルハウス「年輪」竣工式
- 1990** (平成2)
- 2. 1 有限会社大分タキ(上野茂代表取締役)太陽の家に設立
  - 3.11 韓国より研修生受け入れ[京都]
  - 4. 1 身体障害者ショートステイ事業開始[ゆうわ]
  - 4. 6 大規模修繕工事完了(別府本部、本館2.5.6階)
  - 5.17 韓国聖再園を訪問し、姉妹施設の締結(～20日)
  - 5.23 三菱商事株式会社よりコンピューターとソフトの寄贈贈呈式開催
  - 6.22 福祉八法の改正(在宅福祉サービスの推進、市町村へ一元化)
  - 7. 3 コミュニティセンターに「蒲郡市立図書館太陽の家分室」開設[愛知]
  - 7. 7 創立25周年記念「われら人間コンサート」[大分市コンバルホール]
  - 7.10 身体障害者デイサービス事業開始[ゆうわ]
  - 7.26 ADA(障害を持つアメリカ人法)公布
  - 9. 5 創立25周年記念むぎの会大運動会
  - 10.27 秋篠宮ご夫妻サン・コミュニティ・大神ご視察
- 1991** (平成3)
- 1.12 オムロン株式会社相談役・立石一真氏逝去(90才)
  - 3.15 創立25周年記念パネルディスカッション開催
  - 4. 5 機能強化研修棟「サン スポーツセンター」竣工
  - 4.13 宿泊施設「憩いの家」オープン
  - 4.19 京都太陽の家創立5周年記念式典
  - 5. 1 福祉ホーム「大神ハイツ」が増築され、定員30名から60名に増員
  - 7. 1 身体障害者通所授産施設開所(定員50名)
  - 7. 1 ソニー・太陽株式会社日出工場増設



▲1988.4 身体障害者療護施設「ゆうわ」開所



▲シンボルマーク(旧)



▲1988.6身体障害者福祉ホーム「大神ハイツ」開所



▲1988.7シンボルマーク(新)



◀1989.7 第5回フェスピック神戸大会聖火採火式



▶1989.11 モデルハウス「年輪」



▲1990.5 韓国聖再園と姉妹施設締結



▲1990.7 創立25周年記念「われら人間コンサート」



▲1990.10 秋篠宮ご夫妻サン・コミュニティ・大神ご視察



▲1991.3 創立25周年記念パネルディスカッション開催

## The history of 太陽の家 1991~1994

- 1991**  
(平成3)
- 7. 6 新作業棟(第1作業棟)・食堂竣工
  - 8. 4 福祉ホーム、ソニー・太陽株式会社日出工場竣工
  - 8. 5 本田技研工業株式会社最高顧問本田宗一郎氏逝去(84才)
  - 8.28 オムロン株式会社から京都太陽の家創立5周年を記念してサンルーム「ひまわり」寄贈
  - 9. 1 身体障害者通所授産施設へ知的障害者の相互利用受け入れ開始
  - 9. 6 韓国聖二園交歓会、歓迎レセプション
  - 9. 7 太陽の家創立25周年記念式典、25周年記念ソニー吹奏楽団コンサート
  - 10. 5 むぎの会主催による亀川地区の清掃奉仕活動

- 1992**  
(平成4)
- 2.17 カンボジアより車いす修理研修生受入れ(~3/30)
  - 4. **E S C A P「アジア太平洋障害者の十年」決議(1993年~2002年)**
  - 4. 6 FJ機器科発足(富士通カスタマエンジニアリング株式会社:ATMメンテナンス)
  - 5.29 第1回日本車いすスポーツ研究会開催[大分市](’02.1.25 日本障害者スポーツ研究会に改名)
  - 7.17 ホンダオールアンドア太陽株式会社設立
  - 10.24 ノーベル経済学賞受賞者ワシリー・レオンチェフ教授来訪

- 1993**  
(平成5)
- 3.25 オムロン株式会社寄贈によるサン・クラブ開設式
  - 5. 1 身体障害者通所授産施設分棟杵築工場開設
  - 5. 6 「福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律」公布
  - 5. 8 「秋山ちえ子の談話室」1万回感謝のつどい[コミセンホール]
  - 7. 9 「フェスピック大会への参加を支援する会」発起人会及び設立総会[東京]
  - 10. 1 常陸宮ご夫妻、京都太陽の家ご視察
  - 11.30 本館3階宿舍改造工事完了し、鶴見寮居住者が本館移動
  - 12. 3 「障害者基本法」公布(法律名称の改正、精神障害を初めて含む障害者の日を規定、障害者基本計画の策定義務化)

- 1994**  
(平成6)
- 4. 1 工芸科発足
  - 4.13 愛知太陽の家創立10周年記念式典
  - 6.17 少年マガジン別冊「太陽の仲間たちよ」講談社より発行
  - 6.29 「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」公布(ハートビル法)
  - 8. 1 亀の井バスのリフト付き路線バスが運行開始「太陽の家前」のバス停設置
  - 8. 4 皇太子殿下サン・コミュニティ・大神ご視察
  - 9. 3 第6回フェスピック北京大会応援ツアー(~9/7)
  - 9. 4 第6回フェスピック北京大会 選手2名参加(~9/10)
  - 9. 6 畑田理事長がフェスピック連盟会長就任
  - 12. 9 障害者の日「1200人の第九」に参加[京都]
  - 12. **障害者基本法に基づく初めての障害者白書を刊行(厚生省)**



▲1991.7 新作業棟(第1作業棟)・食堂竣工



▲1991.9 創立25周年記念ソニー吹奏楽団コンサート



▲1992.4 FJ機器科発足



▲1993.3 オムロン株式会社寄贈によるサン・クラブ開設式



▲1993.5 「秋山ちえ子の談話室」1万回感謝のつどい



▲1994.4 工芸科発足



▶1994.6 少年マガジン別冊「太陽の仲間たちよ」発行



▲1994.8 皇太子殿下サン・コミュニティ・大神ご視察



# The history of 太陽の家 1995~1998

## 1995 (平成7)

- 3. 1 太陽の家創立30周年記念作文募集
- 4. 3 京都太陽の家に京都中央信用金庫のATM設置
- 5.25 カンボジアの研修生2名、大分タキで車いす製造研修
- 6. 7 ホンダ太陽株式会社日出工場、ホンダR&D太陽株式会社竣工式
- 7. 2 三笠宮ご夫婦、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察  
別府、愛知、京都各むぎの会で阪神淡路大震災の募金活動
- 7. 3 富士通カストマ太陽株式会社設立('01.7.3 富士通エフサス太陽に社名変更)
- 7. 8 高円宮ご夫婦、愛知太陽の家ご視察
- 8. 5 国内初のパラカヌー大会[大分県犬飼町]に太陽の家から参加
- 10. 8 太陽の家創立30周年記念式典を別府市内のピーコンプラザで開催
- 10.27 清子内親王妃殿下、別府本部ご視察
- 11.22 オムロン太陽株式会社社長、オムロン京都太陽株式会社社長の立石孝雄氏逝去(63才)
- 12. 障害者対策推進本部「障害者プラン(ノーマライゼーション7カ年戦略)」を策定
- 12. 1 職能開発センター隣接地991平方m購入

## 1996 (平成8)

- 4.11 京都太陽の家創立10周年記念式典
- 5.15 韓国の姉妹施設「聖再園」創立30周年記念式典に畑田理事長ら20名が出席
- 10. 7 公衆浴場太陽の湯改築竣工
- 10.11 鶴見寮取り壊し
- 11. 3 畑田理事長「大分合同新聞文化賞」受賞
- 12. 4 むぎの会主催クリスマスイルミネーションツリー点灯式

## 1997 (平成9)

- 2.10 フェスピック車いすバスケットボール講習会(～11日 タイ:バンコク)
- 3. 5 オムロン京都太陽株式会社の山本忠明社長逝去(63才)
- 3. 8 サンストア移転・新築(大分県福祉のまちづくり条例認定第1号)竣工式、開店特売セール
- 4.14 造景工事(庭園整備、ロータリー、中庭等)[京都]
- 7. 1 サンストア跡に電子印刷センターとプラスチック科が移転、工場拡張
- 7.24 常陸宮ご夫妻、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察
- 8. 1 太陽の家広報誌「太陽通信」100号発行
- 9.24 ホンダ太陽株式会社の山下猛常務逝去(49才)
- 10.18 別府湾ヨットセーリングアドベンチャー
- 12. 2 サン・コミュニティ・大神でサン・プラザ起工式
- 12. 9 太陽の家「内閣総理大臣表彰」(障害者関係功労者)
- 12.15 大規模修繕工事[京都]
- 12.19 ソニー株式会社創業者、太陽の家の会長の井深大氏逝去(89才)

## 1998 (平成10)

- 1.19 太陽の家「1977年度」JMA総合マーケティング奨励賞」受賞
- 1.21 井深大氏お別れ会[東京]
- 1.31 大規模修繕工事完了[愛知]
- 3.31 オムロン京都太陽株式会社、京都太陽の家国際規格ISO14001認証取得
- 4. 7 京都太陽の家で故山本忠明オムロン京都太陽株式会社前社長のメッセージ銘板除幕式



▲1995.7 高円宮ご夫妻、愛知太陽の家ご視察 ▲1995.8 国内初パラカヌー大会参加



▲1995.10 創立30周年記念式典



▲1995.10 清子内親王妃殿下、別府本部ご視察



◀1996.4 京都太陽の家 創立10周年記念式典



▶1996.10 太陽の湯



▲1997.3 サンストア移転・新築



▲1997.12 ソニー株式会社創業者、太陽の家の会長の井深大氏(中央)逝去

# The history of 太陽の家 1998~2000

**1998**  
(平成10)

- 4.14 身体障害者療護施設「ゆうわ」創立10周年記念式典、食卓会
- 7. 1 障害者法定雇用率が1.6%から1.8%へ
- 7.14 兵庫県小林氏より大分県ヨット連盟を通じてヨット2艇寄贈 平松知事命名「豊の国元気号」「豊の国勇気号」
- 7.27 駐日アルゼンチン大使夫人ポリャ・フェルマンさんピアノコンサート[サンプラザ]
- 10.19 皇太子ご夫妻、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察



▲1998.7 小林氏よりヨット2艇寄贈



▲1998.10 皇太子ご夫妻、ホンダ太陽日出工場ご視察

**1999**  
(平成11)

- 1. 9 第7回フェスティックバンコク大会応援ツアー(～1/14)
- 1.10 第7回フェスティックバンコク大会(～1/16)
- 3.29 身体障害者療護施設「ゆうわ」30床増床竣工式
- 4. 1 タイ王国ナロン上院議員来訪[愛知]
- 4. 3 株式会社デンソーがNPO法人「アジア車いす交流センター」を設立、畑田理事長が同センター理事長就任
- 4. 7 デイサービスセンターゆうわ開所式
- 4.10 書籍「博士の遺言～共に生きるとは～」(大分合同新聞社編)発売
- 5.12 タイ労働省ホンサクラ副大臣一行12人視察
- 5.15 愛知太陽の家創立15周年記念 黒部・立山アルペンルート旅行(～16日)
- 6.19 愛知太陽の家創立15周年記念蒲郡プリンスホテル食卓会
- 9. 6 大分銀行太陽の家支店に障害者対応のATM設置
- 10.28 スウェーデンのゴスペル歌手レーナ・マリアさん来訪
- 11. 6 英国ストックマンデビル病院のハンス・フランケル前院長ご夫妻来訪
- 11.15 故本田宗一郎夫人より新種のチューリップ2種の球根99球寄贈
- 12. 3 「太陽通信」第3回福祉広報誌コンクール(大分合同福祉事業団主催)優秀賞受賞
- 12. 5 ゆうわの庭園完成



▲1999.4 書籍「博士の遺言」発売



▲1999.9 大分銀行太陽の家支店に障害者対応のATM設置



▲1999.4 デイサービスセンターゆうわ開所式



▲2000.4 天皇・皇后両陛下、サン・コミュニティ・大神ご視察

**2000**  
(平成12)

- 2.27 デンソー太陽株式会社・愛知太陽の家国際規格ISO14001認証取得
- 3.23 株式会社タジマツールの田島宏一会长逝去(81才)
- 3.27 アジア車いす交流センター(WAFCA)の協力によりタイに初の車いす工場完成
- 4. 1 厚生省「介護保険法」施行
- 4.22 天皇・皇后両陛下、サン・コミュニティ・大神ご視察
- 4.27 京都太陽の家体育館「重度体育室(プレイルーム)」運用開始
- 5.17 建設省「高齢者・身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」成立
- 4. 1 太陽の家運営調整委員会設置
- 6. 2 別府市人にやさしいまちづくり整備計画による別府本部の歩道拡幅完了・通り初め式
- 6.30 太陽の家杵築工場に第2工場竣工
- 7.30 秋篠宮ご夫妻、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察
- 9. 1 愛知太陽の家運営調整委員会設置
- 10. 6 太陽の家歴史資料館オープン
- 10.20 カンボジアのマリー・ラナリット妃殿下・平松守彦大分県知事夫人来訪
- 11.22 太陽の家別府本部、国際規格ISO14001認証取得



▲2000.10 太陽の家歴史資料館オープン



▲2000.11 太陽の家別府本部、ISO14001認証取得



▲2000.7 秋篠宮ご夫妻、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察

# The history of 太陽の家 2001~2003

**2001**  
(平成13)

- 1. 1 京都太陽の家運営調整委員会設置
- 1.16 社会福祉法人身体障害者自立情報センターが障害者自立情報センターと改名し、東京から大分に事務所を移転
- 1.30 福祉工場大規模改修工事完了
- 2.24 高円宮ご夫妻、京都太陽の家ご視察
- 3.31 35周年記念資料集「亀川地区の変遷」発行
- 4. 1 環境科発足(清掃業・環境整備)
- 4.10 愛知太陽の家ホームページ開設  
(<http://www.aichi-taiyonoie.co.jp>)
- 8.26 第1回大分県障害者技能競技大会、ホンダ太陽株式会社日出工場で開催
- 9. 1 ホンダR&D太陽株式会社社員6名、ソーラーカーでオーストラリア大陸横断(~9/10)
- 10. 6 京都太陽の家創立15周年記念旅行(~10/7 倉敷)
- 10.27 第1回全国障害者スポーツ大会、宮城県で開催(~10/29 身体障害者と知的障害者の全国大会を統合)
- 11.12 第25回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)で情報処理科宮崎健太さん銀メダル

**2002**  
(平成14)

- 3.31 さくら寮改修工事完了  
本館・さくら寮エレベーター耐震強化改修工事完了
- 4. 1 太陽の家公式ホームページ開設  
(<http://www.taiyonoie.or.jp>)
- 4.29 吉永栄治事務局長「黄綬褒章」受章
- 5.14 韓国の姉妹施設、聖再園理事長の南認均博士逝去(78才)
- 7.26 身体障害者療護施設ゆうわ利用者の親睦組織「ひので会」発足
- 9.10 太陽の家あり方検討委員会発足(中村太郎委員長 全4回開催)
- 10.21 第8回フェスピック釜山大会(~11/1)
- 10.25 第8回フェスピック釜山大会応援ツアー(~10/28)
- 11. 3 中村裕記念身体障害者福祉財団の中村廣子理事長、大分県知事表彰
- 12. 「障害者基本計画」を策定(閣議決定)

**2003**  
(平成15)

- 2.28 ゆたか寮大規模修繕工事(トイレ集合化)および浴室拡張工事完了
- 3.31 「太陽通信集大成版」発行(創刊号:1989年4月~第167号:2003年3月)
- 4. 1 障害者措置費制度から支援費制度施行
- 5. 1 健康増進法施行
- 6.17 中村太郎理事、副理事長に就任
- 6.20 国立別府病院所有の土地、譲渡契約締結('04.1.19駐車場整備)
- 7. 1 体育館名称変更  
「京都市障害者教養文化・体育会館」[京都]
- 7. 2 愛知県の神田真秋知事視察[愛知]
- 7.18 高円宮久子妃殿下、ホンダ太陽株式会社日出工場ご視察
- 7.31 映画「ウィニング・パス」の撮影が太陽の家で行われる(~8/3)
- 10. 3 身体障害者療護施設「ゆうわ」創立15周年記念食事会
- 12. 8 太陽の家あり方検討委員会報告書に「20の提言」をまとめる



▲2001.2 高円宮ご夫妻京都太陽の家ご視察 ▲2001.4 環境科発足



▲2001.11 アビリンピックで情報処理科宮崎健太さん(中央)銀メダル



▲2002.4 太陽の家公式ホームページ開設 ▲2002.5 聖再園理事長南博士(中央)逝去



▲2002.9 太陽の家あり方検討委員会発足



▲2002.10 フェスピック釜山大会応援ツアー



▲2003.7 映画「ウィニング・パス」の撮影が太陽の家で行われる

# The history of 太陽の家 2004~2005

**2004**  
(平成16)

- 3. 9 大分県の広瀬勝貞知事視察
- 3.31 太陽の家歴史資料館リニューアル
- 4. 1 太陽の家授産場・重度授産場を廃止し、第一授産センター、第二授産センター、第三授産センターに再編成
- 4. 1 福祉用具科発足(有限会社大分タキ:車いす等のメンテナンス業務)
- 4.17 愛知太陽の家創立20周年メモリアルパーティー開催
- 4.21 太陽の家障害者生活支援センター開所[日出町]
- 5.23 第18回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会で太陽の家プレイカースが初優勝
- 6. 1 **バリアフリーに関する関係閣僚会議「バリアフリー化推進要綱」決定**
- 6.14 別府本部で第1期社会復帰特別コースが開講し、11名の訓練開始
- 6.23 三菱商事太陽株式会社20周年記念パソコン教室開始
- 7.10 中村裕博士没後20年記念レスポシンポジウム開催[大分市]
- 7.11 中村裕博士没後20年記念会開催[大分市]
- 7.14 書籍「車いすマラソン〜大分から世界へのメッセージ〜」(中村太郎編集)発売
- 7.23 中村裕記念身体障害者福祉財団中村廣子理事長より中村裕博士銅像に献花台寄贈
- 9. 8 作家・太陽の家命名者水上勉氏ご逝去(85才)
- 10. 1 障害者のための職業訓練「モノづくりコース」開講(~12/24)
- 10.31 **日本障害フォーラム(JDF)設立**
- 11.30 **厚生労働省より「福祉関係事業者における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン」通知**
- 12.10 JICA(国際協力機構)との間で「マレーシア国への車いす製造技術移転および車いすバスケットボール普及事業」開始
- 12.24 **厚生労働省より「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」通知**

**2005**  
(平成17)

- 1.21 ホームヘルプセンターゆうわ開所[日出町]
- 2. 8 嘱託医の井口竹彦先生「第33回医療功労賞」受賞
- 2.14 ケアプランサービスセンターゆうわ開所[日出町]
- 3.17 リユースパソコン寄贈プログラム事業を開始
- 3.31 身体障害者通所授産施設分場杵築工場を廃止
- 3.31 簡易住宅「太陽住宅」、雇用・能力開発機構より購入(80世帯分)
- 4. 1 身体障害者通所授産定員50名から60名に増員(相互利用15名から20名に増員)
- 4.29 畑田和男理事長「瑞宝小綬章」受賞
- 5.14 韓国聖再園創立40周年記念式典に畑田理事長ら出席
- 9. 7 障害者相談支援センターたいよう開所
- 10. 5 太陽の家創立40周年記念式典
- 11. 2 秦野晃郎監事「黄綬褒章」受章
- 11.24 マレーシアにて JICA事業「車いす製造技術講習会」~12/11
- 11.25 FESPIC連盟総会(中国北京)で、2006年FESPIC大会時にアジアパラリンピック協議会と合併した「アジアパラリンピック委員会」の設立を承認
- 12.26 愛知事業本部 民間優良施設として蒲郡福祉工場が御下賜金を賜る



▲2004.3 大分県の広瀬勝貞知事視察



▲2004.4 福祉用具科発足



▲2004.4 愛知太陽の家創立20周年メモリアルパーティー開催



▲2004.5 日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会でプレイカース初優勝



▲2004.7 中村裕博士没後20年記念会開催



▲2004.9 作家・太陽の家命名者水上勉氏逝去



▲2004.12 大分タキでの車椅子製造技術研修



▲2005.3 リユースパソコン寄贈プログラム事業を開始



▲2005.5 韓国聖再園創立40周年記念式典



▲2005.10 創立40周年記念式典

# The history of 太陽の家 2006~2007

**2006**  
(平成18)

- 1.19 マレーシアにてJICA事業車いす製造技術講習会 (~2/7)
- 3. 1 「障害者相談支援センターたいよう」移転オープン
- 3. 8 畑田和男理事長退任
- 3. 9 中村太郎副理事長が理事長に、吉松時義理事が常務理事に就任
- 3. 9 太陽の家顧問に秋山ちえ子氏就任
- 4. 1 「障害者自立支援法」施行
- 4. 5 京都事業本部およびオムロン京都太陽株式会社創立20周年記念式典
- 4.20 サンストア内に手作りパン工房「カサ・デル・ソル」開店。商業科にてパンの製造・販売開始
- 6. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(バリアフリー新法)公布
- 6.15 元内閣総理大臣 村山富市氏来訪
- 10. 1 「障害者自立支援法」施行 (障害の種別・サービス提供の一元化、利用者負担は応益負担)
- 10.13 三菱商事株式会社 小島順彦社長来訪
- 10.23 ホンダ太陽株式会社創立25周年記念式典開催
- 10.28 第16回日本障害者スポーツ学会が開催され、学会長を中村理事長が務める
- 10.29 第26回大分国際車いすマラソン大会でオムロン太陽株式会社の笹原廣喜選手が日本人初のフルマラソン優勝
- 11. 2 有限会社大分タキ 上野茂会長「黄綬褒章」受章
- 11.16 富士通株式会社 黒川博昭社長来訪
- 11.24 第9回フェスピックマレーシア大会応援ツアー (~11/28)
- 11.27 第9回フェスピックアラルンプル大会[マレーシア](11/25~12/1)今後はアジアパラピックとして発展的に継承される。
- 12.15 韓国障害者雇用促進公団(KEPAD)朴理事長来訪。「障がい者雇用促進に関する合意書」を調印
- 12.19 元自治大臣 野中廣務氏来訪
- 12. 耐震補強工事(さくら寮、第2作業棟、大分銀行太陽の家支店、自立生活トレーニングセンターゆたか)

**2007**  
(平成19)

- 1. 「No Charity, but a Chance! ~人間としての尊厳が保たれる社会の実現~」という新たな理念に変更
- 2.15 2004年度より取組んだJICA委託事業「東南アジアにおける車いす製造技術移転および車いすスポーツ普及講習」を終了
- 5.11 韓国 李相洙(イ・サンス)労働部長官視察
- 7. 2 知的障がい者トライアル短期訓練開講
- 8.20 亀川サンクリニックの設置工事に伴い太陽の家歴史資料館を移転
- 8.29 ソニー・太陽株式会社が内閣総理大臣表彰「第2回ものづくり日本大賞」の優秀賞受賞
- 9. 8 第2回ソーシャル・ビジネス・アワードにて、太陽の家グループ(共同出資会社8社と太陽の家)が「ソーシャル・ビジネス賞」を受賞
- 9.28 日本が「障害者の権利に関する条約」に署名



▲2006.4.5 オムロン太陽&京都太陽の家20周年記念 作田社長あいさつ



▲2006.4.20カサデルソル開店



▲2006.6.15村山元首相来訪



▲2006.10.29 車いすマラソン02 (177)笹原インタビュー



▲2006.12.15 障がい者雇用促進に関する合意書調印朴理事長(左)と中村理事長



▲2007.9.8 第2回ソーシャル・ビジネス賞



▲2007.10.1 亀川サンクリニック開院

# The history of 太陽の家 2007~2009

**2007**  
(平成19)

- 10. 5 亀川サンクリニック開院
  - 10. 5 創立42周年記念式典開催(公開セミナー、献花式、亀川サンクリニック開所式)
  - 10. 5 フェスピックモニュメント「拓(ひらく)」除幕式
  - 10.29 株式会社デンソー斎藤明彦会長来訪
  - 11. 9 太陽の家企業会主催で中村裕のDNAを次世代に継承することを目的とした研修会(第2回)開催
  - 12. 1 別府市JR亀川駅にエレベーターが設置
  - 12. 3 三菱商事太陽株式会社北海道事務所開設
  - 12. 6 サンスストア創業30周年
- 関連企業と福祉工場で、精神障がい者を初めて受入れる  
地域活動支援センター事業開始 [日出町]



▲2007.10.5 フェスピックモニュメント除幕式



▲2007.12.1 亀川駅エレベーター供用開始

**2008**  
(平成20)

- 1.23 ソニー・太陽株式会社創立30周年記念式典
- 1.23 ソニー株式会社中鉢良治社長、オムロン株式会社作田久男社長来訪
- 3.24 愛知事業本部 三河寮を改修し福祉ホーム「ひだまり」を開所
- 4. 1 愛知福祉工場を障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行
- 4. 1 京都事業本部 「就労継続支援事業B型」事業開始
- 4. 1 通所授産施設で、精神障がい者を初めて受入れる
- 4. 1 身体障害者療護施設うわ創立20周年
- 6. サンスポーツセンター1Fの喫茶いこいがトレーニング室拡大工事に伴い閉鎖
- 6. 食堂新システム稼動(給食用ICカードやアラカルトメニューを導入)
- 7.18 愛知事業本部およびデンソー太陽株式会社 コンピュータ生産累計2000万台達成記念式典
- 8.29 日出町にホンダ太陽株式会社新工場竣工
- 9.30 株式会社TJMデザイン別府工場閉鎖
- 9.22 北京パラリンピックにてオムロン太陽株式会社の笹原廣喜氏車いすマラソン銀メダル
- 10. 1 常陸宮殿下妃殿下ご視察
- 10. 大分県で第63回国民体育大会と第8回全国障害者スポーツ大会が開催され、めじるんグッズを販売
- 10. 7 株式会社富士通エフサス播磨社長来訪
- 12. 自立生活トレーニングセンターゆたか、サンスポーツセンター改修工事完了



▲2008.1.23 ソニー株式会社 中鉢社長、オムロン株式会社 作田久男社長来訪



▲2008.3.24 愛知三河寮を転換・改修し、福祉ホーム「ひだまり」を開所



▲2008.10.1 常陸宮お成り(83)見送り

**2009**  
(平成21)

- 1. 7 トレーニングルーム リニューアルオープン
- 2. 高齢者介護予防教室「元気サンサン倶楽部」開講
- 3. 将来構想検討委員会発足、理事会・評議員会で報告
- 3.24 愛知事業本部 福祉ホーム「ひだまり」改修工事完了
- 4. 1 京都福祉工場を障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行、福祉ホーム「ひまわり」を開所 [京都]
- 5. 1 クロネメール便配達事業開始
- 6.30 ラオス研修生第1期受け入れ(~7/28)



▲2008.10.11 メジロンクッキー



▲2008.10.11 めじるんグッズを販売



▲2009.5.1 クロネメール便配達事業開始

# The history of 太陽の家 2009~2011

**2009**  
(平成21)

- 7. 1 トレーニングルーム一般開放開始
- 7.18 納涼大会に歌手の山本譲二さん出演
- 7.22 身体障害者療護施設ゆうわに歌手の城みちるさん来訪
- 8. 1 「中村裕記念基金」を設立し、障がい者スポーツ振興などの事業を引き継ぐ
- 10. 5 「スワンカフェ&ベーカリー太陽の家店」オープン
- 12. 内閣に「障がい者制度改革推進本部」設置



▲2009.7.1 トレーニングルーム一般開放開始



▲2009.7.18 納涼大会に歌手の山本譲二さん出演

**2010**  
(平成22)

- 2. 8 特別養護老人ホーム「広寿苑」移管先に決定
- 4. 1 「障害者就業・生活支援センターたいよう」開設
- 4. 1 三菱商事太陽株式会社が情報ポータルサイト「おおいたイチオシ家族」を開設
- 4. 1 サンストアを収益事業から就労継続支援A型事業に転換
- 4. 1 身体障害者療護施設ゆうわを障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行
- 5. 6 福祉工場が第1作業棟4Fへ移転し操業
- 6.10 富士通エフサス太陽株式会社15周年事業としてパソコン寄付とパソコン教室講師派遣
- 7. 9 大分銀行太陽の家支店 開設30周年
- 9.20 中村裕記念基金事業「太陽の家自然教室」開催
- 9. 1 オムロン京都太陽株式会社が「障害者雇用職場改善好事例」で最優秀賞(厚生労働大臣賞)を受賞
- 9. 8 福祉工場取り壊しに伴いお別れ会開催
- 10.15 創立45周年記念献花式および永年勤続表彰式
- 12. 障害者自立支援法改正(発達障害が対象となり、利用者負担が応能負担へ見直される)
- 12.14 新本館改築工事起工式



▲2009.10.5 スワンカフェ&ベーカリー太陽の家店オープン



▲2010.7.9 大分銀行太陽の家支店30周年



▲2010.9.8 福祉工場お別れ会



▲2010.9.20 中村裕記念基金事業「太陽の家自然教室」開催



▲2011.1.13 京都府の山田啓二府知事が工場視察

**2011**  
(平成23)

- 1.13 京都府の山田啓二府知事が京都事業本部・オムロン京都太陽株式会社を視察
- 2. 4 別府市JR亀川駅に自由通路が完成
- 3.14 デンソー太陽株式会社が太陽光発電を設置
- 4. 1 電子科で、ブックスキャン作業開始
- 4. 1 別府福祉工場を障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行
- 4. 5 ISO9001認証取得
- 4.14 サンストア起工式
- 6. 「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」成立
- 6. 6 ラオス研修生第2期受け入れ(~7/1)
- 6. 8 特別養護老人ホーム「太陽の家広寿苑」起工式
- 7.29 「障害者基本法の一部を改正する法律」成立(「差別的禁止」に関する条文の新設)
- 7. 1 介護予防通所介護事業「元気づくりセンターさんぽっぶ亀川」事業開始



▲2011.2.4 亀川駅自由通路完成バリアフリー化完了



▲2011.4.1 ブックスキャン(電子科)作業開始



▲2011.7.1 介護予防通所介護事業所「元気づくりセンターさんぽっぶ亀川」事業開始

## The history of 太陽の家 2011~2012

2011  
(平成23)

- 8. 4 サンストア移転・新築竣工、オープン(8/9)
- 9.26 ホンダ太陽株式会社創立30周年記念式典
- 10. 1 障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行完了
- 10. 1 愛知事業本部 障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行完了
- 10. 1 愛知事業本部 日中一時支援事業「わかば」開始
- 10. 7 新本館竣工。事務局引越し(～10/10)
- 10.27 第4作業棟起工式
- 11.22 太陽の家会長に立石義雄氏(オムロン株式会社名誉会長)就任
- 12. 「NPO法人 ジャパン・サン・インダストリーズ」設立

2012  
(平成24)

- 1.16 京都事業本部 環境科発足
- 2.23 大分県男女共同参画推進事業者顕彰授賞
- 2.28 特別養護老人ホーム「太陽の家広寿苑」竣工式
- 3. 1 小規模多機能型居宅介護事業所「サンハウス大手町」開設 [大分市]
- 3. 1 駐車場経営「大手町2丁目パーキング」事業開始 [大分市]
- 3. 8 新本館(耐震化整備宿舍改築工事)竣工式
- 3.31 特別養護老人ホーム「太陽の家広寿苑」開設[杵築市]
- 4. ラオス研修生第3期受け入れ
- 4. 1 事務局組織体制を変更し8事業本部体制とする
- 4. 1 サービス付高齢者向け住宅「サンガーデン大手町」事業開始 [大分市]
- 4. 1 「ホームヘルプセンターたいよう」と「ケアプランセンターたいよう」開設
- 4. 1 京都事業本部 障害者自立支援法に基づく新体系サービスに移行完了
- 5.31 第4作業棟竣工
- 6.20 障害者優先調達推進法公布
- 6. 「将来構想プロジェクト2012」を設置し、2チームに分かれ将来構想を検討
- 8.24 オムロン太陽株式会社創立40周年記念式典
- 9. 7 韓国障がい者支援施設「聖再園」従業員来訪
- 9. 7 ロンドンパラリンピック、ストークマンデビル病院視察団派遣(～9/12)
- 10. 5 太陽の家吹奏楽団(アンサンブル太陽)結成
- 10.16 ソニー株式会社平井一夫社長兼CEOがソニー・太陽株式会社に来訪
- 10.18 厚生労働省大臣官房審議官 西藤公司氏視察
- ラオス研修生第4期受け入れ
- 11.23 亀川地区災害活動訓練(津波避難)訓練実施
- 12. 4 天皇后両陛下が京都事業本部およびオムロン京都太陽株式会社をご視察
- 12. 5 サンストアが「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」を受賞



▲2011.8.4 サンストア竣工式、移転オープン(8月9日)



▲2012.3.8 新本館(耐震化整備宿舍改築事業)竣工



▲2012.5.31 第4作業棟完成(オムロン外観)07.26第4作業棟竣工



▲2012.9.7 ロンドンパラリンピック・ストークマンデビルスタジアム



▲2012.11.23 亀川地区災害活動訓練(津波避難訓練)実施



▲2012.12.4 天皇后両陛下が京都太陽の家およびオムロン京都太陽見学



▲2012.12.5サンストア  
[バリアフリー・ユニバーサル  
デザイン推進功労者表彰] 受賞



# The history of 太陽の家 2013~2014

**2013**  
(平成25)

- 2.28 第1作業棟1階改修工事完了(食堂、喫茶コーナー、さくらホール・ひまわりホール、ギャラリー他)
- 3. 1 愛知事業本部 障がい者相談支援センター「にじ」開設
- 3.31 医務室を亀川サンクリニック内に移転
- 4. 1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)が施行、障害者の範囲に特定疾患(難病)等が加わる
- 4. 1 法定雇用率1.8%から2.0%へ
- 4.30 作業場移転 電機科(第2作業棟2階→第1作業棟4階) 電材科、電子科(第1作業棟4階→第2作業棟2階)
- 5. 1 オムロン株式会社が創業80周年を記念し、株主優待制度に太陽の家への寄付を新設
- 5. 9 関連企業社員・OB・職員で構成する「将来構想検討委員会」発足
- 6.26 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」および「障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律」が公布、差別的取扱いや合理的配慮の不提供が禁止される(2016年4月1日施行)、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律」公布
- 6.30 日本テキサス・インスツルメンツ日出工場閉鎖
- 7. 1 カフェサービス科発足 「あおぞらかふえ」が第1作業棟1階にオープン
- 7. 1 京都事業本部 総合作業科発足
- 7.16 子育てサポート企業として「くるみんマーク認定」取得
- 9.10 ホンダ太陽株式会社が「障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」を受賞
- 10. 1 「大分県障害福祉サービス事業所等共同受注事務局」別府事業本部内に設置
- 12. 1 三菱商事太陽株式会社創立30周年記念式典



▲2013.2.28 第1作業棟1階改修工事終了



▲2013.3.1 愛知事業本部「にじ」受付



▲2013.7.1 あおぞらかふえ(カフェサービス科)オープン



▲2014.1.31 ロボケアセンター開所



▲2014.4.19 愛知太陽の家創立30周年記念式典

**2014**  
(平成26)

- 1. 1 日本国政府「障害者の権利に関する条約」を批准
- 1. 1 京都事業本部「障がい者相談支援センターひまわり」開設
- 1.31 大分ロボケアセンター株式会社が太陽の家敷地内に開所
- 4. 1 ホンダ太陽株式会社が生産部門を日出工場に集約
- 4.19 愛知事業本部 就労移行支援事業開始  
愛知事業本部およびデンソー太陽株式会社 創立30周年記念式典
- 5. 「難病の患者に対する医療等に関する法律」成立
- 5.22 太陽の家顧問に鍋島英幸氏(三菱商事(株)常任監査役)就任
- 5.31 作業場移転 機材科、電材科、電子科(第2作業棟2階→第1作業棟2階)
- 7. 1 ソニー・太陽株式会社が「2014年アジア太平洋ディサビリティーマターズ&アワード」を受賞
- 7. 7 別府事業本部で生産革新活動「COM活動」開始
- 7.24 共同受注実務研修会



▲2014.7.24 共同受注実務研修会



▲2014.9.23 共同受注 パークプレイス販売会

## The history of 太陽の家 2014~2015

- 8. 6 若州一滴文庫(福井県)で「もうひとつの太陽 水上勉と中村裕の夢見た日本の明日」展開催
- 8. 6 JICAからの要請でブラジルで卓球バレー普及活動を開催
- 8.26 富士通エフサス太陽株式会社創立25周年記念事業の一環として、パソコン・タブレットを寄贈
- 9. 8 オムロン太陽株式会社が「障害者雇用優良事業所等の厚生労働大臣表彰」を受賞
- 10. 2 ホンダ太陽株式会社データビジネス棟竣工
- 10. 5 太陽の家創立50周年記念ロゴマーク決定
- 10. 9 作業場移転 機材科、電材科、電子科(第1作業棟2階→第2作業棟3階)工芸科(本館1階→第2作業棟3階)
- 11.10 韓国障がい者支援施設「聖再園」南常務理事他21名が来訪
- 12.17 ADDPが実施するJICA草の根協力事業を協カラオスから2名の研修生受入



◀2014.8.6 若州一滴文庫  
もうひとつの太陽ポスター



▲2014.8.6 JICAからの要請でブラジルで卓球バレー普及活動開催

### 2015 (平成27)

- 2. 1 障害者支援施設ゆうわでHAL介護支援用腰タイプのレンタル開始
- 2.20 京都事業本部 渡り廊下改修工事完了
- 3. 2 三菱商事太陽株式会社が事務所移転(第3作業棟2F、3F → 第1作業棟2F)
- 3.21 地域事業本部が第3作業棟3階に移転
- 4. 1 小規模多機能型居宅介護事業所「サンハウス大手町」定員15名から25名に増員 [大分市]
- 4. 1 介護予防・日常生活支援事業開始
- 7. 8 「日米草の根交流サミット2015in大分」ローカルツアー受入れ
- 7. 8 創立50周年記念シンポジウム開催
- 7.14 タイムカプセル掘り出し
- 7.18 納涼大会に歌手のサラ・オレインさん出演
- 10. 3 「中村裕博士を想う夕べ」開催
- 10. 4 天皇皇后両陛下 創立50周年記念式典ご臨席
- 10. 4 太陽の家創立50周年記念式典、ホームカミングデイ開催、タイムカプセル開封式
- 10. 5 太陽の家創立記念日



▲2014.10.2 ホンダ太陽データビジネス棟竣工式



▲2014.11.10 聖再園歓迎会



▲2015.2.1 障害者支援施設ゆうわでHAL介護支援用腰タイプのレンタル開始

▲2015.2.20 京都事業本部渡り廊下改修工事完了



▲2015.7.18 納涼大会でサラ・オレインさん出演

2015年10月4日  
(平成27年)

# 太陽の家創立50周年記念式典

## 天皇皇后両陛下がご臨席



別府市亀川の太陽の家サン・スポーツセンターで天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、創立50周年記念式典を執り行いました。式には厚生労働大臣の塩崎恭久氏、大分県の広瀬勝貞知事はじめ、オムロン株

式会社の立石文雄会長、ソニー株式会社の平井一夫社長、本田技研工業株式会社の尾高和浩執行役員、三菱商事株式会社の廣田康人常務、株式会社デンソーの下方敬子常務、株式会社富士通エフサスの高萩弘社長、バッテリーネパール大使夫妻やネパールのラクシム・スベディさんなど、行政や企業、団体、地域など国内外の招待客や、太陽の家の立石義雄会長、鍋島幸英顧問など関連企業社員や利用者、職員など約330人が出席しました。また、食堂とラウンジでも式典の様子が中継され、利用者や太陽の家OB・OGなど400人以上が参加しました。

### 50周年記念式典式次第

- |   |  |
|---|--|
| 1. ファンファーレ …………… アンサンブル太陽                 | 9. 感謝状贈呈 …………… 個人 5名<br>共同出資会社親会社 7社<br>協力企業等 7社2団体            |
| 2. 天皇皇后両陛下御入場、御着席                         | 10. 特別功労者表彰 …… 畑田和男氏・中村廣子氏                                     |
| 3. 開式の辞 …………… 事務局長 早田愛一郎                  | 11. 表彰状贈呈 …………… 永年勤労 元社員等 16名<br>永年勤労 利用者等 94名<br>永年勤続 元職員 13名 |
| 4. 国歌独唱 …………… サラ・オレイン                     | 12. 演奏「威風堂々」… アンサンブル太陽   |
| 5. 理事長挨拶 …………… 理事長 中村太郎                   | 13. 閉式の辞 …………… 事務局長 早田愛一郎                                      |
| 6. 来賓祝辞 …………… 厚生労働大臣 塩崎恭久氏<br>大分県知事 広瀬勝貞氏 | 14. 式典終了   |
| 7. スピーチ …………… 吉永栄治・宿野部拓海                  |  |
| 8. 天皇皇后両陛下御退場                             |  |



## 歴史をふりかえり 未来をかんがえる

吉永 栄治



天皇皇后両陛下にご臨席を仰ぎ、太陽の家の創立50周年記念式典がおこなわれることを心よりお祝い申し上げます。

私は只今ご紹介いただきました吉永栄治と申します。昭和43年27歳の時太陽の家に入所し3年半コタツつくりには汗とほこりにまみれて訓練期間を過ごしました。多くの仲間が昭和47年のオムロン太陽株式会社の創業に参加したとき、私は事務局に職員として採用され、その後32年間施設の発展と社会の変革のため努力してまいりました。

私が入所した頃のことですが、夕食後突然中村先生が訪れて全員食堂に集まり、よく中村節を聞きました。今は苦しいがそのうちにはビルを建て冷暖房が整った住みやすい環境をつくりたい。今は国の庇護を受けているがみんなで頑張って一般国民と同じように納税者になって自立した生活をしようとして日給150円を支給されているころの話でした。

そういう時代を経て太陽の家は大きな夢と希望に向かって走り続けたのです。今日は何が起るのか、明日は何が変わるか毎日が胸膨らむ気持ちで仕事に打ち込んでいた頃が懐かしく思い出されます。

病院や自宅にこもっていた重い障がいを持った人

達が集まった太陽の家ですが、その後、会社の設立に参加し、ある者は課長に、ある者は社長になって活躍しました。OBの多くは結婚し自宅を建てマンションを買い幸せな人生を謳歌しています。人間は夢と希望を持って励めばその潜在能力は無限であることを証明しました。今難病や心身に重い障がいの方々も関係者の英知と努力できっと明るい未来が開けることを期待しています。

中村裕先生が推奨された障がい者スポーツもまた驚くべき発展をとげています。2020年の東京パラリンピック大会は、素晴らしい技術をもったアスリートやプロのスポーツマン達がおおいに大会を盛り上げるでしょう。まさに隔世の感ですが、中村先生が生きていらっやたらきつと喜ばれたと思うと残念な気持ちです。今日ご参列されている多くの個人や企業は、太陽の家の発展に貢献したとのことでこの後記念表彰をされるそうですが、むしろ太陽の家から受けた恩恵のほうが大きく、仲間たちは太陽の家に感謝状を差し上げたいと思うのであります。太陽の家の働く人々の自立や幸せのため長い間絶大なご支援をいただきました関係各社の皆様に心から御礼と感謝を申し上げます。本日はおめでとうございます。

## 世界一努力

宿野部 拓海



皆さんこんにちは。太陽の家の職員で、人事・広報課と総務課を兼務している宿野部拓海と申します。本日はこのような場でスピーチをさせていただけることに本当に感謝しています。

私は先天性脳性まひで四肢に障害があります。今ではだいぶ自由に動かせるようになりましたが、幼いころは服のボタンをとめることや字を書くことが上手くできませんでした。小学生のころにはたたかかれたり、歩き方を馬鹿にされいじめに遭うこともあり、その当時の記憶は鮮明に残っています。

私は中学生から卓球を始め、高校2年生のときに障害者卓球を初めて知りました。私にとって卓球は大切な生き方を教えてくれたものです。卓球は身体が不自由なことを言い訳に辛いことから逃げていた自分を挑戦する自分へと変えてくれました。私はこの障害のおかげで、他の人よりもたくさん悩むことが出来、毎日努力することが出来ました。今ではこの身体で生まれて良かったと思っています。

大学卒業後、昨年までは神奈川県別の企業で働

いていましたが太陽の家でアスリートの採用募集をしていることを知り、試験を受ける決心をしました。太陽の家に来た時は障害を持った人達がいきいきと働いている姿が印象的でした。理念である、「No Charity, but a Chance!」を長い時間をかけて実現してきたのだと思いました。

私には学生時代から大切にしている言葉があります。それは、「失った機能を数えるな、残った機能を最大限に活かせ」です。これは太陽の家の創設者である中村裕先生にスポーツによるリハビリを教えた、グットマン博士の言葉です。私の心の支えとなった言葉と縁のある、この場所に来ることが出来てとても幸せを感じています。

私は数年前から「世界一努力」という目標を掲げています。現在では様々な国際大会に出場していますが、日々努力を重ねて5年後の東京パラリンピックの時には金メダルを取りたいと思っています。

太陽の家のシンボルマークにある麦のように皆で困難を乗り越えて強くたくましく成長し続けていきたいです。

# 表彰



感謝状授与  
(左より) 長尾繁さん 森野晃郎さん  
福田博美さん 仲山とも子さん



感謝状授与  
前列左より) 電子印刷センター杉本恵子社長  
大分タキ上野哲也社長  
大分銀行姫野昌治頭取  
トキハインダストリー吉弘晃社長  
後列左より) 大分三菱会齋津敏徳会長  
明石会中根功会長  
山下芸山下謙一郎社長  
六興電氣長江洋一社長  
三洋産業甲斐克茂専務



特別功労者表彰  
中村廣子創業者夫人 畑田和男前理事長



感謝状授与  
前列左より) オムロン立石文雄会長  
ソニー平井一夫社長兼CEO  
本田技研工業尾高和浩執行役員  
(後列左より) 三菱商事廣田康人常務執行役員  
デンソー下方敬子常務役員  
本田技術研究所小澤学執行役員  
富士通エフサス高萩弘社長



感謝状授与  
立石義雄太陽の家会長より  
立石文雄オムロン会長へ贈呈



永年勤続元社員(自立更生者) 16名  
炭谷茂理事より代表の上野茂氏へ贈呈



永年勤労利用者代表 橋本信三さん  
(後列左より) 山口二郎さん 坂しのぶさん



永年勤労利用者94名



永年勤続元職員13名  
代表 猿渡ミス子さん

## 両陛下がパラリンピックをめざす選手をご視察



記念式典の後に、サンスポーツセンターのトレーニングルームで天皇皇后両陛下がパラリンピックを目指す選手をご視察されました。ボッチャの木谷隆行選手（別府就労継続支援B型：写真左端）に声をかけられ競技について詳しく尋ねられました。パワーリフティングの城隆志選手（オムロン太陽）が111kgのパールを持ち上げると、天皇陛下に「身体を痛めたりはしませんか」とお声かけいただきました。卓球の宿野部拓海選手（事務局）と江川正喜選手（別府工場）に

は、天皇陛下が「ちょっとやりましょうか」とサプライズも。陛下と両選手のラリーが行われ、「びっくりしました。私たちと真剣に向き合っていただきました」と感激の様子でした。最後に、車いすマラソンで北京パラリンピック銀メダリストの笹原廣喜選手（オムロン太陽）はロボットスーツHALによる歩行訓練の様子を披露。皇后陛下より「選手時代はご苦労さまでした。これからも皆さんをお願いしますね」とお言葉をいただきました。



宿野部 拓海 選手（太陽の家）  
競技：卓球



城 隆志 選手（オムロン太陽）  
競技：パワーリフティング



木谷 隆行 選手（太陽の家）  
競技：ボッチャ

## ホームカミングデー開催

太陽の家関係のOBや関係者約400人が県内ばかりでなく東京や静岡等の県外、外国は韓国やネパールからも参加し、旧交を温めました。



## タイムカプセル 開封式

タイムカプセルは、太陽の家創立20周年のときに中村裕像裏に埋設されました。当時、各職場で作った製品や写真、メッセージなどが埋設されていました。



The history of 太陽の家 2015.10.4





# 50周年記念コンサート

記念コンサート出演者プロフィール (演奏順・敬称略)

## 伊藤 京子

公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団 副理事長  
別府アルゲリッチ音楽祭 総合プロデューサー  
1998年から毎年開催される「別府アルゲリッチ音楽祭」は国内外にファンを増やし、大分県下にも広く根ざしている。2014年から太陽の家評議員。



伊藤 京子

## ベテスタ四重奏団

第一バイオリンのチャさん、第二バイオリンのりさん、ピオラのシンさんは、1968年、韓国にある太陽の家姉妹施設聖世再活院の学生時代、初めて太陽の家を訪問。中村裕理事長の招請により、太陽の家で1年間研修し、太陽の家に多くの友人を持つ。現在はプロミュージシャン、アメリカの大学教授、オーケストラの音楽監督、プロオーケストラの団員など、活躍しています。今回サポートしたチェロ奏者のベさんは、アメリカのジュリアード大学等で学位を修め、現在は音楽大学の教授。

## 今成 佳奈

大分県出身のシンガーソングライター。テレビ・ラジオ・CMの曲などでおなじみです。おおいた国体開会式のフィナーレの曲や卓球パレーのテーマソングも創作して歌う。



今成 佳奈

## 4Disabilities

オムロン京都太陽関係者で結成された目が不自由な方には音と歌声で、耳が不自由な方にはサインダンス(手話ダンス)でと、どんな方にも自分達の気持ち、感じた事、体験等を音楽を用いて伝えたい、聞いてくれた人、見てくれた人達の心を動かしたいと思い活動している4人の障がい者がメインとなっているバンド。



サラ・オレイン

## アンサンブル太陽

2012年10月に発足し4年目を迎える。太陽の家の職員や利用者、関連企業社員、そして地域の方々から音楽好きが集まり、現在は約30名のメンバーで活動。練習や演奏会活動を通して、ともに演奏を楽しみながらメンバー間のコミュニケーションを活発に行い、お互いを理解し、支え合い、絆を深めながら、社会へも積極的にかかわり、メンバー一人ひとりが楽しい社会生活をおくっていくことを目的として活動。

## サラ・オレイン

オーストラリア出身のバイオリニスト&シンガー。東大への留学をきっかけに来日。3オクターブを超える音域と絶対音感、透き通っていながら力強い歌声と圧倒的な表現力で、テレビ番組出演、ラジオパーソナリティ、CMソング、フィギュア・アイスショーでのトップスケーターたちとのコラボなど活躍中。太陽の家サポーター。



ベステスタ四重奏団



## 太陽の家創立50周年記念式典

アンサンブル太陽



4Disabilities

中村 裕博士を想う夕べ

10月3日19時より別府湾ロイヤルホテルで開催され、約130人が出席し旧交を温めました。



サラ・オレインさん（後列左から3人目）を囲んで



韓国聖再園南商興氏



井深亮氏



(後列右から) 立石文雄オムロン会長  
立石義雄太陽の家会長  
中村理事長 南雄和聖再園常務理事  
会幹事 隆信 土通正一 サラオレイン顧問  
(前列) 韓国ベテスタグ四重奏団申鍾鎭氏



愛知



京都



枚 築



日 出



別 府



大 分

50 キャップアートパネル

太陽の家各事業本部で集めたペットボトルキャップ125,111個のうち20,736個を使用し、各本部の分担で作成した5.5X5.5メートルのキャップアートです。電子印刷センター篠田純子さんによりデザインされた50周年記念事業のロゴです。





## 挑戦の歴史

# 創設者 中村裕博士



1927年(昭和2年)大分県別府市に生まれ、1951年九州大学医学専門部を卒業後、同大の整形外科医局に入局しました。天児民和名誉教授の指導の下、当時未開の分野であった医学的リハビリテーション研究の道を歩みました。

その後、英国のストーク・マンデビル病院のルードヴィヒ・グットマン卿の下に留学しました。ここではリハビリテーションにスポーツを取り入れ、医師がさまざまな分野の人と連携して、脊髄損傷者の社会復帰を支援していました。このことに衝撃を受けた博士は、身体障がい者の社会参加、特に仕事を通じての自立とスポーツにその生涯を注ぐことになりました。博士は、1964年東京パラリンピックを提唱し日本選手団長を務めました。

評論家の秋山ちえ子氏、作家の水上勉氏などと出会い、支援を受けて、障がい者は仕事をもち自立することが大切という信念に至りました。そして、「No Charity, but a Chance! 保護より機会を」「世に身心障害者(児)はあっても仕事に障害はあり得ない」という理念をつくり、1965年太陽の家を大分県別府市に創設しました。

手作業が中心だった障がい者の作業を近代的な工場へと大きく前進、進歩させたのは、立石電機株式会社(現・オムロン株式会社)創業者の立石一真氏との出会いでした。日本で初めての福祉工場のひとつをオムロンとともに操業し、特例子会社の先駆けとしてオムロン太陽株式会社を創業しました。

そこで、税金のお世話になっていた障がい者が社会復帰し、自ら税金を払い、一人前の社会人として人生を歩み始めました。そして、「太陽の家で働くものは被護者ではなく労働者であり後援者は投資者である」という理念にも至りました。

福祉工場とオムロン太陽株式会社の成功後、ソニー・ホンダ・三菱商事・デンソーなど日本を代表する大企業と提携して共同出資会社をつくり、多くの重度障がい者を雇用しました。障がい者の職能開発にも力を入れ、手作業からライン作業へと就労環境の改善を図りました。

身体障がい者スポーツにおいては、大分県身体障害者体育協会(当時)や日本身体障害者スポーツ協会(当時)の設立に参画し、1961年日本で初めて、第1回大分県身体障害者体育大会を開催しました。また、1975年大分県において第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会(フェスピック)、1981年第1回大分国際車いすマラソン大会を提唱して成功に導き、両大会は今日まで引き継がれて開催され、国内外の障がい者スポーツの発展に尽力しました。一方、国際障害者リハビリテーション協会(RI)の職業委員会委員として、1981年第1回国際身体障害者技能競技大会(アピリンピック 東京)や同協会のレジャー・レクリエーション・スポーツ委員会委員長として、1984年第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会(レスポ愛知県)の開催を提唱しました。

また、医師として大分市に救急医療から医学リハビリテーションを行う2つの病院を運営しました。国際パラプレジア医学会副会長(1979年～1983年)、第14回日本パラプレジア医学会会長(1979年～1980年)を務めました。1984年7月23日、英国ストーク・マンデビルで国際ストーク・マンデビル競技大会の開会式がまさに行われようとしていた時、世界の障がい者が一市民として普通に暮らし、障がい者という言葉がなくなることを夢見ながら57才の短い生涯を閉じました。

西暦	邦歴	月	年齢	事象	
1927	(昭2)	3	3	大分県別府市で、中村病院院長の中村亀市氏、ヤエさんの次男として誕生(31日)	
1939	(昭14)	3	12	別府市立野口尋常小学校卒業	
1945	(昭20)	3	18	大分県立大分中学校卒業	
1951	(昭26)	3	24	九州大学医学専門部卒業(1950年特待生)	
1952	(昭27)	4	25	九州大学医学部整形外科医局入局	
			10	医師免許取得(第145885号)	
1957	(昭32)	11	30	九州大学より医学博士号取得	
1958	(昭33)	11	31	国立別府病院整形外科医長(～1969年7月)	
1959	(昭34)	3	32	小林廣子さんと結婚	
1960	(昭35)	1		「リハビリテーション-医学的更生指導と理学的療法-」を九州大学の天児民和教授と共著で南江堂より刊行	
			4	厚生省技官として約6ヶ月間、英国ストックマンデビル病院で研修、グットマン博士の指導を受け、以後生涯に大きな影響を受ける。	
1961	(昭36)	6	34	大分県身体障害者体育協会副会長(1975年会長)	
			10	日本初の身体障害者スポーツ大会・第1回大分県身体障害者体育大会開催(大会副会長)	
1962	(昭37)	7	35	第11回国際ストックマンデビル競技大会(ISMG)に選手2人を連れて参加、日本選手団団長	
1964	(昭39)	8	37	社会福祉法人別府整肢園園長(～1967年8月)	
			11	第2回パラリンピック(東京)日本選手団団長	
			11	「身体障害者スポーツ」を佐々木忠重氏と共著で南江堂より刊行	
1965	(昭40)	10	38	太陽の家、大分県別府市に開所(5日)	
1966	(昭41)	1		作家・水上勉氏の支援により、「太陽の家」東京事務所を開く。	
			3	39	太陽の家常務理事
			12	大分中村病院、大分市に開院	
1968	(昭43)	2		大分県社会福祉審議会委員	
			2	太陽の家に身体障害者労働研究室を開設	
			3	41	太陽の家理事長
			4	日本身体障害者スポーツ協会評議員(1981年6月常務理事)	
			10	第3回パラリンピック(イスラエル・テルアビブ)の日本選手団団長	
1969	(昭44)	1		リハビリテーションインターナショナル(RI)補装具・住宅・交通機関委員会(ICTA)委員	
			4	42	日本リハビリテーション医学会評議員
1970	(昭45)	4	43	大分県医師会労災審議室委員	
1971	(昭46)	6	44	太陽の家がグッドウィル・インダストリーズ(米国)のアジアリハビリテーションセンターに指定される。	
			10	社会福祉法人大分県社会福祉事業団理事	
1972	(昭47)	2		オムロン太陽電機株式会社副社長就任(1978年6月代表取締役社長就任)	
			4	45	身体障害者福祉工場ならびにオムロン太陽電機株式会社創業
			4	国際パラプレジア医学会評議員	
			7	第4回パラリンピック(西ドイツ・ハイデルベルグ)の日本選手団団長を務める。	
1974	(昭49)	1		明野中央病院、大分市に開院	
			1	大分県心身障害者対策協議会委員	
			3	大分県心身障害者雇用促進協会副会長	
			4	47	大分県整形外科医会副会長
1975	(昭50)	1		労働省リハビリテーション研究会委員	
			6	48	第1回フェスピック大会(大分市・別府市)開催(大会副会長)
			6	表千家同門会大分県支部副支部長	
			11	「太陽の仲間たち」(中村裕著)を講談社より刊行	
1976	(昭51)	3	49	社会福祉法人身体障害者自立情報センター(東京)理事長	
			7	大分県福祉のまちづくり懇談会委員	



中村裕博士結婚式



天児民和九州大学教授と共著



1964年東京パラリンピック(左より)グットマン博士、中村英次郎氏、中村廣子氏、スクールトン事務総長、中村太郎氏、中村裕博士



1965年10月5日開所式後の見学  
木下大分県知事 水上 勉氏



アビリティーズ社ヘンリー・ビスカルティ氏訪問



1966年4月29日東京パラリンピック選手の須崎勝己氏結婚式



1966年4月30日太陽の家の産声ヘンリー・ビスカルティ氏を招待



1966年10月天皇皇后両陛下ご視察



1966年11月皇太子ご夫妻ご視察

# 中村博士年表

西暦	邦歴	月	年齢	
		8	1	第5回パラリンピック(カナダ・トロント)日本選手団団長
1977	(昭52)	3	50	社団法人日本整形外科学会評議員
		11		第2回フェスピック大会(オーストラリア・パラマッタ)日本選手団団長
		11		フェスピックに出場していた、ネパールの少女ラクシム・スベディさんを大分中村病院にて下肢切断の手術を施し義足を装着
1978	(昭53)	12		西日本整形災害外科学会評議員
		1		「太陽の家讃歌」(中村裕作詞)を発表
		1		株式会社サン・インダストリー代表取締役社長に就任(1981年9月ソニー・太陽株式会社に社名変更)
1979	(昭54)	4	51	大分県臨床整形外科医会会長
		7		第27回国際ストックマンデビル競技大会(イギリス)日本選手団団長
		8		財団法人日本障害者リハビリテーション協会理事および国際リハビリテーション協会日本代表
		1		国際パラプレジア医学会副会長(～1983年)
		6	52	国立職業リハビリテーションセンター運営委員
1980	(昭55)	10		日本パラプレジア医学会会長(～1980年9月)
				第14回日本パラプレジア医学会を別府市で開催
		1		「脊椎損傷者のための手引書」を作成
		4	53	大分県心身障害者雇用促進協会顧問
		5		身体障害者スポーツ創立20周年記念大分県身体障害者競技大会に技能部門を設け開催(初の国際技能競技大会)大会副会長
		6		財団法人国際身体障害者技能競技大会日本組織委員会理事
1981	(昭56)	6		第6回パラリンピック(オランダ・アーネム)日本選手団団長
		7		国際ストックマンデビル競技連盟(I S M G F)執行委員
		4	54	第3回世界リハビリテーション会議(オーストリア・ウィーン)常任委員会委員長
		6		リハビリテーションインターナショナル(RI)レジャー・レクリエーション・スポーツ委員会委員長
		6		財団法人日本身体障害者スポーツ協会常務理事
		9		ホンダ太陽株式会社取締役社長
1982	(昭57)	10		第1回国際身体障害者技能競技大会(アピリンピック)総務委員長
		10		国際障害者年記念 第17回全国身体障害者スポーツ大会国際渉外部長
		11		第1回大分国際車いすマラソン大会を大分市で開催(大会副会長)
		3	55	日本リハビリテーション医学会認定医
		5		大分県病院協会理事
		7		第31回国際ストックマンデビル競技大会(英国)日本選手団団長
1983	(昭58)	10		第2回大分国際車いすマラソン大会(大会副会長)
		10		第3回フェスピック大会(香港)日本選手団団長
		11		フェスピック連盟名誉会長
		3	56	財団法人国際身体障害者技能交流協会理事
		4		社会福祉法人大分合同福祉事業団理事
		4		日本整形外科学会認定医
		7		第36回全国レクリエーション大分大会別府市実行委員会顧問
		11		第3回大分国際車いすマラソン大会(大会副会長)国際ストックマンデビル競技連盟公認大会となる。
		12		三菱商事太陽株式会社代表取締役社長



1977年第2回フェスピック(オーストラリア)



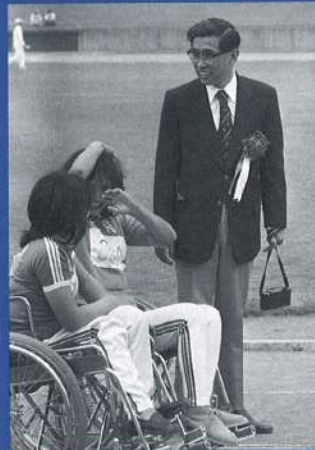
1977年12月サンストア開店



1977年5月オランダヘッドドル創設者クラブワイク博士夫妻来訪



1980年5月第20回身障者技能競技会セミナー



1980年5月28日大分県身体障害者体育大会



1980年大分銀行太陽の家支店開店



1981年第1作業棟オープン



1981年中村博士と工場長たち



1981年10月三笠宮殿下ご視察

西暦 邦歴 月 年齢

- 1984 (昭59) 3 57 銀婚式
- 4 第8回リハビリテーション・インターナショナルアジア汎太平洋地域総会(ニュージーランド)出席
- 4 リハビリテーション・インターナショナル(RI)代表团とともに中国北京を訪問
- 4 愛知太陽の家、愛知県蒲郡市に開所(1日)
- 4 第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会(RESPO)を愛知県で開催(大会副会長)
- 4 表千家同門会大分県支部長
- 4 日本整形外科学会スポーツ委員会委員
- 5 リハビリテーション・インターナショナル(RI)ライフパトロン
- 5 中国身障者スポーツ視察団太陽の家来訪
- 7 中国にスポーツ用車いす66台寄贈
- 7 大分県福祉技術開発調査専門委員会委員
- 7 23日自宅で死去「慈慶院彰徳日裕居士」



1984年6月立石一西氏胸像除幕式での立石氏と中村博士



1984年中国に車いす66台(各州2台)贈呈

## 受賞の数々

西暦 邦歴 月 年齢

- 1965 (昭40) 10 38 福祉新聞社より日本の社会事業を推進する「この100人」賞を受ける。
- 1968 (昭43) 9 41 身体障害者の雇用促進協力により労働大臣表彰
- 1969 (昭44) 11 42 日本肢体不自由児協会から太陽の家を創設し、身体障害者スポーツの振興に寄与したことにより「高木賞」受賞
- 1972 (昭47) 11 45 太陽の家を創設し身体障害者対策に新しい局面を開いたことにより、別府市長より表彰される。
- 1975 (昭50) 11 48 身体障害者の機能回復と社会復帰に永年力を尽くし、第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ(フェスピック)大会を成功させたことにより「大分合同新聞文化賞」受賞
- 1980 (昭55) 11 53 西日本新聞社より身障者の自立更生と身障スポーツの振興に寄与した功績に対して「西日本文化賞」受賞
- 1981 (昭56) 5 54 身体障害者福祉功労者として厚生大臣表彰
- 9 毎日新聞社より「毎日社会福祉顕彰」受賞
- 11 大分県知事より「更生援護功労者」表彰
- 11 太陽の家が「大分合同文化賞特別功労者賞」受賞
- 12 内閣総理大臣より「国際障害者年記念功労者」表彰
- 1983 (昭58) 12 56 ネパール国王より「スバラハル・グルカ・ダクシン・バフ勲章」受章
- 1984 (昭59) 1 永年にわたり身体障害者福祉に貢献した功績により「朝日社会福祉賞」受賞
- 6 57 国際パラプレジア医学会より「1984年シルバー・メダル」受賞
- 6 日本臨床整形外科学会より多年にわたり日本臨床整形外科学会会の発展と地域医療の向上に貢献したことにより表彰される。
- 7 大分県知事より永年にわたる身体障害者の自立と福祉の向上に尽力したことにより感謝状授与
- 7 「正五位勲三等瑞宝章」授与



1983年12月29日 ネパール国王より「スバラハル・グルカ・ダクシン・バフ勲章」



1975年大分合同新聞福祉賞



1984年1月27日 朝日社会福祉賞



# 中村 語録

我が国においては脊椎損傷患者の在院期間はほとんど数年以上にわたり、就職率はゼロに近い。脊椎損傷患者の近代的なリハビリテーションは、患者が早く退院して社会復帰し、有給就職してこそ終るものである事を強調したい。著者らは脊椎損傷患者も含め重度の身体障害者の働く工場を設立して微々たる努力を続けているが十分ではない。

(1965年 現代外科学大系第44巻A 運動器1)

身体障害者の社会復帰—就職を望むならば、労働医学的根拠に立脚して充分な医学管理・労務管理・機械の改造・開発や行政官の理解が必要である。身障者の真の幸福は単なる慈善や同情ではなく、彼らに働く機会を与える事である。今後とも雇っても損をしない身障者を養成するために、この研究を続け報告するつもりである。

(1968年10月西日本整形・災害外科学会機関誌 第18巻第1号)

Sexcial Rehabilitation は非常に重要である。医学的研究ももちろん必要であるが、それに増して大切な事は、食べられるだけの給料と夫婦で住めるアパートを与える努力がなされねばならぬ。太陽の家では今まで四十組結婚したが、太陽の家が苦しい時から立ち上がり、十分な給料とアパートを与えてから急速に結婚数が増えている。

(1972年10月 日本パラプレジヤ医学会総会)

頸髄損傷者の職業リハビリテーションはまことに困難ではあるが、全く不可能ではない。医師やパラメディカルの人々が頸髄損傷者のゴールを始めから「雇用」にかかけ、患者の Motivation を促進すべきである。二次産業・三次産業の中に必ず適職がある。行政や雇用主などを医師自らが開拓してやる程の熱意がいる。工作機械・補助具・自動化・ロボット化など人間工学的研究にも医師は指導的立場をとり、積極的に工学関係者と話し合わねばならない。

(1979年9月 第11回 医師卒後研修会講義)

太陽の家で働いている身障者の実生活を観ていると、下肢装具 (Brace) や手指装具 (Hand splint) などほとんど使われていない。その理由は、街の中や工場で装具を付けて行う動作は緩慢で危険が多く実用的でない。病院内でのADL(日常生活動作)と実社会・工場内でのADLではその評価がかなり違う。全く使わない装具の支給、その訓練に要する入院期間の延長などはよくない。

(1981年10月19日 役に立つ身障者の雇用への道 国際アビリンピックセミナー講演)

外国での大会で整形外科医と身障者の愛情ある人間関係を見るにつけ羨ましく思います。どうか身障者のスポーツやいろいろな行事に、我々ももっと協力的であり彼らから頼られる整形外科医になろうではありませんか。

(1984年3月 整形外科医として障害者の社会参加への協力を 日本臨床整形外科医会 会誌第11号)

もちろん車いすによって行うのであるが、通常のバスケットボールのルールを多少変更してあるに過ぎない。かなりのスピードに富んだゲームであり、時には車いすに乗ったまま衝突したり転倒したりするが、まったく不祥事は起こらなかった。実に団体競技として妙味があり、観る人選手本人など暫時下半身まひ者であることを忘れさせる白熱的なゲームであった。

(1965年4月 国際身体障害者スポーツ大会を終わって 臨床雑誌「整形外科」第16巻5号)

身障スポーツはあくまでもリハビリテーションの一環として行われるべきものであり、ひとつのサイエンスである。また、身障スポーツは他の機能訓練と異なり、自主的に本人の意志に基づいて行うものであり、身障者の健康の保持・増進と積極性・社会性を持たせる上で優れている。また、健常者は一般的に身障者の労働力を過小評価するきらいがあるが、彼らの能力を再認識させるにもよい機会である。

(1975年 総合リハビリテーション第3巻第4号)



第1回大分国際車いすマラソン大会レース後の選手と中村博士



従来のパラリンピックは先進国中心のお金のある人だけが参加できるような仕組みになっていまして、しかも車イスだけのスポーツという傾向が強かった。そこで発展途上国からも、そして車イスに乗れない人や、目の不自由な人もすべての障害者がやってきて競技をやろうというのが大会の趣旨だったので。競技上の成績はまったく度外視して、スポーツに参加する事がフェスティックのポイントなのです。

(1975年7月 明日に向かって語ろう 西日本新聞)



肢体不自由児父母の会大会で

障害者は、健常者以上にレジャー・レクリエーション・スポーツ活動を必要としている。たしかに近年記録中心の障害者のスポーツ大会は世界各地で展開されているが、重度障害者や精神薄弱者等、競争的のスポーツに参加できない多くの人がとり残されている事を忘れてはならない。

(1984年第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会報告書)

We could prove that the paraplegics were excellent workers. Spinal workers are not at all inferior to the able-bodied. We doctors, should give our help and knowledge to them not only at the bedside but all so in restoring their working capability.

(PARAPLEGIA Vol.11 No2 Aug. 1973)

我々は脊損者が優れた労働者であることを証明した。脊損労働者はけっして健常者に劣っていない。我々医師は彼らを治療するだけでなく、彼らが労働能力を獲得するためにも、知識を提供したり援助を行うべきである。

(パラブレジア 第11巻第2号 1973年8月)

There is no perfect method to evaluate the ability of the disabled. Their labor ability is infinite. It is important to give them the chance to work.

(RI .Regional Committee for East Asia and Pacific 4th Annual Meeting in Bangkok Jan. 20 1977)

障害者の能力を評価するための完全な方法などは存在しない。働く能力は無限である。彼らに働くチャンスを与えることこそ重要である。

(R.I アジア汎太平洋地域委員会第4回定例会議 1977年1月20日)

たとえ身障者といえども、その能力は磨けば無限である。単に手が無い、足が無いといった医学的・物理的条件だけで等級をつけ、それでその身障者の機能まで決めつけるのはよくない。大事な事は、自他共に今までの身障者手帳の等級を白紙にもどして、いかにして身障者に Motivation (やる気) を起こさせるか、また雇用側も工夫して受け入れるよう努力するかである。完全な評価法などはない事を銘記しなければならない。

(1973年9月 職業訓練 9月号)

障害等級で表わされる重度の障害者と、作業面から見た障害者の能力は必ずしも一致しません。作業をするうえで障害者のどこか動かせるところがあれば、その機能する部分を最大限に生かして仕事ができるようにする事が大切です。そのような理念に立って、太陽の家では機械の改造を行ったり、簡単な治工具を使うようにして能率よく仕事ができるようにしてあります。

(1983年 日本医療法人協会報 No.73)

身体障害者の社会復帰への隘路を拓くためには、かけ声だけでなしに、受入側が雇用して役に立ち得をするような身障者に育て上げる、具体的な施策が必要である。

(1971年1月 身体障害者対策について 生命の科学 第37回月報)

身障者ということで、ただ気の毒だと保護收容するのではなく、ちゃんとアパートを建てて、アパートの家賃が払えるだけの給料を与え仕事を与えれば、自然に結婚してうまく一般人と変わらない生活や社会生活ができてきます。

働く事がいかに良い治療であり、また治療だけでなく、本人のためにいかに幸せな事か。とにかく年金や無料給付をすればいいんだというのではなく、なんとか働く機会を与えてやってゆくという事が大事である。一番幸せだ。十年を通じて得た信念である。

(1975年9月20日 OBSテレビ 土曜レポート)

着実に売り上げが伸び、いささか自信を得た私は、熟練した身障者を一般社会に就職させようと努力し、昭和41年～42年(1966～67)の2年間に関係者の努力により46名が就職していった。しかし、結果は惨敗であった。あれだけ太陽の家の中では優秀であった車イス労働者も、就職に当たって慎重に打ち合わせたにもかかわらず、褥瘡をつくって帰ってきた。私はその痛手から立ち直るために、身障者の社会復帰よりも太陽の家自身の授産場を高賃金の工場とし、従来の手仕事をやめ、コンベア方式の近代産業を誘致することを決意した。

(1975年 太陽の家10年の歩み)

一般には身障者に残業は過酷のように見えるが、当方では社会復帰を目指すためにはある程度の残業にも耐え得る体力や精神力をつける意味もあり、残業を完全に締め出してはいない。その他労働条件も、施設内にある身障者機能開発センターで科学的に研究したうえで決めており、そう無理な作業はさせていない。現実には商業ベースに乗らねばならないし、入所者の働く意欲を盛り立てるためにも能率給はやむを得ない。ただ、こうした事でいたずらに身障者に同情するより、前向きに理解して欲しい。残業の問題はだれよりも私が一番心配している。

(1972年2月 身障者の残業誌では 大分合同新聞)

思い切って授産場を辞めて福祉工場に入ると、国からの保護は一切なくなります。そこで福祉工場で働いている人に聞いてみると、皆「生き返ったようである。これで人生が開けた。」というふうに言っております。それはそうでしょう。毎日お仕着せのご飯を食べて、何時までで消灯といわれたり監督されたり、これでは人生ではないのです。プライバシーがいかにか大事であるか。市民権がいかにか大事か。危ない橋を渡って福祉工場に飛び込んで給料取りになっているが、自分のお金で生活し、自分で汗したお金で生活し、結婚し、子供を産む。これが一番幸福であることは誰にとっても、どの人間にとっても間違いなくそうである。

1976年8月29日 四国太陽の家設立準備委員会 高松にて講演)



国立別府病院屋上で

身体障害者に同情は不必要である。彼らには社会全層の協力で機会を与えることこそ大切である。

(1962年 明るい英国の身体障害者)

私は社会福祉のベースは単なる観念的・慈善的・宗教的なものではなく、あくまでも科学であると信じている。

(1971年1月 生命の科学 第37回月報)

太陽の家は授産場から出発している。しかしその目標は身障者が力をあわせ、一般の工場と全く同様に運営し、自らの手で社会的に自立する事なのである。それはもはや授産場ではない。立派な生産会社であり、身障者の社会復帰・社会への参加の場である。太陽の家は身障者の労働と日常生活のすべてが行われる総合環境である。したがってここには身障者について検討されなければならない、およそあらゆる種類の問題が集約されて存在する。

(1969年6月 工芸ニュース第36巻6月号)

身障者を社会から隔絶して施設に集団的に置くことはもうやめねばならない。身障者に一般社会人と混じって生活して働く権利を保障すべきである。また、単なる同情や年金などで解決するものでもない。たとえ僅かであろうとも自らの汗で得た報酬で生活する機会を、官民一体となって与えることこそ心のこもったリハビリテーションである。“リハビリテーションはムードではない。科学である。”

(1973年9月号 職業訓練)

昨年の暮れにむぎの会の諸君が募金して、孤児院に滑り台を寄付したことを聞いて私は涙が出るほど嬉しかった。今年は諸君も「してもら身障者」から、できる範囲内で少しでも「社会に奉仕する身障者」になって欲しい。(1973年2月7日 太陽新聞 第6号 年頭の辞)

あらゆる努力をしたのちで評価する。努力しないで障害が重度であるとか、人間の能力とかを決めつけてはいけない。評価は施設の能力しだいで上がり下がりする。努力する施設は能力を高める事ができる。太陽の家では“*No Charity but a Chance* (保護より機会を)”といっている。

(1976年10月第13回九州地区肢体不自由教育研究大会講演)

ハンディキャップというものは世の中が作るのであって、何も身体障害者自身が作るものではない。弱者が作るものではない。世の中が本当に彼らを受け入れるような態勢、何とか言うけれども身障者はだめだとか、うちの子どもはあそこは遊ばせたらいけないという偏見、そういう偏見とか社会の仕組みさえなければハンディキャップではないわけです。

(1979年7月26日 これからの福祉と教育 県小中学校校長会 講演)

これからの教育は、人間らしい人間を育てるようになる必要があります。その意味で福祉施設はただ身障者の世話をするというだけでなく、今後、教育の場として人間的な情緒豊かな人を育てあげる場としての使い道があるのではないのでしょうか。

(1982年 教育と福祉 別府市教育委員会主催第4回文化講演会)

身障者の移動動作に我々はすぐいろいろなメカを考えますが、東南アジアの家は2メートルくらい地面より高く造られたバンガロー風のものが多く、階段があります。下に降りたい時には口笛を吹くと近くの人達が抱えて降ろしてくれます。また、必要な食物は近くの人が持ってきてくれます。すぐリフトや車いす、ケースワーカーなどを考える私は、この時、リハビリテーションの基本は隣人愛・ヒューマニズムであるのではないかと考えさせられました。

(1977年2月25日 SICニュース)



太陽の家の制服姿の中村博士

長年ずっと社会に生活していて、いきなりある時点でもう年寄りになった、障害者になったからといって、急に社会から離れ、どんなに冷暖房が整った所にいても、けっして幸福ではないという事を、私は太陽の家の運営をしていてよくわかります。施設にいる事は、決して幸福な事ではないとよく知っています。そういう意味で今後はだんだんと脱施設といえますか、いわゆる日本の施設万能主義は終らねばならないと思います。

(1979年7月 これからの福祉と教育 大分県小中学校校長会講演)

昭和39年(1964)東京オリンピック後開催されたパラリンピックに参加した日本選手団のうち50名の車イス選手全員が病院の患者であり、ゲーム終了後50名ともまたもとの病院に帰って行った。この悲しい記憶が身体障害者の働く工場“太陽の家”を創始する直接の動機となった。(1973年9月 職業訓練)

太陽の家のシンボルは太陽と麦である。麦は踏まれてもぐんぐん成長する。太陽に向かって伸び続ける麦の形は団結を意味している。太陽の家の種が蒔かれ、各地に数多くの太陽の家ができ、ひとつのコーポレーションになることを願って、JAPAN SUN INDUSTRIES と複数形をとっている。身障者の真の幸福は、慈善ではなく働く機会を与えることにあることを強調したい。(1969年6月号 太陽の家 工芸ニュース Vol.36)

私はチャリティーに期待せず、借金して土地を買い、一般社会のルールに従い、他の会社と競争する事を信念とした。車イスや松葉杖を少しでも意識したならば、敗退の兆しが見えてきたと言わざるを得ない。そこにはチャリティーや同情は少しもない。力対力である。

(1977年1月 RI アジア汎太平洋地域委員会)

はじめは身障者だけでやっているのだという事が誇りであったが、最近は身障者と健常者がまじった社会を作るべきだ、そして最後には太陽の家なんかなくなってしまうという事を目標にしています。

(1976年10月28日 第13回九州地区肢体不自由教育研究大会講演 新しい時代に福祉)

みなさんは亀川地区に住居を持ち、そこから車で通勤する。太陽の家の建物は全部工場と事務所になっている。これが私の理想図です。

(1974年11月11日 太陽新聞 第13号)

最近欧米ではリハビリテーションというものがさかんようだから、その研究をしてみないかと言われたのが昭和29年(1954)頃だったですね。図書館に行っても本はほとんどなかったです。じつは、初めに辞書をパッと引いた時、刑務所の受刑者の更生という説明があつて、びっくりしちゃったのです。なんで教授はこんな事を僕に言ったのかなと思ったのを憶えています。

私の国立病院時代からずーっと一緒に、今も中村病院の副院長をやってもらっている畑田和男先生が非常にいい女房役だったですね。ほとんど二人でやったようなものです。だいたい肝臓なんかが悪くなって倒れかかったけれども、なんとか頑張つて、太陽の家をつくってからなら死んでもいいと思ってあまり治療もしませんでした。おかげさまでいつの間にか良くなりましたね。

結局、身障者に救急医療から仕事を与えるまでという事が信念でございましたから、スポーツ活動もやったし、色々やって、一応自分が思った半分位の事は出来たような気がします。リハビリテーションというのは、非常に難しいように思いましたけれども、身障者を社会人として扱い、適当な仕事を与え、アパートを造ってあげる、つまり住む所と仕事を与えれば自然に色々ものができると思います。

(1981年3月 リハビリテーションの道ひとすじに整形災害外科 第24巻第3号)

各地に太陽の家の姉妹関係の施設が実現し、果ては東南アジアの方まで広がったら、私の夢は終わるでしょう。

(1972年7月 太陽新聞創刊号)

# 挑戦の歴史



## 中村博士と障がい者スポーツの父 グットマン博士 (1960)

太陽の家創設者中村裕博士はイギリスのストックマンデビル病院のグットマン博士の下に留学。ここでは脊髄損傷者が驚異的なスピードで社会復帰しており「特別な医療“秘術”」を学ぶため、医師としての留学でした。



ストックマンデビル病院

## スポーツリハと障がい者の社会復帰

ストックマンデビル病院ではリハビリテーションにスポーツを取り入れ、さらに医療従事者だけでなくソーシャルワーカーなど様々な分野の人たちが協力し社会復帰を進めるシステムが構築されていました。当時の日本は「リハビリテーション」という言葉もなければ「脊髄損傷者は生きる屍、ベッドで一生涯」とされており、大きな衝撃を受けます。

## 障がい者を見世物にした！ (1961)

中村博士は帰国後、直ちに障がい者スポーツの普及を開始。大分県で日本初の障がい者スポーツの大会を開催しましたが、「障がい者を見世物にした」、「あなた、それでも医者ですか」など多くの批判を受けます。



第1回大分県身体障害者体育大会



## 国際大会へ日本人選手を派遣 (1962)

「大分の田舎で開催しているだけでは広く理解を得ることがむずかしい。注目を受けるような大きな国際大会を」と1964東京パラリンピック開催に向け奔走します。準備のため日本人を初めて国際大会に派遣、中村博士が費用を工面し、大分県から伊藤 工選手と吉田勝也選手が参加しました。

## 1964 東京パラリンピック開会

東京パラリンピックは1964年11月8日から5日間、代々木の選手村織田フィールドで開催されました。中村博士は日本選手団団長を務めました。



## パラリンピック選手村

自信に満ち楽しそうに過ごす欧米の障がい者たち。大会は成功したように見えたが、中村博士や参加した日本人選手の心中は違いました。欧米は「自立した選手」、日本人は「保護をうける患者」、競技成績も散々。格差を見せ付けられた大会でした。



## 太陽の家創立 (1965)

太陽の明るさと強さを持ち、我が家にさえ身を置く場のない身障者が、社会へ飛び出すための家を期して、作家の水上勉さんが名づけました。水上さんの次女直子さんにも障がいがあり中村博士が主治医でした。写真は直子さんのリハビリの様子で、中村博士（左下）と畑田博士（右上）と水上夫妻です。

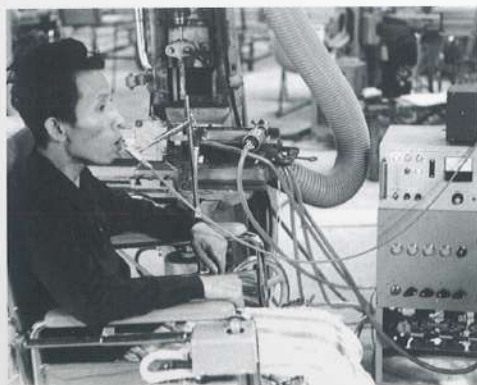
太陽の家開所式利用者須崎勝己氏の宣誓



### 創立当時の様子

設立1年で入所希望者は100人を超えました。障がい者自身もまた、自分が活躍できる場所を探していました。しかし、社会からの理解もなかなか得られず、仕事探しに苦労しました。自転車操業の日々、食費、寮費を払ったら赤字でしたが、「自分が生きる場所はここしかない」という強い意思を持った人たちで活気に溢れた生活でした。

「世に身心障害者はあっても  
仕事に障害はありえない」  
「足りない所は科学の力で」



呼吸の圧力を利用した「口スイッチ」で機械を操作した (1968)



車いす使用者も操作可能な改造射出成型機 (1968)

## よりよい社会を つくりましょう

オムロン創業者・立石一真氏との出会いが時代を大きく変えることになりました。立石氏も起業家であり中村博士のベンチャースピリッツに共感しました。



## 日本初の福祉工場・オムロン太陽 設立 (1972)

立石氏は職場環境開発に自信があったものの赤字覚悟の船出でした。しかし、オムロン太陽は初年度から黒字。「障がい者でも納税者になれる」が実現したときでした。中村博士は納税証明書を飾りました。



## 障がい者の特権無し の厳しさで

ソニー創業者・井深大氏は、本社で評論家の秋山ちえ子氏と中村博士に会い、太陽の家に仕事を出してもらいたいと懇願されました。井深氏は仕事の性質上ソニーは難しいと断わり、京都の立石電機を紹介しました。その後1977年株式会社サンインダストリーという社名で共同出資会社が設立され、1984年ソニー・太陽と社名を変更しました。



## 「涙がとまらない。 ホンダもやらなきゃ だめなんだ」

ホンダ創業者・本田宗一郎氏は、友人だった井深大氏に招かれ、1978年に初めて太陽の家を訪れ、見学のときにそう語ったそうです。ただちに太陽の家へ仕事の提供を決断。1981年にホンダ太陽を設立、1992年にはホンダR&D太陽が設立されました。



**太陽の家の支援者は投資者である (1981)**

立石一真氏、井深大氏、本田宗一郎氏、水上勉氏、秋山ちえこ氏、永六輔氏などが太陽の家第2作業棟前に一同に集まった写真です。CSR という概念も無い時代。多くの著名人たちが大分県別府市の田舎の整形外科医の想いに耳を傾けてくれました。著名人たちの支援は人々の心、社会、法律を動かすことへとつながりました。



**頭脳労働ならハンディは無い。ITへの挑戦 (1983)**

主に下肢に障害を持った人たちの就業場所として活動してきた太陽の家にとって、四肢に障害を持った人たちの就労が課題でした。その答えがコンピュータを使った仕事でした。今でいうIT企業として三菱商事太陽はスタートしました。



**自立と革新を愛知から (1984)**

別府で確立されたモデルが他でも通じるか、新たな生産革新への挑戦でした。明石六郎氏の情熱、デンソー社長戸田憲吾氏(当時)のご英断、蒲郡信金大竹重雄会長(当時)の支援により、デンソー・太陽・愛知太陽の家が実現しました。

### 障がい者が働くスーパー (1977)

スーパーマーケットは生活する上で重要なインフラ。障がい者だけのための施設としてではなく地域のみなさんも利用できるスーパーとして 1977 年に開店。今でも亀川地区の住民には「地元の店」として利用していただいています。地元大分のトキハイндアストリーから支援を得ています

### 日本初障がい者が働く銀行 (大分銀行太陽の家支店) (1980)

亀川支店も近くあり支店開設の必要性が疑問でした。中村博士は当時の大分銀行頭取に「世界で初めての事をしませんか?」と口説き 1980 年に開店。世界初かの真偽不明ですが「日本初」となりました。



### FESPIC 西洋からの恩はアジアへ (1975~)

発展途上国への障がい者スポーツの普及のため、FESPIC(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会)を開催しました。開催のテーマは“やしの木の下でも開催できる大会”とし、多くの障がい者が気軽に参加を目指しました。



### 世界初の車いすだけのマラソン大会 (1981~)

「車いすランナーと健常者が一緒に走ることに意味がある。これは不本意な大会開催だ」別府大分毎日マラソンへ車いすランナーの参加を求めましたが、受け入れられずに車いすランナーだけの大会を開催しました。



### 中村裕博士逝去 (1984)

享年 57 歳、太陽の家が 20 年目に入ろうとする矢先でした。葬儀委員長は井深大氏が務めました。







**チャレンジは続く (1986)**

オムロンのお膝元の京都市でオムロン京都太陽 / 京都太陽の家が活動を開始。更なる障がい者雇用を目指しました。

**重度障がい者の生活支援 (1988)**

就労の難しい重度障がい者の生活施設“ゆうわ”が開設しました。



**物を大切にする時代へ (1995)**

時代は使い捨ての時代からエコ、3Rへ。パソコン修理やATMのメンテを行う富士通エフサス太陽が1995年に設立されました。



**重度障がい者の就労支援**

太陽の家は設立以来、多くの企業からの支援により重度障がい者へ就労チャンスを提供しています。(写真は六興電気)





### 社会構造の変化に対応

日本はこれから超高齢化社会を迎えます。社会は常に変化をつづけるように太陽の家が求められるものも変化を続けます。2012年から高齢者支援を開始しました。



### 科学は人の役に立ってこそ意味がある (2014)

筑波大学山海教授が開発したロボットを使い機能回復を行う施設大分ロボケアセンターが開所しました。太陽の家の理念の一つである「足りない所は科学の力で」と山海教授の目指す理念が重なったことで実現しました。



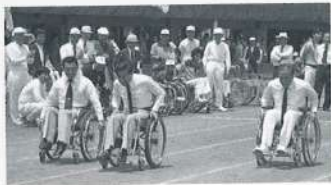
立石会長と中村理事長による創立50周年記念植樹  
(県木のブンゴウメ)

## 太陽の家を支えた先輩たち





挑戦の歴史  
スポーツ編



障がい者スポーツ

# FESPIC 大会



1975年(昭50)第1回 日本(大分市・別府市)



1975年(昭50)第1回表彰式



1977年(昭52)第2回 オーストラリア(パラマツタ)



1982年(昭57)第3回 香港(シャティン)



1986年(昭61)第4回 インドネシア(スカルクタ)



1989年(平元)第5回 日本(神戸市)



1994年(平6)第6回 中華人民共和国(北京)



1999年(平11)第7回 タイ(バンコク)



2002年(平14)第8回 大韓民国(釜山)



2006年(平18)第9回 マレーシア(クアラルンプール)



2006年(平18)第9回フェンシングの様子



2007年(平19)FESPIC モニュメント除幕式



## フェスピック・モニュメント「拓(ひらく)」

水平線は、東洋の悠久の永遠をあらわす線です。その台上のオブジェは自然の過酷な環境や四季の変化にも適応しながら芽を出し、根をおろし結実し、着実に生命をつないで行く、植物の大きなエネルギーと生命力を表現しました。国や民俗、宗教、文化などの違いを超えて、フェスピック大会の発展と言う同じ目的のもとに集まった人たちの活動をこれに重ねて象徴しました。円筒形のオブジェの背面に9回実施された記録を刻み、上部が切られた形は組織が変わってもフェスピックの理念が受け継がれ発展していくことを表しています。

# 大分国際車いすマラソン大会



1981年(昭56)第1回開会式でスピーチをする中村博士



1981年(昭56)第1回 県庁前をスタート



1981年(昭56)第1回 ゴール後握手をするフロント選手(左)とクナウプ選手(右)



1981年(昭56)マラソンメディカルチェック



1984年(昭59)第4回 弁天大橋を疾走する選手たち



1987年(昭62)第7回 沿道からの大声援を背に走る選手たち



1988年(昭63)第8回 マラソンレーサー集合



1990年(平2)第10回 競技場でのアッドヒート



2005年(平17)第25回 レース風景



2006年(平18)第26回 初の日本人総合優勝に輝いた笹原選手



2010年(平22)第30回 30年の感謝状受賞者と祝辞を述べる吉松選手



2010年(平22)第30回 ハーフゴールテープを切る渡邊選手

障がい者スポーツ

パラリンピック



1964年(昭39)第2回 日本(東京)



1968年(昭43)第3回 イスラエル(テルアビブ)



1976年(昭51)第5回 カナダ(トロント)



1980年(昭55)第6回 オランダ(アーネム)



1984年(昭59)第7回 イギリス(ストークマンデビル)



1988年(昭63)第8回 大韓民国(ソウル)



1992年(平4)第9回 スペイン(バルセロナ)



1996年(平8)第10回 アメリカ(アトランタ)



2000年(平12)第11回 オーストラリア(シドニー)



2004年(平16)第12回 ギリシャ(アテネ)  
畑野選手



2008年(平20)第13回 中華人民共和国(北京)  
菅原選手



2012年(平24)第14回 イギリス(ロンドン)

# 点描 日々の記憶



開所当時の管理棟玄関 (1966)



管理棟に続く九重寮 (1965)



案内板 現サストア前交差点 (1966)



縫製科 (1965) 太陽の家の標語が掲げられている



第1工場 東側 (1966)



竹工科 (1969)



昼休みの噴水広場 (1968) 後方左は体育館、中央に国立別府病院が見える。



義肢装具科 (1966)



印刷科 ABデッキ印刷機 (1966)



金工科関西工バー (1967)



旧事務所棟内の食堂 (1968)



第1作業棟のクリーニング科 (1967)



第2工場の金工科京都器 (1968)



由布寮 (1968)



開設直後 九重寮での生活 (1966)



図書室 (1968)





公衆浴場「太陽の湯」(1971)



本館竣工 福祉工場はまだない(1971)



本館1階にあった売店三峯(1971)



第2プラスチック課 マネキン製造(1970)



サンアップ工芸(1971)



研修センター前にて オーストラリア施設関係者と(1972)



工芸科唐木 高級紫檀家具(1971)



工芸科釜我 つけ工芸(1974)



研修センターにあった喫茶いこい(1980)



福祉工場 オムロン太陽電機(株)創業(1972)



特機科 マイクロフォン製造(1974)



むぎの会 文化祭(1973)



韓国聖生再活院研修生と南先生(1974)



宴会にて



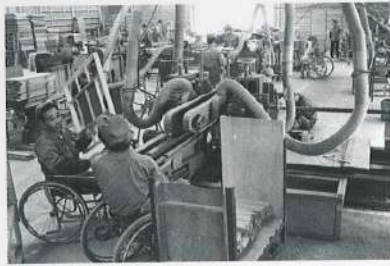
西日本バスケットボール大会(1972)



フィリピン研修生と中村博士、事務局職員(1974)



初代リフトバス(1966)



木工科シャープ (1971)



特産科 OSK 椎茸の梱包 (1974)



金工科カナクラ 仏壇の金箔貼り作業 (1976)



金工科田島 本館3階 (1980)



プラスチック科 杵築工場 (1979)



第2作業棟竣工式 本田宗一郎氏と井深大氏 (1978)



サンストア開店1周年 (1977)



コミセン(左)、由布寮(手前)、つるみ寮(奥) (1980)



ゆたか寮竣工 (1981)



職場対抗バドミントン大会 (1978)



鶴見ヶ丘高校夜間部通学 (1978)



別府市成人式で意見発表 (1979)



手こぎ3輪車いす競争 (1980)



坂本九さん サンストア取材 (1978)



太陽の湯従業員浴場 (1981)



別府本部全員集合 (1980)



愛知太陽の家設立 (1984)



デンソー太陽機コンピメータ  
2千万台達成 (2008)



噴水広場にて第20回記念身障身体歓迎会 (1980)



ゆたか寮作業 (1985)



金工科 幅広肘置改造いす (1981)



体育館にて全体朝礼 (1988)



作業イスの改造 ソニー・太陽機 (1986)



京都太陽の家設立 (1986)



むぎの会忘年会での中村先生 (1981)



電機科 T1 職開センター3階 (1993)



福祉工場、オムロン太陽機創立10周年立石一真氏と中村博士 (1982)



香港アビリンピックで太陽の家紹介 (1991)



国際障害者年パレード (1981)



福祉ホーム竣工 1戸あたり42㎡ (1988)



療護施設ゆわら開設 新職員 (1986)



住吉浜で創立 20 周年記念サマーキャンプ (1985)



車いすマラソン大会前夜に開催 (1987)



FESPIC 神戸大会聖火リレー  
旭化成宗茂選手が併走 (1989)



カンボジア研修生、  
大分タキで実習  
◀彼らが現地で製造  
した車いす  
(1994)



視覚障害者の作業 (1985)



足による作業 (1985)



体育館 2 階で投票 (1991)



第 1 作業棟 3 階 FJ 機器科 (1994)



大分銀行伝票搬送コンベア



社会福祉法人 太陽の家創立30周年記念音楽会



愛知太陽の家 10 周年 (1994)



京都太陽の家 10 周年 (1996)



創立 30 周年記念式典 第 9 を歌う テ・ノイン (1995)



工芸科 OBS テレビ取材 (1995)



三菱商事太陽 (1995)



第 2 作業棟 1 階 電子印刷センター (1997)



ソニー・太陽、特機科 (1998)



電子科 T I 検品作業 (1998)



ゆたか寮 関の江海岸で海水浴 (1993)



従業員家族赤ちゃん誕生 (1992)



紀宮ご視察 (1995)



FESPIC 北京大会応援ツアー 万里の長城にて (1994)



体育館フロアにて衣料品支給 (1996)



むぎの会インドアスポーツ大会 (1997)



イルミネーションツリー点灯 (1996)



療護施設ゆうわ 10 周年 記念の草細工 (1998)



むぎの会交流会 (別府:1997)



歌の祭典 (1998)



療護施設ゆうわ増床・デイサービス棟増築 (1999)



FESPIC/バンコク大会応援ツアー  
ワットプラケオにて (1999)



福祉工場 (1995)



理容室 旧本館 1 階 (2001)



工芸水泳訓練 (1997)



デンソーオムロン交流会 (2001)



大分タキ (2000)



ゆうわ リハ訓練 (1999)



第1作業棟4階 (株)J Mデザイン (2008)



第2作業棟1階 プラスチック科 (2002)



サンストア パン工房オープン (2006)



第1作業棟3階 富士通カスタマ太陽機 (2000)



電子科 (2003)



工芸科 (2006)



第1作業棟2階 ホンダ太陽機 (2004)



精機科 (2002)



第1作業棟1階食堂にて全寮新年会 (2000)



ゆうわ、リフトバスでレクリエーション (2000)



ゆうわ ボウリング大会 (2002)



定期健康診断 レントゲン撮影 (2003)



医務室 (2002)



産業医工場巡視 井口竹彦先生 (1999)



福祉ホームひだまり (愛知:2009)



サンアビ杯卓球バレー大会 (京都:2010)



京都ピアフレンズ全国大会出場 (2009)



福祉工場棟撤去 (2010)



福祉工場住居 2階、3階 (2001)



福祉工場 (2002)

福祉工場 (1999)



旧本館撤去 (2012)



旧本館 寮居室、スロープ、玄関、受付 (2012)



新旧本館遠望 (2012)



サンハウス大手町 (2013)



広寿苑 ユニットエリアの食堂 (2013)



オール太陽むぎの会交流会 (京都:2013)



中村裕記念基金事業 サマーキャンプ (2013)



挑戦！自分と未来に





# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 一歩ずつ少しずつ前へ

別府就労移行支援 宇留嶋 菜里



私は支援学校卒業後、平成25年4月より太陽の家（就労移行支援）の施設を利用しています。障害は広汎性発達障害です。訓練実習で印象に残っているのはあおぞらカフェでの事です。人と接することや予想外の出来事が起こるとパニックになってしまう私はカフェで実習をするのが嫌でした。苦手な事に対する不安から家に帰って泣いたこともありました。実習中は、失敗やストレスから泣きながらソファに座り込んだりパントリーの中にもつたりするこ

ともありました。しかし、やっていくうちに嫌な気持ちが自然に薄れ自分でも出来るかもしれないという気持ちに変わりました。現在はオムロンでピッキング作業をしています。苦勞している事は、部品番号の確認をする際失敗への恐怖や間違える事の不安から何度もためらってしまうことです。最初の頃、作業中に注意事項や細かい事を言われて、その時後ろからせかされ混乱してしまいました。出来なかった自分に腹が立ちエレベーターの中で壁を叩いてし

まい悔しきや苛立ちで泣いてしまいました。今は電卓で数を計算して答えが分かることや、部品を速く教えられるのがとても楽しいです。はっきりしていききちんとするのが好きな私にとっては充実感があります。自分に合っているこの実習に挑戦してよかったです。今の自分があるのは良い経験だけをしてきたからではありませぬ。色々な経験をして悩んだり泣いたりしてきたから今の自分があるのだと思います。これからも辛い事があっても逃げずに挑戦して行きます。

## 私のチャレンジ

### 階段掃除

障害者支援施設ゆたか 緒方 保



私が太陽の家に入所したのは、昭和46年8月で、29歳の時でした。それまでは、福岡県内の自宅で、両親、兄弟と生活していたため、寮生活をするのも初めての経験でした。

入所して半年ほど経ち、太陽の家での生活に慣れてきた頃、自分にできることで皆から喜ばれることが何かないかと考え、思いついたのが掃除をすることでした。

元々きれい好きな性分で歩行が可能だったこともあり、6階建ての日本館屋上から1階までの階段を毎朝掃くことにしました。朝食前の20分程度の作業でしたが、階段がきれいになることはもちろん、他の利用者から「ありがとう」

と声をかけられることがうれしく、とても励みになったことを覚えてます。

その後、足が悪くなり掃除ができなくなってしまいましたが、日

課として数十年間やりがいをもって取り組み、継続したことが、自分に大きな自信をもたらし、人生の財産にもなっているなど感じています。



1974年撮影

## 私のチャレンジ

### クラブ活動

別府就労継続支援B型 倉富 和子



私は、太陽の家に入所してから本格的に障がい者スポーツに取り組むようになり、現在はフライングディスククラブと卓球パレークラブに参加しています。フライングディスクでは毎年県大会にも出場し、過去全国障がい者スポーツ大会にも大分県代表として出場することが出来ました。卓球パレーでは、よく県外の大会や講習会に参加するためみんなと一緒に

車で遠征したりしています。クラブ活動を通じてたくさんの友人を作ることが出来ました。本当に、障害者スポーツに取り組んでよかったです。私もしばしば健康にも注意をしながら、私がクラブ活動を通してたくさんの楽しい思い出や友人を作ることが出来たように、若い障害者たちにスポーツの楽しさを伝えていきたいと

思っています。これからも太陽の家の仲間達と一緒にクラブ活動を頑張っていきます。



## 私のチャレンジ

## 健康と寿命にいつまでもチャレンジ

サンハウス大手町 佐藤 ステ子



三重町などで小学校の教諭を36年間していました。教諭になった年に終戦の玉音放送を生徒と一緒に聞き、それからは毎年、戦争の恐ろしさを生徒に伝えてきました。

私は、1年半前からサンハウス大手町で生活をしています。戦後の経験で、自分でできることは自分ですることをモットーにしています。夫が他界後も田舎

に18年ほど1人で暮らしました。朝は散歩をして野の花に語り掛け、美しい水の流れを眺めたり、立ち話を楽しんだりしました。公民館で俳句を勉強しては投句もしました。

老化や認知症を予防するには、読んで書いて計算して歩くことが大切だと新聞やテレビで学びました。今でも田舎での生活と同様に、公園で朝の散歩を日課

としています。俳句も続け、何度か新聞に掲載いただきました。

子どもが持ってきてくれる本を読み、日記などを書き、買い物にも出掛けています。子どもや職員の手を借りることもありますが、健康と寿命を意識して日々チャレンジしながら今後も生活しようと思います。

## 私のチャレンジ

## 障害を乗り越え 次は孫の結婚式

特別養護老人ホーム太陽の家広寿苑

豊田 孝子



幼少の頃より小児麻痺と共に過ごしてきました。両親は私に愛情をたっぷりそそいで、普通の子供として育ててくれました。成人し結婚話が出た時、今の旦那様と生涯を共にすることとなり、夫にも軽い障害がありましたが、二人の女の子を授かりました。子供の行事にも積極的に参加し、保護者会の役を引

き受け他の親御さんとも楽しく語らい平凡ながら幸福に暮らしていました。子供が成人後、突然病に襲われ歩くことが困難となりました。ベッド上の生活を強いられていますが、最愛の娘の結婚式へ出席することができ、愛らしい孫の顔を見ることも出来ました。それになにより、空のごとく広く大きな夫の

愛情に包まれながら、太陽の家広寿苑で家族の面会を楽しみにしています。

これからも家族の協力を得ながら、自宅への外泊が続けられるよう、孫の結婚式へ出席出来る事を願い広寿苑での日々を夢に向かってがんばりたいです。

## 私のチャレンジ

## 皆さんに気持ちよく過ごしてもらいたい

別府就労継続支援B型 中川 司



私は1981年、35才で太陽の家に入所しました。入所前の機能検査を創設者の中村裕先生にもらったことを今も憶えています。当時の太陽の家は、今はないような古い宿舎や建物がまだ残っていた時期でした。最初に配置された作業場は巻尺のケースを作るプラスチック科でした。私はケースの検査や職場の清掃、資材を運んだりする作業をしていました。作業は2交代制で、100キロ以上もある金型の運搬もありました。毎日忙しく残業もあり、きつかったのですがとても楽しく充実していました。

プラスチック科は杵築工場もあり、24時間稼働していたため、杵築工場で作業する時は、おやつやお茶を持参して夜中まで作業したこともありました。また杵築工場の周りは太陽の家のみかん畑があり、屋休みの楽しみはみかんの食い放題でした。皆と行った韓国旅行(いやパラリンピックの応援ツアーです)では、仲間の一人が迷子になり足止めを食ったこともありました。楽しい思い出です。今は環境科で、施設の清掃やゴミの分別確認等の作業をしています。ゴミの分別作業は分別ができていないとゴミ袋を空けて再

度選別をしたりするので、嫌になることもあります。回収する業者の方に迷惑をかけたくないといい頑張っています。環境科の作業は外での作業が多く大変な事もありますが、私は体を動かすことが好きで、皆さんから「綺麗になった」と声をかけてもらえる嬉しくなります。これからも皆さんに気持ちよく過ごしてもらえるように責任をもって環境科の作業を続けたいと思います。



# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### ボッチャ

指定障害者支援施設ゆうわ 橋爪 優 (大分県ボッチャ協会会長)



私がボッチャと出会ったのは1999年。当時の日本ボッチャ協会理事の方が講習会のため広島から太陽の家に來られた際、職員に誘われ参加しました。2000年に太陽の家の

ボッチャクラブ「SUN Chips」に入り、翌年の日本ボッチャ選手権大会出場&入賞を目標に練習を重ねました。初出場の試合は今でも印象に残っており、1試合目はかなり緊張しましたが何とか勝つことができました。2試合目からは少しリラックスでき予選を突破。しかし、決勝トーナメントは1戦目で負けてしまい、世の中そんなに甘くないという事を思い知らされました。その後の大会でも、予選は突破するも決勝トーナメントで負ける状態が2年続きました。同時にボッチャのルール変更があり、ボール仕様がより大きく・重

く・柔らかくなったため、コーチに相談して投球フォームを左上手投げから右下手投げに変更し、練習に明け暮れました。2006年の日本ボッチャ選手権3位が初入賞。時間は掛かりましたが、今では良い思い出です。現在まで優勝3回、3位3回が成績です。現在も施設内の特設フロアで練習をしていますが、いつまで大会に出場できるかわかりません。たとえ大会に出場できなくなっても、何らかの形でボッチャに関わっていきたいと思います。現在も多くの方に支えて頂きながら大分県ボッチャ協会の会長を勤めさせていただいてお

り、今後の目標は、日本ボッチャ選手権に出場できる新人選手の発掘と育成です。今後ともご支援をお願い致します。



## 私のチャレンジ

### 車いすマラソン

別府就労継続支援B型

### 松本 千太郎



昭和48年に入所し大部屋の6人部屋での生活がスタート。部屋には、西川さん、和田さんと木工で仕事をしている連中ばかりで、みな気が荒く、仕事が終わったら酒びたり。よく喧嘩をし、よくとぼちりを食らった。昭和55年の第12ロードレース大会で何とか優勝し、それから車いすマラソンにのめりこんだ。当初は、バスケット用車いすで練習をし、土日は貴船城まで、平日は血の池地獄まで毎日こいだ。並大抵のきつさじゃなかった。第2回大会に向けて、今度はコースを変え、土日は国立病院から十文字原まで、平日はやっぱり血の

池地獄まで毎日練習。そうこうしている間に車椅子が3輪に変わってきた。フルに出場したけどタイムが2時間30分から2時間50分の間でタイムがのびず7回、8回は欠場。10回大会で新しい車椅子を福祉から作ってもらい1時間

56分32秒のタイム。それからほぼ毎年レースに出場したが、平成24年8月に食道がんの手術をして以降参加できていない。いつの日か体調を整え、再び大分国際車いすマラソン大会に出場することが夢である。



## 私のチャレンジ

### 趣味を満喫

別府就労継続支援B型

### 吉次 一哉



「私のチャレンジ」という事で、原稿を頼まれたのですが、「なんでオレ？」というのが正直なところですね(笑)入所して30年になります。仕事や生活を普通に送るためにはある一定のモチベーションが必要なので、趣味をたくさん持つようにしています。20代の頃は、ツインバスケやボッチャ

などの体育会系もやっていた、一応の充実を感じていましたが、30代になり色々あって、「自分が本当にしたいことをやりたい」と思うようになり、今の生活スタイルにシフトしました。現在、趣味のクラシック音楽、オーディオ、競馬などにハマっていて、自分的には若い頃よりも非常に充実した日々を

送っています。さらに、平成25年7月25日から「ヨシツグカの趣味日記」というブログを書き始めました。これからも今の生活を維持しながら、音楽や競馬などの事についてかなりマニアックな内容ですが書き続けていきたいと思っています。

## 私のチャレンジ

### 「私のチャレンジ・夢の実現」

別府就労継続支援A型 西 久代



私は33年前に鹿児島県の実家を出て太陽の家に入所し、7年間授産で訓練をしたのちに福祉工場へ入社しました。福祉工場に入社するきっかけは当時指導員だった吉松さんが私に受験のチャンスを与えてくださり採用試験にチャレンジすることになりました。1度目は失敗。何とか2度目のチャレンジで入社することができました。合格の連絡を聞いた時は

非常に嬉しかった反面、手が不自由な私が仕事をやっていけるのかどうか不安が大きくなっていました。不安を払拭するべく入社してからは外観検査の試験にチャレンジし、今では組立工程の最終工程である外観検査という重要工程を任せていただけるまでになりました。今、振り返ればチャレンジし続けたことで、私の夢であった「結婚」、「マイホー

ムを建てる」ということが実現できたのではないかと思います。これからもチャレンジし続ける私でいたいです。



## 私のチャレンジ

### 「ほがらかさん」と、お客様に声をかけられた時は、おもわず「ガッツポーズ！」

別府就労継続支援A型 薬師寺 智子



入社して最初の挑戦が、「笑顔」でした。鏡の前で、優しい目で！大きな声で！と練習の日々でした。当時は手打ちのレジで、腱鞘炎になり、そんな時、上司の心の広さ、優しさに支えられ今の私があります。

いろんな経験もさせていただきました。30周年では第九を

歌い、車いすと共に詩吟で参加した国民文化祭、障害者とボランティアのバンドや踊りの司会もさせて頂きました。今は、全てのお客様と心が通じ合える様に手話の勉強をしています。

リニューアルしたステキなお店「サンストア」で思いやりのある仲間と共に、今日も

笑顔で、「いらっしやいませ」「ありがとうございます」、元気にお声かけをしています。



## 私のチャレンジ

### 信頼しあう風土の形成へ

三菱商事太陽樹 赤岩 充



私のチャレンジは、様々な活動を通じて、お互いを信頼しあい、尊敬しあえるという心情は、障害有無、老若男女等関わらず、お互いに持ちあうことができる、という風土が、日常生活に浸透されるよう取り組みたい。

一つは業務に関する取組です。私は現在、SEとして勤務しています。私は視力障害があり、また、他の社員も多種多様な障害等を有している方が多数います。しかし、ITサービス力は一般企業と競争可能な高いサービスを提供し続けています。今後も、実績を積み重ね、お客様のパートナーとして信頼される企業であり続けるよう取

り組みたい。もう一つは音楽に関する取組です。現在、趣味の一環で音楽活動等を行っています。障害有

無等問わず、音楽を通じ、お互いが音楽を楽しむ時間を共有しあうことで、信頼、尊敬しあえる風土になるよう取り組みたい。





# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 育児

三菱商事太陽㈱ 石橋 寿之



私が現在チャレンジしていることはズバリ「育児」です。妻と結婚して今年で九年となりますが、ようやく第一子となる女兒を授かることが出来ました。

私たち夫婦は、ともに障がいを持っているため自然妊娠が難しく、不妊治療に通っていました。不妊治療に通い始めて六年での妊娠、本当に嬉しかったです。

私も妻も地元が大分ではない

のですが、両家の家庭の事情により、実家に帰ることも親に手伝いに来てもらうことも難しい状況です。そのため夫婦二人での育児となりましたが、試行錯誤しながら育児に取り組み、娘は順調に成長してくれています。

現在、会社の理解もあり、私は育児休暇を頂いているので、育児に集中することが出来ています。休暇終了後は育児に費やす時間

が減ってしまいますが、仕事と育児を両立させ、娘に対して多くの愛情を注いでいこうと思います。



## 私のチャレンジ

### 仲間との出会い

オムロン太陽㈱ 鬼塚 豊



ともありました。

その後、普通校に通いましたが、小学生の頃は、「なぜ兄と僕は耳が聞こえないんだろう」と疑問ばかりで、自分が嫌になったりしました。先生や両親、友達の言葉が聞き取れないため、コミュニケーションがとれず悔しい思いもしました。

高校生までは、分ったふりをして過ごしていましたが、正しく聞き取れないことで苦労しました。高校卒業後は普通に社会人として働いていましたが、同窓会でろう学校の友人たちが手話で楽しそうに会話しているのを初めて見て、ろう者が手話で会話できること知りました。それからは自分も手話で話せるようになりたいと思

うようになり、必死で手話の勉強をしました。

2009年に大分に引っ越してからは、大分県聴覚障害者協会の区会長も務めるようになり、手話を多くの方に知ってもらうための活動もしています。

趣味では先輩から紹介してもらったサーフィンを13年間やっていました。2007年には第1回世界デフサーフィンで、大会の実行委員長も務め出場したショートクラスではベスト16に入ることもできました。大分に引っ越してからも多くの友達が出来、現在はソフトボールクラブで活動、2014年に沖縄で開催された「全国ろうあ体育大会」のソフトボールで優勝、2015年春の九州大会でも優勝す

ることができました。

2015年夏に京都で開催された全国ろう大会では一回戦で敗退しましたが、また次の目標に向かって練習に励んでいます。

ろう者であることを悩んだり苦しんだりしたこともありましたが、ろう者の仲間と出会ったことで自分の世界が広がりました。

今はろう者で生んでくれた両親に感謝しています。



## 私のチャレンジ

### 身体障害者野球へ挑戦

ホンダR&D太陽㈱ 片岡 勇人



私は福岡県にある北九州フューチャーズという身体障害者野球チームに所属しています。小中高では野球部に入り、甲子園を目指して日々練習していました。

高校2年当時、TV番組で、北九州フューチャーズの特集を見て、自分以外にも障害を抱えながら野球に取り組む人たちが初めて知り、昨年の4月高校卒業と同時に北九州フューチャーズに入りました。

幸運なことに、昨年はちょうど身体障害者野球の世界大会があり、アメリカ、プエルトリコ、韓国、台湾との試合に出場することができました。野球を通じ世界の障害のある野球選手と試合ができ、とてもいい経験ができました。

世界にも自分と同じように障害を抱えながらも、野球に取り組む人たちがいると知り世界観が変わりました。

現在の目標は、毎年行われる春と秋の身体障害者野球の全国大会を連覇することです。昨年は、達成できませんでしたが、今年こそは悲願の連覇を達成に向けて頑張りたいと思います。



## 私のチャレンジ

### 車いすマラソンの発展を支えたい

㈱大分銀行 太陽の家支店

坂元 智香



2009年の秋、とある縁がきっかけで、27年間生活して

いた鹿児島を離れ、大分で生活するようになり、早6年が過ぎました。それまで福祉関係の仕事に従事していましたが、大分ではこれまで全く経験の無かった「金融」という分野に足を踏み入れ、数々の失敗を繰り返しながら、何とか頑張っています。

大分に来て、多くの方と知り合う中で、「車いすマラソンをやってみないか？」と声をかけられました。2010年から競技を始め、現在も細々とつづけています。毎年大分で開催される大分国際車い

すマラソン大会には、国内外から多くの選手がエントリーし、活躍する姿が見られますが、その中で、県の障がい者体育協会が中心となって、県内の小中学生を対象に、選手と交流し、車いすマラソンを知ってもらおうという、普及・啓発活動に取り組んでいることを知りました。「車いすマラソン＝大分」というくらい、大分にとってはとても歴史があるものですが、それをもっと多くの人に知ってもらうため、ともに競技に取り組む夫とともに、活動に携わるようにな

りました。県内各地の小中学校や福祉施設を訪問し、車いすマラソンや、障がいを持つ人への理解が深まればと思っています。年々、競技人口が減少している中で「大分にいる選手だからこそ出来ること」を続け、車いすマラソンの発展のため、少しでも力になればと思います。



## 私のチャレンジ

### ハンドバイク

オムロン太陽㈱

笹原 廣喜



私は、1999年9月仕事での荷崩れ事故により脊髄を損傷してしまい下肢に重度障害を負い障がい者として生きていくこととなりました。絶望感と夢を失いどのように生きていくか途方に暮れていた時に出会ったのが「車いすマラソ

ン」でした。

退院後の2001年1月から車いすマラソン指導者の方に勧められ、その後の人生が大きく変わりました。

2001年3月宮崎日南のハーフマラソン大会でデビューして、17位でゴールすることができました。その後、指導者と先輩の指導のもと力をつけて2002年のフェスピックアジア大会で、10000mで3位、2004年のパラリンピックアテネ大会マラソン9位。障がい者になり自身の目標をやっと見つけることができました。

目標の「パラリンピックで金メダルを獲得すること」だけを考えた厳しいトレーニングに明け暮れていました。その甲斐があり2006年

の大分国際車いすマラソン大会で日本人初優勝を達成できました。その後も海外遠征や強化合宿で培った経験を生かして2008年パラリンピック北京大会で2位。1位と同タイムの「銀メダル」を獲得することが出来ました。目標の金メダルには届きませんでしたが、全てを出し切り悔いのないアスリート人生を送ることが出来ました。

2009年からは第一線を退き、市民ランナーとして走る楽しさを味わい続けています。また、その後の2012年から手で漕ぐ自転車「ハンドバイク」を始めました。国内の大会では距離60～80kmコースを何度か走りましたが上り坂のペ

ダリングはパワーとケンデンス（回転）の奥深さ、また下り坂では時速70km近い速度になります。ハンドバイクはリクライニングした状態で乗っているため地面から約50cm辺りの視線で体感速度はものすごく速く感じます。一般の自転車大会に混ざりハンドバイクを走らせると目立ちますが、私は障がいに関係なくチャレンジし続けようと思います。



## 私のチャレンジ

### 太陽とその仲間

(有)大分タキ

鮫島 直矢



30歳のときだった。ラジオ番組で秋山ちえこさんが太陽の家を紹介していた。遠方に行くことを反対していた父だがこの時は直接問い合わせをしてくれた。面接は名古屋にいた弟が鹿児島まで戻り車で送ってくれた。入所する時は、自分で改造したサイドカー付の原付バイクに乗り、義兄は別府までバイクで並走してくれた。昭和41年の1周年にバス1台を貸切り、宇佐神宮の広場でお弁当を

食べた。寮では近くの豚小屋の蚊に苦勞し、風呂は男女で交代に入り、洗濯板で洗濯していたのが今では懐かしい。3千円の作業工賃でリッター45円のガソリンをいれ、休日は友とバイクに乗りながら、「がんばれば太陽はよくなる」と口癖のように言っていた。心で話し合える仲間に出会ったのも太陽だ。仲間を大切に。すると必ず自分に返ってきた。その仲間は皆偉くなったが、いまでも「鮫ちゃん

」と仲良くしてくれる。80歳になり、いまからも仲間を大切に思うことが今、自分にできる最後のチャレンジかもしれない。





# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### バドミントン

オムロン太陽㈱ 塩地 優



出身地は熊本県の菊池です。太陽の家は、知り合いから紹介され、物づくりに興味があったのでオムロン太陽㈱を受け、入社することができました。今の仕事は、作業中心ですが現場の工程監督者を目標に、上司の方々からご指導を受けながら日々頑張っています。仕事以外で太陽に来てよかったことは、さまざまなスポーツが

盛んで体験できることと、スポーツをおしている人々と出会ったことです。フットサル、ローリングバレー、車いすマラソン、バドミントンと色々なスポーツを楽しんでいますが、その中でもバドミントンは太陽の家で教えてもらいながら、大会に出るために本格的に練習することにしました。そのため月に一回ですが福岡県の車いすバドミントンチームに参加

し、チームのみなさんに車いすでの動きを教えてもらっています。大きな目標ですが、いつかはパラリンピックに出場できるようになりたいと思っています。



## 私のチャレンジ

### 別府市を世界のユニバーサル・シティへ

(株) 電子印刷センター 杉本 恵子



別府市に住んでいる私たちが、実は気づいていないことがあります。それは車イスに乗った人たちが「別府へ来て驚いた」と口ぐちに言うこと。たとえば20年前、東京でも千葉、大阪、鹿児島でも、車イスに対するタクシーの乗車拒否は一般的なことだったそうです。理由は運転手さんが「どうしたらいいかわからないから」。ところが、太陽の家に入所するため別府へ来た車イスの人たちが、別府では一度も乗車拒否をされないことに驚いたというのです。JRの駅にもエレベーターがついていたし、車イスに乗って買い物をしている人たちを誰も

じろじろ見たりしない。ごく自然な光景として車イスが街を歩いている。夜になると車イスでお酒を飲みに行く人たちも多い！  
全国を見渡してもこんな街は他にないと、みんな口を揃えて言うのです。別府温泉地球博物館というNPOをご存じでしょうか。京都大学名誉教授の由佐悠起先生を理事長に温泉に関する分野の学者たちが集まって、別府温泉の魅力を、多面的に世界へ向けて発信しようという活動をつづけています。その中で太陽の家の小田博道さんと私が担当しているのは、車イスで入れる温泉の調査です。トイレも入り口の幅が何十センチあれば車イ

スが入れるか、データが揃っています。大きなことではなく、簡単な改装によって車イスで使えるトイレが出来ます。  
私たちが目指しているのは車イスの人たちが不自由なく生活できる道路や街。つまり別府市がユニバーサルデザインの街になることです。そうならば、今よりもっとたくさんの観光客が世界から別府市を訪れることでしょうか。高齢社会にも対応することが出来ます。第一、理想とするテーマを掲げてそれに向かってみんなで努力するというのは、閉塞感のある現在、一番元気になることではないでしょうか。

## 私のチャレンジ

### 卓球

ホンダ太陽㈱ 寺本 健太郎



私は今卓球の国際大会に出場することを目標にしています。国際大会の出場資格を得るためには2016年11月に開催される全日本障がい者卓球選手権大会でベスト8以上の成績を収めることが条件になっています。目標を達成するために日々の練習はもちろんのこと生活面にも気をつけています。食べるのが好きな

私にとっては、体作りやベストの体重を維持するための食事管理は大変です。特に体力づくりのトレーニングやケガを予防するためにやっている練習前のストレッチは入念に行っています。目標達成のためのトレーニングや自己管理、遠征費確保等、苦労することも多いですが、試合で勝てなかった相手に勝てたり、人と

の交流、遠征で美味しい物を食べたりと嬉しいこともあります。最後に私の最終の目標は、パラリンピックに出場して優勝することです。まだ世界大会出場が目標の私にとっては、厳しい挑戦になりますが、目標を達成できるように日々精進していきます。

## 私のチャレンジ

### 前進

ソニー・太陽㈱ 野口 新矢



ソニー・太陽株式会社に勤務して15年になりました。レコーディング用ヘッドホンの生産を担当しています。

6年前に、健康管理の一環で、何かスポーツをと思って探していました。その時、同僚から水泳に誘われて始めたのですが、今となっては、ストレスの解消にもなっています。

2010年から選手登録して5年が経ち、この間に、県スポ、おいでませ！山口大会、九州大会、ジャパンパラ、日本選手権

等にも出場していき、それぞれ良い結果を残すことができてよくなってきました。

デビューした年、チームメイトと出場した日本選手権で、私だけメダルを持って帰ることができなかったのが悔しかったことと、翌年頑張って、ジャパンパラに出場することができ、運良くメダルを持って帰れたことが、続けていく原動力になっています。

近頃は、指導の方もするようになり、選手兼コーチとして活

動するようにもなりました。

練習を重ねていくごとに、少しずつ成長していていることにうれしく感じています。この先いろいろな大会で、活躍できるようにしてもらいたいです。



## 私のチャレンジ

### 継続は力なり

富士通エフサス太陽㈱ 藤原 修



交通事故で車いすの生活になった私が初めて出会った障がい者スポーツが、車いすバスケットボールでした。1983年に太陽の家の授産施設に入所した時で、受傷後まもない私は車いすの操作やバスケットボールのコントロールも思うようにいかず悪戦苦闘しました。翌年には周りの誘いもあって大分国際車いすマラソン大会に出場することができました。完走できるか

不安を持ちながらの出場でしたが、無事に完走することができました。マラソンの魅力にひかれました。マラソンの魅力は完走した時の達成感や記録が更新できたときの喜び、そして沿道の方からの声援です。マラソンをはじめて30年が過ぎた今、私も結婚をして家族が増えたり生活環境は変わりましたが、職場の理解もいただき、記録の更新はもちろん、体力維持も兼ねて車

いすマラソンを続けています。



## 私のチャレンジ

### 自立生活

富士通エフサス太陽㈱ 古庄 守



私は1983年に太陽の家に入所しました。最初に配属された作業場は電子科II（日本テキサスインスツルメンツより受注したICの概観検査）に配属になり出荷の作業を担当しました。ICの生産が増えていた時期で、忙しかったことや外観検査の数量が100万個を突破して表彰を受けたことが思い出です。人生初の海外旅行で行ったインドネシア フェスピック大会の応援ツ

アーでマンゴーばかり食べたことや運動会の応援団として仮装したことも良い思い出です。1992年には作業場がFJ機器科に替わり、3年後45才の時、富士通エフサス太陽設立に伴い社員として念願の就職をすることができました。60才の定年後も契約社員としてATM関連の作業に従事しています。私は障害があったこともあり、幼い頃から学ぶ機

会も少なく、知識が多い方ではありませんでしたが、多くの方のサポートや独学で学んだことで自立生活をすることができました。機能面、体力面では若い時と同じようにはいきませんが、これからも工夫をしながら自立生活を続けていけるようにしたいと思います。



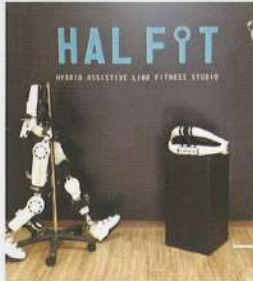


# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 私達 (HAL) のチャレンジ

大分ロボケアセンター(株) 間部 豊彦



30年間勤めた会社が思いがけず閉鎖され2013年から就活を行うことになりました。まさに青天の霹靂的な・

ルーティンワークのように毎日を通していた私にとってはロボケアセンターの毎日は全くもって新鮮でした。以前の暮らしでは接点がないであろう人たちとの毎日で、昨日と同じ今日、今日と同じ明日が来るなん

て勝手な思い込みだったのだと思い知らされておりました。スタジオに通ってくださっている利用者様は厳しい現実の中、今日と違う明日を目指してトレーニングしていらっしゃいます。私達 (HAL) に出れることは微々たるものですが、ロボットスーツによるトレーニングを通じて『もう一度立つ もう一度歩く』という大きな目標に向

かって共に進んで行きたいと思っております。



## 私のチャレンジ

### 車いす温泉道について

ホンダR&D太陽(株) 山口 修平



2年前に佐賀県から大分県別府市に引っ越してきました。以前から温泉に入りたいと思っていましたが、車いすの自分には無理だと諦めていました。そんな中、知人の紹介で車いす温泉に入るサポートを行っているNPO法人ゆびあの土谷雄一さんと出会いました。

初めは車いす温泉に入ることに不安もありましたが、回数を重ねるたびに温泉の魅力に惹

かれていき、11ヶ月で八十八カ所の温泉を巡り「別府八湯車いす温泉道名人」という称号をいただきました。その後、二回目の名人を達成し、現在三回目の名人達成を目指しています。私自身、「別府八湯車いす温泉道」を通して、車いすからの開放感や人の暖かさを身近に感じることができました。温泉に入ることを諦めている方々にもぜひ別府の温泉に入ってほしいと

思います。

今後は、九州の温泉八十八カ所を巡る「九州温泉道」で車いす初の名人達成に挑戦したいと思っています。



## 私のチャレンジ

### 自信を確信に

ソニー・太陽(株) 吉田 健志



「天才有限、努力無限」これは私が大切にしていることばの一つです。行き詰った時にはこのことばを思い出しています。私は2歳の時にはしかにかかった影響で弱視となりました。福岡視覚特別支援学校、久留米大学を経て、ソニー・太陽に就職。現在、勤続8年となります。私はPC-Talkerという音声読み上げソフトを使って、社内ホームページへのトピックス

掲載、会議の議事録作成等のパソコン業務を行っています。入社当時は画面を拡大しながら行っていた仕事も、今は画面を見ずに音声のみで行えるようになりました。また、現在は電話対応や会社見学対応等も行えるようになりました。当初は「そんなこと出来るのか?」と思っていたことが、今は「こんなことが出来ます」と自信を持てるようになりました。これからさら

に努力を重ね自分の出来ることをもっと増やし、自信を確信に変えていきたいと思っています。



## 私のチャレンジ

### 第1回フェスピック大会

別府事業本部 伊方 博義



第1回フェスピック大会で、太陽の家の体育館が車いすバスケット競技と閉会式に使われた。当時の体育館では採点板は手めくりだったし、計時はストップウォッチを使っていた。国際大会としてふさわしい会場を狙った私は、中村裕先生の許可を得ず、セイコーに、電光掲示板の借用を申し入れた。セイコーの回答は、「一式で400万円必要だ」であった。そんな大金はもちろんない。フェスピックが障がい者の国際大会であること、皇太子殿下ご

夫妻がご観戦なされることなどを書いた依頼状を出した。担当者を聞き出し電話も入れた。意義ある大会なので、半額なら可能だと云ってきた。もう一押しだとの感触を得た。アジアの開発途上国も参加する大会なので、会社の上層部に持ち上げてくれと強引に食い下がった。何度かのやりとりの後、1週間ほどして、担当者から「社内稟議が通り、無償で貸し出す」と返事が届いた。開会式の2日前に、セイコーの社員数名と5トンコンテナに積まれた電光掲

示板が2セット届いた。競技が行われている2日間、その社員達がつきっきりで操作してくれた。送料や社員の経費などを考えると400万円は当然だと納得した。フェスピック当日、中村裕先生が喜んだことは云うまでもない。



## 私のチャレンジ

### 社会を変える太陽の家の運動

別府事業本部 小田 博道



福祉の基本理念であるノーマライゼーション(完全参加と平等を実現する社会)は「環境」というハード抜きには成立しない。全市民を対象として社会へ拡大しているバリアフリーも然り。障害者の権利宣言で謳われている「合理的配慮」とはまさに太陽の家が実践してきた様々な取り組みを(今になって)説明している

のである。1976年、太陽の家に職を得て、「福祉は科学である」という中村裕先生の実践つまり太陽の家の実践に、工学という視点から参加できた。まず治工具・自動具の開発や作業姿勢やライン構成など物理的な就労環境の改善から始めた。障害者の地域での生活が広がるに従い、住環境の研究、さらには駅や交通機

関など社会環境へと対象は拡大した。また、専門学校や大学の若い人達への教育という仕事にも携わってきた。これは「太陽の家は教育の場としても活用できる」という中村先生の理念の実践である。振り返ってみればこの40年間は、社会を変える太陽の家の運動―挑戦―であった。

## 私のチャレンジ

### 今の仕事を活かし、ネパールへ恩返し

地域事業本部 カルキ ビラム



私はネパールの貧しい家庭に生まれ、子どもの時は「その日暮らし」という状況でした。それでも父は、教育だけは子供たちに受けさせてあげたいと、私を英語基準の学校へと

通わせてくれました。そのおかげもあって私は日本へ留学することができました。そして今、私は自分の家族だけではなく、国にも恩返しをしていく義務があると感じています。

#### 1. 「ネパールの障がい者の自立」

ネパールでは障がい者が外に出て働くことは稀で、家に閉じこもり、日々苦しく、貧しい生活を送っています。障がい者スポーツ分野への政府の関心も著しく薄く、遅れています。そこで私は、まずスポーツを通じてネパールの障がい者に笑顔と希望を与え

られたらと思っています。

①日本で使わなくなった古い車いすやスポーツ用具などを集めてネパールへ送る。

②太陽の家で学んだノウハウを現地の指導者や障がい者に伝える。今後、ネパールをはじめ、アジアの開発途上国の障がい者の自立をスポーツを通じて、形成していきけるよう頑張っていきたい。

#### 2. 「ネパールの子どもの未来のために」

2015年4月に発生したネパール大震災では多くの学校が倒壊しました。一刻も早く、学校を作らなければ子どもたちの夢や希望、

そして未来は失われることとなります。そのため、現在ネパールの中で最も被害の大きかった農村部にて、小中学校の再建活動を行っています。私のように貧しい家庭に生まれた子どもたちが、英語基準の学校に無料で通え、そして質の良い教育を受けられる学校を建設していきたいと思





# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 太陽の家の歴史を伝える

法人本部

徳田 構一



私は昭和57年23才で太陽の家の授産施設に入所、多くの方に支援してもらいながら7年間の授産訓練を経て法人の従業員として就職をすることが出来ました。2011年からは、広報担当となり来訪者の見学対応もするようになりました。恥ずかしいのですが、それまで太陽の家の歴史や創設者である中村裕先生のこともあまり

分らず、仕事として知る機会もありませんでした。広報担当になり中村先生や多くの先輩方が築いてきた太陽の家の歴史を学ぶ中で、中村先生が障がい者の自立支援に強い信念を持ち障がい者スポーツの普及や就労支援に果たしてきた功績の大きさを知ることが出来ています。まだ日本では障がい者のスポーツや就労がほとんど

進んでいない時代に世間の理解も温かいとは言えない中、「保護より機会を」の理念を掲げて太陽の家を開所しています。まだまだ分からないことも多いですが、少しでも多くの方に中村先生や多くの先輩方が積重ねてきた功績や理念を伝えていけるようチャレンジしていきたいと思います。

## 私のチャレンジ

### 卓球バレーの普及活動（究極のユニバーサルスポーツ“卓球バレー”の可能性）

地域事業本部 堀川 裕二



中村裕先生の先輩である父の勧めで太陽の家に就職して32年。3年目に赴任した京都で出会ったのが卓球バレーです。2順目最初の国体後に開催された「第24回全国身体障害者スポーツ大会」（1998年）で公開競技として実施された卓球バレーに、福祉工場で働く筋ジムのAさんを中心にチームを作って参加したのが最初の取り組みでした。

その2年後に大分に戻り、県障

害者スポーツ指導者協議会と太陽の家むぎの会の会長に選出されてからは本格的に卓球バレーの普及活動に取り組み、京都での公開競技から丸20年経った「第8回全国障害者スポーツ大会」（2008年）でオープン競技として復活、同時に「日本卓球バレー連盟」を発足させることが出来ました。それ以後、国内外で普及活動を展開しています。身体障害から

的障害、精神障害、高齢者の分野まで広がった今、「ユニバーサルスポーツ」が求められています。



## 私のチャレンジ

### 念願の一人暮らし

利用者08

阿部 宏



太陽の家50周年、おめでとうございます。幼い頃からの夢を書きました。施設生活は果たして、これで良いのだろうか？生活のルールはありますが障害者自身の意思ではなく全て施設側の時間にあつた行動で動いています。本当に、それで良いのでしょうか？365日みんなと同じ時間に起き、三食の食事をし同じ時間に寝るのが毎日毎日の繰り返しで40年間も施設暮らしをしてきた、私は毎日の変化がないことに気が段々面白くなり、もっと自由と刺激が欲しくなりました。幼い時は、ともかく思い始めたのが

学校を卒業して私の同級生は、みんな働いてお金を稼ぐ喜びや遊びに行く楽しさがあるのに私だけが職員の言うがままの生活なんだろうか？悔しくて悔しくて、いつかは施設を出てやると思いました。施設というのは、自分で出来るのに時間がないからと言って自分でさせてもらえず、危ないからと言って車いすからベッコ移動も・・・それって言うのは、職員側から見ると良いと思いますが、我々は物でもなくて、一人の人間です。皆さんと同じ自由と権利があります。私は以前、ヨーロッパに二週間ポッチャの大会で行っ

てきました。その時、障害者施設ではなく皆さんアパートを借りてヘルパーさんと一緒に住んでおられました。その時、思ったのは日本の福祉は遅れていると思いながら帰ってきました。私は、今回やっとの思いで夢を果たしてヘルパーさんを利用して念願の一人暮らしをしています。いざ、やってみると楽しい反面自己責任を覚悟しなければなりません。まだまだ未熟ではございますが、今まで学んだことや経験を子供たち（障がい者）に伝え、幸せだと思えるようにしていきたいです。

## 私のチャレンジ

### 絵描き

利用者08

大峯 直幸



僕は1995年18歳で太陽の家に入所しました。20歳頃に作業量が少なくなって、工賃が減ってしまいました。僕がや

る気をなくしていた時、新しい作業、太陽の家のオリジナルTシャツを作ることになり、職場の仲間と絵を描きました。その時、私が描いたくじら島の絵を担当の職員さんが「夢があるんだね」と言ってくれたことが嬉しくてたまりませんでした。オリジナルTシャツは新聞でも紹介され、売上げも皆の工賃になるため、絵を描くことに喜びを感じていました。

自分には才能があるかもと思うようになりました。それからは自信をもって腕を磨こうと心に誓い、5年間多くの鉛筆デッサンを

したことがとても勉強になりました。その後、オリジナルの絵葉書も販売されましたが、あまり売れませんでした。その時は、僕は何の為に絵を描いているのか?と悩みましたが、自分だけが辛いのではない、他にも辛い思いをしながらいち一生懸命に生きている仲間がいると分り、人生は素晴らしいと感じられるようになりました。特に仲間から「みね、元気か?」と声をかけてもらった時は「もうひとりじゃない。みんなが僕を応援してくれる。」と嬉しかったです。

それからは「僕もみんなを応援したい。幸せにできるような明るい作品を描きたい」と思うように

なりました。現在38歳になりましたが、10年前に実家の福岡県若宮に戻り、7年前より「工房まる」で仲間と共に大好きな絵を描いています。2015年の秋には、2回目の個展にチャレンジします。太陽の家での11年間、皆さん有難うございました。



## 私のチャレンジ

### 一人暮らしにチャレンジ

利用者08

佐藤 純一



太陽の家50周年おめでとうございます。

私は、太陽の家 ゆうわで10年間生活をしていました。その当時の思い出は、職員の方と一緒にバンド活動をして、様々なイベントで演奏出来たことがとても良い思い出です。

今回のテーマが「チャレンジ」ということで考えてみると、ゆうわを退所して、部屋を借りて、生活を始めたことがチャレンジでした。当時は生活していく上で必要な知識がまったくなく、部屋の借り方すらわかりませんでした。自

分一人では、何からやってもいいのかわからない状態でした。その時に、周りの方にたくさん助けてもらい、生活を始めることが出来ました。生活していく中で、自分の知識の無さと経験不足を実感しました。その時に様々な経験をさせてもらいました。中でも友人との旅行は、何度も経験したいと思いました。

これからも、経験や知識を積み重ねていき、より充実した生活を送ることが、最大のチャレンジだと思っています。

現在は、福祉住環境コーディネーター

1級を取得できるように、勉強しています。



## 私のチャレンジ

### 要介護3認定からのチャレンジ

利用者08

須崎 勝巳



私は1965年、太陽の家創設時に施設に入所、数年後に結婚をして別府市内の別府義肢製作所で働くようになりました。70才を過ぎてからも一カ月に10日前後働いていましたが、急な発熱で入院となりました。医師から腎盂炎とお尻の深い所に腫瘍(ポケット)できていると告げられました。手術をして4ヶ月後に退院、その後、傷が悪化して再度の入院もありましたが、現在は完治しています。退院して一番の驚きは、自分の体力

(筋力)低下です。それまで自分の体力には自信がありましたが、それは過信だったと反省しました。退院後、車椅子やベットへの移行が思うようにできず何度も失敗を繰り返しました。もう寝たきりになってしまったと落胆しましたが、友人との会話や周りの励ましで元気をもらい、自宅でリハビリを続けています。入院時、悪い事ばかり浮かんで夜も眠れない日が続き、これがうつ病かと思ったこともありましたが、友人との雑談

等、人との何気ない会話で自分の心が良い方向に変わっていくことを知りました。今は何事にも感謝の気持ちを持ちながら、要介護3を脱しようと毎日筋トレを続けています。





# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 障害がある人もない人も暮らしやすい共生社会に向けて

利用者OB 古庄 和秀



太陽の家50周年、おめでとうございます。平成9年から14年まで重度授産に入所し、情報処理科でお世話になりました。

地元へ帰省し、NPOで活動する中で、ポリオの当事者議員のご勇退から、急遽、平成15年4月の大牟田市議会議員選挙に立候補を決意し、初当選しました。現在4期目です。市民生活の向上、特に障害者の地域生活の充実、就労環境の向上に努めています。しか

し、就労継続支援B型の工賃の全国平均は、私が情報処理科で初めて頂いた、皆勤手当含めた14,800円と同等の水準です。昨年わが国は、国連障害者権利条約を批准しました。この条約は、障害がある人とない人との平等を基礎としています。生まれ、学び、暮らし、働く、あらゆる場面において、障害がある人もない人も平等で暮らしやすい共生社会の実現に向け、取り組んでいきます。



## 私のチャレンジ

### 私の挑戦

事務局OB 小林 順一



太陽の家創立50周年おめでとうございます。

私は、昭和50年4月～平成3年7月末まで太陽の家で働き障がい者の社会参加を促進する手段として障がい者スポーツと深く関わり、貴重な体験をすることができました。退職後は高知県に帰り障がい者スポーツの現実を見て、大分県との差に愕然とすると共に高知県の障がい者スポーツ推進に挑戦することを決意しました。「思いついたら実行」を理念として、障がい者スポーツを推進する組織づくり、指導者の養成、各競技団体の育成、高知県障害者

スポーツ大会の改革などに挑戦してきました。

結果として、障がい者スポーツセンターの設立、指導者の養成についての成果がありました。組織づくりについては課題が残っていますが2020年東京パラリンピックまでにはスポーツ協会を設立するための挑戦を続けたいと思います。

また、高齢化及び障がい者スポーツ人口の減少など、地方の抱える課題は多く、県単位では解決できない課題も多くあるため、中国・四国スポーツ協会協議会、中国・四国障がい者スポーツ連絡会（行政、スポーツ協会、指

導者協議会）を設立し、課題の共有と情報交換をしながら障がい者スポーツ推進にも挑戦してきました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの5年間で地方での障がい者スポーツを推進するための大きなチャンスだと思いますので、「よきスポーツマンはよき社会人である」をモットーに、今後も地方での障がい者スポーツ推進のため挑戦を続けていきたいと思っています。



## 私のチャレンジ

### 人工呼吸器を着けての単身在宅生活！

福祉工場OB 金尾 亮一



福祉工場従業員として働いていた平成24年、急性腎不全、播種性血管凝固、敗血症性ショックを発症。2週間の危篤状態から目覚めた時、それまで拒否していた人工呼吸器が装着されていた。搬送先の病院のお陰で、一ヵ月半後には西別府病院に戻り、自発呼吸、発声、口から食物摂取、その全てに挑戦。結果、口から普通食を食べられるようになった。次は自宅に帰りたいと願った

が、人工呼吸器装着での単身生活は難しいと言われた。でも、退院先は自宅以外考えられなかった。別府ではまだ人工呼吸器装着での単身生活はおらず、何度も関係機関との調整や会議を繰り返し、ようやく一年後に在宅生活が叶った。在宅生活への理解と協力をしてくれた家族や先生、病院の地域連携室・難病支援センター・相談支援事業所等の相談員、また当時関わってくれた皆さんにお世

話になり、私の我ままを叶えてくれたことに感謝している。

現在も数ヵ月毎に自宅と病院交互の生活ではあるが、人工呼吸器を着けて看護師やヘルパーと外出、外食等、次々と希望を叶えた。

人工呼吸器を着けているために、希望しても自宅に帰れない人達が、帰れるようになれば良いと思う。その人達のためにも、単身でも在宅生活ができることを色々な方知って貰いたい。

## 私のチャレンジ

## 地域に発信

福祉工場OG 高窪 仁美



私は視覚障害者、弱視です。太陽の家では24年間働かせていただきました。退職して7年、私が今チャレンジしていることは新聞や雑誌等への投稿を中心とした執筆です。もともと書くことは好きだったのですが、友の助言もあり、投稿することによってよりいろんな人とつながっていけるのではないかと思うようになり、ペンを執り始めました。内容はふだんの暮らしの中でふと心に留まったこと。特に人のやさしさにふれる喜びは、障害を

持って一人で暮らしている私にとって、一番書きたい題材になっています。うれしいことにこれまで何度か活字になり、自分自身励みになっていますが、何より人に読んでもらえているという幸せを実感しております。

ペンで自分の思いをたくさん人に届ける、これが私のライフワーク。これからも障害者としての立場からだけでなく、一社会人として何かしら地域に発信し続けていけたらと考えています。



## 私のチャレンジ

## 中村先生の思い出を胸に

医療法人 松永会 老人保健施設アイユウ(事務局OB) 高橋 寛



私は22歳から約35年間を太陽の家の仲間(障がいの有無問わず)と共に理念の実現に向けてワクワクする様な時間を過ごしました。その時学んだことは「自立」の一言です。また、時代が身体から知的や精神の障がいを含め、地域での共生へと大きく舵を切る中、郷里の母や慈しみ育てくれた義父との約束もあり、加齢障害と向きあう人々の支援を次の仕事としました。特に生来の障がいを持ちながら加齢と戦っている方を一人でも多く支援したいと思っています。

まず、老人保健施設の通所リハや訪問リハに身を置きながら、基礎知識を整理するため介護支援専門員(ケアマネ)、訪問リハビリテーション現場リーダー、2級福祉住環境コーディネーターや福祉用具プランナー資格を学び、取得しました。また、「第11回全国障がい者スポーツ大会・山口大会」の4年前に帰省、早速県理学療法士協会の公益事業推進部として、大会をサポートする「コンディショニングルーム」のスタッフの養成に取り組みました。県障がい者スポーツ協会と共催で「初級

障がい者スポーツ指導者講習会」、「コンディショニングセミナー」を毎年開催、中堅リーダーを育成しながら、大会の年は彼らと作成したテキストを用いながら、県下5ブロックに「イブニングセミナー」を展開、約200名体制で本大会を支援しました。

現在は、親友の日本理学療法士会の会長から依頼を受け、中村先生の思いを胸に小林、指宿さんと共に「パラリンピック東京2020」の支援体制づくりに取り組んでいます。

## 私のチャレンジ

## ボッチャを通じて

愛知就労継続支援B型

桑原 法久



私がボッチャと出会ったのは、十三年前の浜松の施設に居る時です。偶然、障害者スポーツ指導員の方が慰問にみえ、紹介してくれたのが始めるきっかけでした。それから、ルールを覚え、競技を楽しむようになりました。その後、市内の大会等にも参加するようになり、優勝も経験しました。ただ、競技の勝ち負け以上に、大会に参加することに沢山の友達ができることに喜びや楽しさを感じる

ようになりました。

太陽の家に入ってから、当時の先輩方に誘ってもらい、クラブに入り活動を開始しました。今では一番の年長で、職場の若い子たちと一緒に活動に励んでいます。県内の大会を中心に出場し、いい結果が出せるよう頑張っています。また、重度な障害を持っていてもできる「ボッチャ」という競技を通じて、特別支援学校の生徒さん達に、ボッチャの競技と楽しさ

を教えるのと同時に、交流の場を作る活動をしています。私にとっても、彼らに会うことが楽しみであり、貴重な時間です。今後も続けていきたいと思っています。

私自身も重度な障害ですが、元氣なうちはもっともっと外へ出て、ボッチャを通じて楽しみながら、いろいろな人と出会い、交友関係を作っていこうと頑張っています。



# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### 一般就労に向けて

愛知就労継続支援A型

小林 裕人



私は、今年の四月に、第一の目標としてきた「蒲郡ワークセンター（A型）」従業員となることができました。私は、精神障害者手帳を取得後、地域生活支援センター「しおさい」、B型「あじさい」を利用し、その後次のステップとして、自立した生活をしていきたい希望を叶えるため、太陽の家を紹介され、一週間の実習を経て、「蒲郡ワークショップ

（B型）」を利用することを選択しました。これまでの全てが、人と接することが苦手な私にとってはチャレンジでしたが、太陽の家に入った時が最も環境の変化が大きく、大変苦労しました。ただ、太陽の家のB型を利用できた時と今回A型に採用された時は、私自身大変嬉しかったことを覚えています。

現在は、A型従業員として、生

産管理の仕事をしています、仲間が助けてくれることがあることがとても嬉しく、有難いと思っています。自分自身も、お互いに助け合って作業していきたいと思っています。

また、今まで私を応援してくれた人と支えてくれた人に、感謝の気持ちで一杯です。そして、A型からデンソー太陽（一般就労）に就職することが、私の目標です。まだまだ私のチャレンジは続きます。

## 私のチャレンジ

### 受傷後の日常生活

デンソー太陽機

西口 往伸



たんだらう・・・と頭の中は真っ白になりました。

私の状況が理解できたのは入院1ヵ月経った頃でした。もう、自分の足で歩けなくなったんだ。今まで建築の仕事で家族を養ってきたのにこれからどうしよう。これから先どうなってしまうだろう。いろいろなことを考えてしまいました。そんな中、妻は「歩けなくなったからしょうがないじゃないの。くよくよ考えても始まらないから。」と、私を励まし、カツを入れてくれました。妻はその時3人目の子供を妊娠していました。それを機に、まだ見ぬ生活の為にハビリに励みました。健常者の時とは全く身体感覚が違

うことに戸惑いながらも、日常生活が出来る事を目標に続けました。当然足が動かないので、服を着る・服を脱ぐ・トイレに行く・車を運転する・・・など全てのことが私にとってはチャレンジでした。院外での車いすでの行動も想像を絶するほど違うことも気づかされました。ちょっとしたくぼみ・段差・・・などなど今まで何気なくやっていたことが全く違うことを1つ1つ解決しながら前に進みました。自分の足は車いすなんだと自分自身に言い聞かせながら・・・そして、私がリハビリを進めていると同時に住む家の工事も着々と進みました。

入院生活も8ヵ月続き、ようやく

退院できる日がやってきました。お腹にいた子も無事に生まれ、生活できる場所も完成しました。

車いす生活を送るようになってから22年の月日が流れました。今現在、何かのご縁でデンソー太陽で仕事をさせて頂いています。

今なお私のチャレンジは続いています。



1993年8月13日に、仕事上の事故により受傷してしまいました。その日までは自分の足で歩いて生活していたのに・・・

突然、足が動かなくなりました。私にとっては「何が起こっ

## 私のチャレンジ

### 仕事

デンソー太陽機

西野 浩司



私は、愛知太陽の家で平成元年1月から26年8ヵ月間、仕事をして来ました。

自分の障害は、右上肢全廃と右下肢機能障害で入社前、見学をしたときに障害者が自動車メーカーのライン作業を普通に行っていたのにびっくりして自分が同じように作業が出来るか不安でした。

しかし、自分と同じ障害でも作業しているのを見て、「やれば、出来る」と思って一生懸命に頑

張って作業をしようと思いました。作業で手順を覚えるのですが班長や先輩に片手で上手く作業するには、身振り手振りで勘・コツのアドバイスや改善をして貰いました。なかなか教えられたとおりに作業が出来ずに戸惑いました。アドバイスを基に自分なりに取り方、持ち方、置き方を考えてラインスピードに遅れないようにするのに苦労しました。ここまで、自分なりに努力し、努力した甲斐

あって、デンソー太陽に採用され、現在は係長として、作業場の管理運営と従業員への教育・指導・育成を行っています。

これからも今まで培った経験をいかしてデンソー太陽のモットーである「よい品質が我らの仕事を確保する。よい品質で信頼されるデンソー太陽を！」を実践していくと同時に、次世代の人材育成を行うことで会社に貢献し、自分自身の成長を図れるよう頑張っていきたいです。

## 私のチャレンジ

## トライアスロン

京都就労継続支援B型

小林洋祐・早苗(母)



洋祐のトライアスロンへのチャレンジの原点はちょうど10年前、高校1年の秋、京都南部の小さな町、宇治田原町で開催された小さなマラソン大会でした。8.6kmを完走することから始まった彼のチャレンジは1年後にハーフ、2年

後にはフルマラソンとなり、6年後にはトライアスロンとなりました。

毎年、自己ベストを更新し、いつかは石垣島の鉄人レースに挑戦するのが目標です。その為に毎日のランニング、週末の水泳、バイクのト

レーニングに励んでいます。気がつけば早いもので、アラサーになってしまった洋祐に、どうか怪我だけはしないでねと母は祈るばかりです。そんな母の心配をよそに、今日もチャレンジは続いているのです。

## 私のチャレンジ

## バイク

オムロン京都太陽㈱

塩月 有明



をハグしながら走りました。風をきって気持ちよかったことをはっきり覚えています。

20歳になって中型二輪免許を取得。

京都に越してから新しい仕事に集中するためにバイクは当分休眠。

数年後400ccのバイクに乗り、健聴者のバイク仲間も増え、インストラクターからの勧めで、二輪車ジムカーナにて「3安全」を教えて頂いた。

「1. 走る 2. 止まる 3. 曲がる」の信条で、こうすればとっさに避けられる(事故)と自信を持つようになりました。また、自転車、歩行者、バイク

に車がつっこんできてたくさんの方がなくなるニュースが目立つようになってきた現在、命と生活を守るために人一倍注意を払うようになりました。

大型自動二輪への憧れはずっと続いていて、免許制度変更前の当方で大型自動二輪免許試験は大変厳しいと噂を聞いたりしましたが、待ってもいられなくなり、ついに33歳頃一発試験に5回チャレンジしてやっと合格できました。

家内と一緒に乗り、子供も授かり、家族でツーリングできたらなあど夢を持つようになって20年経った今、家内も息子も大型二輪免許持っています。何も

しなければ永遠に結果は出ないと思うし、現状が変化することもない。これでは自信がつくことはないだろうと思う。色々チャレンジすれば失敗したとしても挑戦できた自信が付き大きな一歩になると思います。

オムロン京都太陽、太陽の家でも手話ができる健聴者達を含め、バイク仲間が増え、いろんなところへツーリングに行ったりエンジョイしています。

今度9月に富士山へツーリングに行く予定で、楽しみです。

セカンドチャレンジは、家内とバイクで日本一周したいことかな。

私の趣味はバイクに乗ること・・・

きっかけは小学2年生の時に亡父の後ろに乗せてもらったのが始まり。

あの頃はヘルメットの規制になる前で、亡父の背中

## 私のチャレンジ

## 自分の足で歩く

オムロン京都太陽㈱

中井 康彦



2012年12月に事故により腰椎12番を骨折、脊髄を損傷し車いすの生活になりました。

医者には一生車いすの生活になることを宣告され、生きていく理由が持てず、毎日死にたいと考えていました。

しかし、家族、友人に支えられ生きるという選択肢を与えてもらいました。そして、リハビリを続けるうちに動かなかった足が少し動くようになり“歩ける”という可能

性が微かに見えただけで涙が溢れました。それと同時にリハビリを続けると歩けるのではないかといい、誰が何を言おうとリハビリを続けて自分の足で歩く!と決意しました。

今は支えがないと立ち上がることもできませんが10年、20年後に歩いている姿を目指して今後も頑張るリハビリを続けて行きたいと思っています。

また車いすマラソンにも挑戦し

ており、そちらも日々の練習を頑張っています。







# 挑戦！自分と未来に

## 私のチャレンジ

### パフォーマー

オムロン京都太陽㈱ 西田 敬康



私は、感音性難聴という聴覚障がいがあり、3歳半の時から両耳に補聴器を装着しています。補聴器をつけたからといって、全ての音を聞き取ることはできません。例えば、「たばこ」が「たまご」に聞こえたり、音の識別が困難で、口の動きを見て、音を聴いているので、音だけの生活で生きていくには限界があります。

また、コミュニケーション障がいとも言われます。私が22歳

の時、ある人からこんな一言を受けました。「障がいは個性!」と。そのとき、私は、その場で泣き崩れてしまいました。「障がいは個性だ!」と言われてから、少しずつ障がいを受け入れられるようになり、今では、手話も覚え、コミュニケーションの幅が広がり、当時よりもたくさん笑うようになりました。趣味はダンスで、サインダンスチームに入りました。今後、サインダンスだけでなく、マイム

など、身体で視覚的に楽しめる、そんなパフォーマーになれるよう日々チャレンジしていきたいと思っています。



## 私のチャレンジ

### 4Disabilities

京都就労継続支援A型 本村 智之



現在、4Disabilitiesというバンドで、障がい者になって自分達が感じた事や想いをサインダンスにより目で楽しむ音楽をコンセプトに活動をしています。

最近では小・中学校での福祉教育の一環として講義と演奏も行っており、後日、子供たちの感想文などを頂きメンバーと読みだすと自分たちが伝えたいと思っている事、それ以上の事を子供たちは感じてくれていて、本当に

活動をやっていてよかったと改めて思う事がよくあります。

この先も、もっと活動を広げて多くの人たちと音楽を通じてふれあい大きく言えばいろんな人達に勇気や希望を与え、障がい者と健常者の壁を無くしていきたいと思っています。

人生は1度きり後悔はするべきではないと思っているので、後悔どころか生きた証を残せるように日々精進して行きたいと思っています。

最期に、このような機会を与

えていただけているオムロン京都太陽、太陽の家に感謝して日々の仕事も頑張り上を目指していきたいと思っています。



## 私のチャレンジ

### よりよい社会の実現に向けて

オムロン京都太陽㈱ 用田 竹司



オムロン京都株式会社 企画部で、経営管理や、CSR活動(見学、講演、ホームページ更新)の業務を行っています。

昨年障がい者の法定雇用率が、1.8%から2%に引き上げられました。軽度な障がい者であれば雇用は進んでいます。重度な障がい者になればなるほど雇用が進んでいないのが実情です。私は自分の業

務である見学案内を通じて、一人でも多くの方々に、障がい者の理解を深めるため、見学者の満足度向上にチャレンジしています。

特に見学者のニーズに合わせた説明・案内対応や、見学後のフォローアンケートなどを中心に、様々な取り組みを通じて満足度を向上させ、一人ひとりが地域社会に戻った時

に新たな行動をすることで、よりよい社会につながります。

よりよい社会の実現する事で、多くの障がい者が働く機会ができ働く喜びを感じてもらうため、チャレンジしてきました。と思っています。



そして未来へ

# 太陽の家創立50周年記念シンポジウム

平成 27 年 7 月 8 日(水)14:00~16:30 会場：太陽の家コミュニティーセンター3F

今後の支援の姿は？ これから何をを目指すのか？ そのために何をするのか？  
各界の代表者に太陽の家の使命や障がい者支援のあり方について提言いただきました。

**I部** 講演 14:00~14:30 テーマ 「太陽の家の 50 年の歩み」

講師：社会福祉法人太陽の家理事長 中村 太郎

**II部** シンポジウム 14:30~16:30 テーマ 「太陽の家の使命と  
これからの障がい者支援のあり方」



## モデレータ COMMENTS



読売新聞東京本社取締役調査研究本部長  
(医師・元日本医科大学助手)

南 砂 氏

日本はまさしく超高齢時代を突っ走っております。その中であって、今、日本政府が何を一生懸命叫んでいるかという、「地方創生」という話です。こんなに素晴らしい財産を持っている大分県。「太陽の家」のことを、私がこれまで詳しく知らなかったことを

**パネルディスカッション**

主催

太陽の家

モデレータ

読売新聞東京本社取締役調査研究本部長 **南 砂 氏**  
(医師・元日本医科大学助手)

パネリスト

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会  
専務理事  
(前高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長代理)

**村木 太郎 氏**

目白大学大学院生涯福祉研究科教授  
元島田療育センター企画室長

**矢島 卓郎 氏**

三菱商事株式会社常任監査役  
太陽の家顧問

**鍋島 英幸 氏**

米国投資ファンド最高顧問  
(新潮新書「死ぬな」著者)

**並木 秀之 氏**

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務理事

**山田 登志夫 氏**

大分ロボケアセンター株式会社代表取締役

**安永 好宏 氏**



第25回日米草の根交流サミット2015 おおいた大会にアメリカから参加のみなさんも出席。



反省するとともに、今日の50周年に招んでいただきましたことを感謝し、これを機に、発信していきたいと思えます。これからは「障がい者の雇用」「障がい者のスポーツ」「障がい者のアート」ではなく、健全者も障がい者も全部一緒に、芸術でもスポーツで

も「障がい者の」ということばが付かないことが、おそらくゴールだと思います。そういう社会をつくっていくことこそが、太陽の家を原点とする障がい者支援のゴールとして中村博士が標榜されたことではないのかと私自身は思います。

## パネリスト COMMENTS



公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会  
専務理事  
(前高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長代理)

村木 太郎 氏

太陽の家のこれからを、就労に限定して私なりに考えてみました。

一つ目は支援の対象が広がっているか。知的障がい、精神障がい、発達障がい、更には、刑務所出所者、引きこもりの人、難病の人、生活困窮者など、いろいろな生き難さを抱えた人たちがいます。先進的な活動をする太陽の家として、支援対象をどう考えるか。

二つ目は企業との協働。これまで大企業とのコラボレーションを進めてきましたが、20年前に富士通エフサスと共同出資会社を設立して以来広がっていません。あるいは、新しい企業とだけでなく、これまでの関係も含めて、企業と福祉施設との先進的なコラボの方法を考えていくべきではないか。

三つ目は地域との関係。障がい者は地域のいろいろな場所で生活しています。地域全体の人たちとの協働、連携、地域全体のインクルージョンをどう進めるか。

四つ目は高齢化。障がい者の高齢化は急速に進んでいて、それにどう対応するか。これは、全国の福祉施設も、企業も、頭を悩ませています。

最後に、高齢社会と障がい者。「障高連携」という言葉を作りたいと思っていますが、高齢者施設の広域展開で障がい者の働く場ができるのではないかと。

50年前に最先端であった太陽の家が、今後50年間も最先端であり続ける努力をして、日本全体、世界全体に発信していくことを期待しています。



目白大学大学院生涯福祉研究科教授  
(元島田療育センター企画室長)

矢島 卓郎 氏

太陽の家は、いわゆる医学モデルではなく、生活を重視した社会モデルを貫き、働くための合理的配慮を行い、働きやすい環境を創ってこられました。非常に先駆的なモデルだと実感しています。今後は、障がい者ひとりひとりが太陽として輝き、太陽の家にはその集合体として輝いてほしいと思います。太陽の家は当事者主義も実践されていますが、さまざまな障がい者が生活をされていることをふまえると、太陽の家の運営に障がいを持っている人の主体的な発信や自己選択と自己決定をこれまで以上に反映できるような仕組みが構築されることを期待したいと思います。

また、地域の中にどのように貢献し、浸透していくかということも課題です。障がいのある方やそのご家族が、安心して地域で生活し、仕事に通える仕組みに、どう関わっていけるかということです。就労という面では、太陽の家には、身体障がいの方が多数働いておられますが、知的障がいの人に適した仕事を、是非考えていただきたい。廃品回収もそうですし、クッキーを作るとか、もっとバラエティに富んだ取り組みを行い、幅広く障がいを持っている方の就労ということを考えていただければと思います。障がい者の高齢化が課題になってきている折、高齢になっても生活の質が保てるサービスの提供、そして、これまで以上に医療や介護の比重の重い、看取りまで含めた支援を考えていただきたいと思います。



三菱商事株式会社常任監査役  
太陽の家顧問

鍋島 英幸 氏

中村裕先生は50年前に太陽の家を設立され、日本の障がい者雇用の道を拓かれました。今日では、法定雇用率や特例子会社制度の導入等により雇用は進んでいるものの、中村裕先生の思いからするとまだまだ低い水準にある事を認識する必要があります。

障がい者が働く事によって、企業の中で単に労働力になるだけでなく、健常者が障がい者に心配りし、生産の効率化を考えるようになり、その結果、組織全体が活性化するという事例が多数あります。企業は、単に法定雇用率達成とか社会貢献という考えではなく、もっと積極的に障がい者の能力を最大限に活用する、それが企業の活性化につながるという考え方で取り組んでいただきたいと思います。

障がい者雇用が進まない最大の理由は、企業側に障がい者への理解が基本的に不足している事が挙げられます。その橋渡しをするのが太陽の家の重要な役割です。太陽の家には、8つの共同出資会社を更に発展させる事と同時に、トレーニングの方法や具体的な仕事の事例について、企業に対して、そして社会に対して情報を発信し、障がい者、また障がい者雇用に関する企業、社会の理解の促進を図り、障がい者雇用の拡大に繋げていただきたいと思います。

50年というこの機会に我々は「保護より機会を」という中村裕先生の原点に立ち戻って、障がい者雇用の問題にしっかりと取り組んでいく、そして先生のおっしゃったことを我々の世代が実践し、次の世代に伝えていく、それが、今の時代を生きる我々の未来に対する責任ではないかと思えます。



米国投資ファンド最高顧問  
(新潮新書「死ぬな」著者)

### 並木 秀之 氏

私は障がい者として生まれました。研究者でもなければ企業関係者でもありません。たまたま、このシンポジウムのパネラーのご依頼を受けた時に、初めて太陽の家のことを知り、にわかにホームページ等で確認し、あまりの素晴らしさに驚きました。

最初に就労の厳しさを感じたのは高校1年の夏休みです。友人とアルバイト先を探し、2〜3社断られた時に、私の存在が理由だと分かりました。高校を出て就職するつもりでしたが、障がいがあると難しいということで大学に進みました。大学卒業の時も就職先がなく、やむを得ず人の紹介で監査法人に就職しましたが、そこでも身体のことを心配で独立を志しました。振り返ると、就労に関して、自分から望んだ道ではなく、与えられ、やむをえず流されて、今の私が成り立っている気がします。当時、太陽の家を知っていたら、違っていたかもしれません。なかなか、障がい者全体にそういう情報がきちんと伝わらない。パラリンピックに出場したりマスコミに取り上げられたりする障がい者もいますが、障がい者の中にも情報格差があると感じます。

太陽の家では、各社との共同ビジネスの成果が現実的にあがっていて、協働という点では、中村裕先生の第一義的な目的は概ね達成しているといえます。ご批判を覚悟で申し上げますが、これからの50年は、躊躇なく、太陽の家そのものがプロデュースしたオリジナルな起業を成立させることが使命ではないかというのが私の印象です。



公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務理事

### 山田 登志夫 氏

中村裕先生の熱い思いで始まった日本の障がい者スポーツですが、その原点ともいえる太陽の家がこれまで果たしてきた役割は絶大です。しかしその後、重度化、高齢化が課題となってきました。50年を節目に、障がい者スポーツの第2ステージだという認識をもって、新たな目標を掲げて挑戦していただきたい。

現在、全国の障がい者スポーツの中では、重度障がい者のスポーツという未成熟な分野があります。太陽の家では卓球バレーをやっていますが、例えば九州大会を開き、最後は全国大会を開くとか、50年前に車いすバスケットで実践なことを、重度障がい者のスポーツでもやっていただきたい。頸椎損傷者のツインバスケットでは、全国制覇を目指してほしい。また今回、太陽の家は全国に3箇所しかないパワーリフティングの機器を導入されたと聞きましたが、そういったあまり普及していない障がい者スポーツの開拓を手がけ、マスコミを通じて全国にもっとアピールしてください。

1964年の東京パラリンピックでは、太陽の家が中心となって障がい者スポーツが日本全国に広がりました。2020年大会の後どのようなレガシーを残すか、そこでも、太陽の家のこれまでの功績と知見が生きてきます。そういう観点からも、中村裕先生の当初の意思を引き継ぎつつ、障がい者スポーツの裾野の拡大にご尽力いただけることを期待しています。



大分ロボケアセンター株式会社代表取締役

### 安永 好宏 氏

日本は超高齢者社会で、恐るべきことに40%が高齢者です。要介護高齢者の増加と労働力人口の減少が非常に大きな問題です。これからは、老々介護のような高齢者による作業の実現によって雇用を生み出していくことが非常に重要だと考えていた時に、太陽の家との出会いがありました。まさに、中村裕先生の言葉のとおり「足りないところは科学の力で」補って働いていただく。納税までしているというのは目からうろこで、是非一緒に飛躍して、ロボットという最先端技術を活用して新しい雇用を生み出し続けたいと思いました。

今はさまざまなロボットが開発されており、ロボケアセンターのHALも世界に出ています。日本発のロボットを世界に展開する場合に、運用技術の開発が重要です。そこを、どうやって太陽の家と一緒に開拓していくかが一つのポイントになります。障がいをお持ちの方でも、そこには大きなビジネスチャンスがあるのではないかと考えています。

ロボケアセンターとしても、製品だけではなくサービスも提供する予定ですので、太陽の家と共に考えていければありがたいし、私どもの提供する最先端技術を使って雇用を生み出し続けてほしいと思います。

私は、一人のファンとして、太陽の家の活動をあちこちで広報していきます。

# さらなる50年に向けて考えました

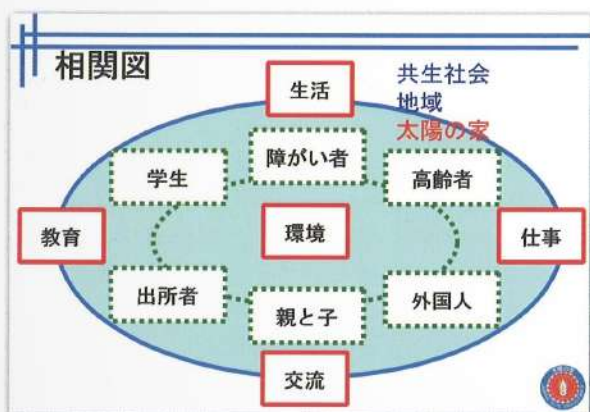
## 将来構想プロジェクト委員会

平成 24 年6月～ 9回開催  
平成 24 年度第3回理事会・評議員会にて報告

### 若手チーム

#### ●事務局プロジェクトメンバー

安部 めぐみ	五嶋 一雄	長野 綾子
亀井 啓介	柴田 剛	匹田 志保
カルキ ピラム	坂本 和也	宮崎 元明
河野 達彦	嶋崎 裕子	
河野 佐和子	鈴木 信幸	



1



2

### 50年後の太陽の家のあるべき姿

- 利用者が利用者を育てる。支援し合う姿。
- 相互支援の橋渡し役を担う姿。
- 引き続き困っている人を対象にサービスを提供する姿。
- 今よりも皆が生き活きし、笑顔が溢れている姿。
- 今よりも人が集う場になり開かれたコミュニティが形成される姿。
- 働く機会を提供し続けている姿。
- 太陽の仲間であることに誇りをもてる姿。
- 世界から「共生社会」のモデルとして注目される姿。

3

### 新キャッチフレーズ

50年間は  
**Challenge to "Yutaka"**

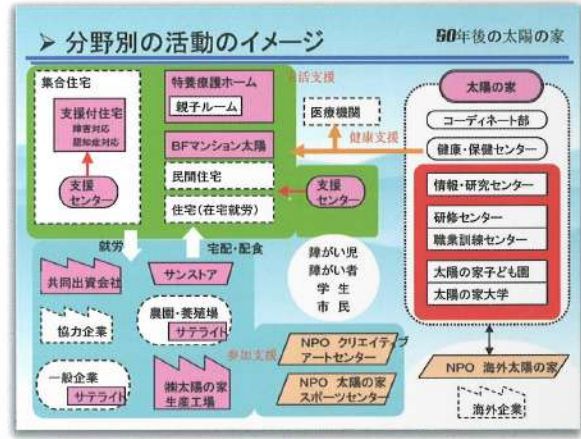
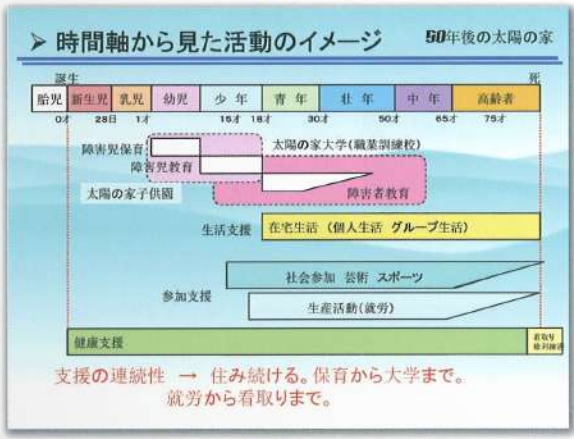
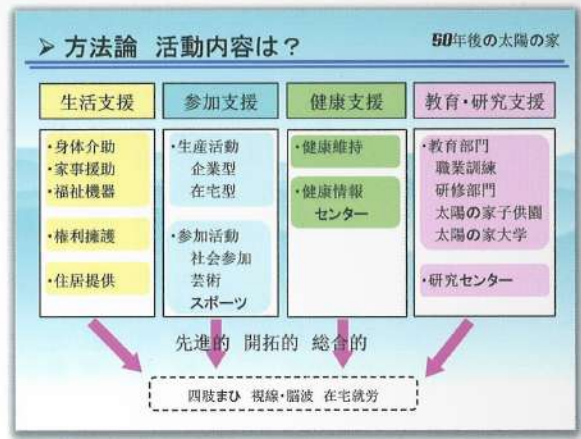
50年後は  
**福祉の最前線である**

4

## ベテランチーム

### ●事務局プロジェクトメンバー

- |       |        |        |        |
|-------|--------|--------|--------|
| 赤松 敬子 | 折林 恭一  | 田中 美智子 | 松川 ひとみ |
| 池部 純政 | 香月 重晴  | 西山 英樹  |        |
| 宇都宮 功 | 清成 八千代 | 濱田 みよ  |        |
| 小田 博道 | 国生 清子  | 福澤 真   |        |



- ### 6. “今でしょ！”短中期27の提言
- 提言① 農業分野、宅配分野での事業展開(別府)
- ② 精神障がい者と知的障がい者が中心となった施設への転換(B型事業)
- ③ 重度化対策(京都B型) — 障がい者福祉
- ④ 就労移行支援体制の強化
- ⑤ 利用されるカフェ運営について
- ⑥ ゆうわ生活支援事業の見直し
- ⑦ 障がい者と高齢者の共存(伴業事業所) — 高齢者福祉
- ⑧ 高齢者日中活動サービス(大分事業所) — 医療
- ⑨ 高齢者福祉総合事業
- ⑩ 終末期の看取り
- ⑪ 情報・研究センターの設置
- ⑫ 太陽の家企画の研修会の定期開催 — 研究分野 教育・人材育成
- ⑬ 年少からの職場体験〜障がい者版「キッズニア」〜

- ### 6. “今でしょ！”短中期27の提言
- 提言 ⑭ サンストア 周辺需要の拡大、雇用の場の確保
- ⑮ 企業のサテライトオフィスの誘致
- ⑯ 遊休地を活用したソーラーパネルによる売電事業 — 収益事業 公益事業
- ⑰ レストラン、浴場、遊技場の運営
- ⑱ サンスポーツセンターの事業拡大
- ⑲ 障がい者健康保健センターの運営
- ⑳ 亀川サンクリニックの廃止又は診療科目の見直し
- ㉑ JSIIによる賃貸住宅貸付業の運営
- ㉒ 親子入所施設「親子ユニットケア」
- ㉓ 障がい者スポーツの普及 — コミュニティーづくり 障がい者スポーツ 海外展開 その他
- ㉔ 「株式会社 太陽の家」
- ㉕ インクルーシブな街作りの実現
- ㉖ メンタルヘルス事業
- ㉗ 先駆的福祉施設のモデルとして京都観光の見学ルートに



# さらなる50年に向けて考えました

## 将来構想検討委員会

平成 25 年 5 月 9 日～ 10 回開催  
平成 25 年度第 3 回理事会・評議会にて報告

### ● 委員

デンソー太陽(株)	加藤 裕和	太陽の家 事務局	松川ひとみ	川合 恵子
オムロン京都太陽(株)	和田 直也		石本 龍一	恒松 克己
オムロン太陽(株)	城 隆志		田北 ゆみ	狭間 裕江
ソニー太陽(株)	吉 廣 匡介		植村 明洋	
ホンダ太陽(株)	原 田 浩二		塩月 理恵	
三菱商事太陽(株)	山下 達夫		毛井 美希	
富士通エフサス太陽(株)	富ヶ原 裕司		宮崎 夏来	
前 オムロン太陽(株)	御前 照夫		鈴木 百恵	
元 太陽の家職員	伊 方 博義			

### 歴史の振り返り

#### ● 中村先生がなぜ太陽の家を造ったのか？



- ・保護はダメだ。自活しなければ幸福に出来ない。訓練と適当な職種・環境さえあればほとんどの障害者はどんな仕事もできる。自活するための施設が必要なのだ。(「太陽の仲間たちよ!」より)
- ・社会の関心を獲得するためのムード作りは終わった。これからは慈善にすぎずがるのではなく、障害者が自立できるように施設を作る必要がある。
- ・障害者の自立とは、働いて税金を払う立場にしたい。そのためには株式会社にした。
- ・株式会社にするためには世の中の人々の理解が必要でありそのためには有名企業の仕事をやる必要がある。
- ・世に心身障害者はあっても、仕事に障害はあり得ない。



1

### 歴史の振り返り

#### ● どのようなものを目指したのか？



- ・足りない所は科学の力で
- ・障害者といえどもコマースベースで働く意気込みが必要である。
- ・障害者の働く工場は世間の人が高手しような工場でなければならない。
- ・空調完備で明るく、時代の最先端を走るような仕事を目指せ。
- ・障害者が一流企業の仕事をすることは社会からの認知には欠かせない条件である。
- ・太陽の家に向くものは、被保護者ではなく労働者であり、保護者は投資者である。
- ・障害者の自立とは、働いて税金を払う立場にしたい。そのためには株式会社にした。株式会社にするためには世の中の人々の理解が必要でありそのためには有名企業の仕事をやる必要がある。
- ・福祉の確立があって社会が進歩するということである。
- ・福祉が政治の便宜的スローガンである間はほんとうの福祉はあり得ない。
- ・太陽の家のようなところが必要なくなる時代がくることを願っている。

障がい者が労働者として雇用できることを証明  
社会福祉の確立(社会を進歩させる)  
最終的には福祉の概念など無い、あたりまえの社会

No Charity, but a Chance!

2

### 現状把握①

#### ● 太陽の家の機能とは何か？

##### <インプット>

- 障がい者
- 働きたい
- 幸福になりたい(自己実現を目指す)



##### <アウトプット>(結果)

- 雇用労働者(主に)
- 地域生活者

##### <アウトカム>(成果)

- 人間としての尊厳が保たれる社会の実現(理念の達成)
- 障がい者の幸福
- 社会福祉認知の向上
- 企業の障害者雇用率達成

No Charity, but a Chance!

3

### 現状把握②

#### ● 太陽の家の機能評価(インプット評価)



新法への移行に伴い、2005年より訓練就労者(インプット)は減少している

No Charity, but a Chance!

4

課題抽出①

● SWOTによる分析（環境特性分析）

- 太陽の家の強みで取り組むことのできる事業機会は何か
- 太陽の家の弱みで事業機会を取りこぼさないためには何が必要か
- 他法人には脅威でも太陽の家の強みで事業機会にできないか
- 脅威と太陽の家の弱みが重なって、最悪の事態を招かないためには



- ①精神障がい者の就労への取り組み
- ②企業のOBや職能低下社員、従業員への対策
- ③利用者の重度化対策
- ④障がい者（高齢者）スポーツを通したリハビリの充実
- ⑤B型と併設される入所施設の必要性

No Charity, but a Chance!

5

課題抽出②

● ニーズ調査

<調査対象者>

施設利用者、在宅障がい者、精神障がい者、協力企業社員、  
支援学校関係者（生徒、先生、ご家族）、行政、地域住民



- ・高齢化、重度化への不安（施設利用者、社員）
- ・仕事や作業が無くなっても太陽にいたい（施設利用者）
- ・就職できるような訓練を受けたい（施設利用者）
- ・雇用労働者確保への不安（企業）
- ・教育現場への支援が欲しい（支援学校）

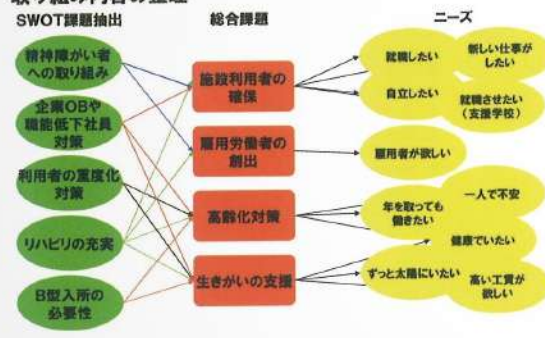
・太陽の家で最後まで面倒を見て欲しい！（施設利用者、社員）

No Charity, but a Chance!

6

課題抽出まとめ

取り組み内容の整理  
SWOT課題抽出



No Charity, but a Chance!

7

ミッション・ビジョンの再確認①

● 太陽の家の機能の再設定

<インプット>

障がい者、高齢者  
・働きたい  
・幸福になりたい  
（自己実現を目指す）



<アウトプット>（結果）

・雇用労働者  
・地域生活者  
・生きがいを持つ人

<アウトカム>（成果）  
・人間としての尊厳が保たれる社会の実現  
（理念の達成）  
・障がい者の幸福  
・高齢者の幸福  
・社会福祉認知の向上  
・企業の障害者雇用率達成

No Charity, but a Chance!

8

ミッション・ビジョンの再確認②

<理念>

**No Charity, but a Chance!**

～人間としての尊厳が保たれる社会の実現～

- 中村裕が目指したものはあたりまえの社会の実現であり、具体的には人間としての尊厳が保たれる社会を実現することではないか。

→ これからも変更する必要はない。

No Charity, but a Chance!

9

ミッション・ビジョンの再確認③

方針について（提案）

- 創設者のDNAと先達（開拓者）の思いを継承し、挑戦と幸福の追求を続けるというポリシーを方針に組み込んではどうか。

- 太陽の家の永遠の存在意義とは、障がい者の社会参画を支援し、ソーシャルインクルージョンへ向かう先駆者であり続けることではないか。この存在意義を方針で再認識することが必要ではないか。

No Charity, but a Chance!

10

今後の取り組み(提言)  
まとめ

No Charity, but a Chance!

11

施設利用者の確保(インプット)

● 新規施設利用者の確保

<課題> 1. 進路が決まらない支援校の生徒は重度者が多い  
2. 働くことへの理解不足  
3. 魅力あるプログラムの提供(他施設との差別化)

<提案> 1. 生活介護施設の増設  
2. 教育現場への支援(出前教室、進路相談等)  
3. 「企業」と連携した教育現場への採用活動  
4. 豊富な職業訓練科目の増設(介護補助など)  
5. 芸術、文化活動や趣味嗜好型のB型プログラムの開発  
6. 指導員のプロ化と増員(直間比率の改善)

・支援学校  
・普通校  
・大学  
・職業訓練校

・障がい者による講演  
・ものづくり教室  
・職業適性検査による  
アドバイス

太陽の家 + 企業

「働きたい」動機付け支援

No Charity, but a Chance!

12

雇用労働者の創出(アウトプット)

● 精神障がい者の就労への取組み

<課題> 1. 環境変化、人間関係が弱点となる事が多い  
2. PSWのような専門性を持った職員のフォローが必要  
3. 企業は採用後の定着に不安を持っている

※PSWとは(Psychiatric Social Worker):精神保健福祉士

<提案> 1. 企業内B型にて目標とする企業環境で訓練を行う  
2. 訓練中のメンタル面はEAPを利用したフォローを行う  
3. 採用後もEAPを利用しフォローを行う

※EAPとは(Employee Assistance Program):従業員支援プログラム

入所or通所 → 就労移行支援 2年間(最大3年) → 訓練 → 仕事、場所 → 企業 → 就職 → 企業

EAP(太陽の家)によるフォロー

No Charity, but a Chance!

13

高齢化対策(企業からの定年退職者対策)

● 企業を離職、定年退職する障がい者への支援

<課題> 1. 住居の確保  
2. 仕事(収入)の確保  
3. 健康の維持  
4. 施設利用時のモチベーション維持、プライドへの配慮

<提案> 1. サービス付き高齢者住宅、グループホームの設置  
2. NPOによるジョブマッチング事業  
・太陽グループ版ハローワーク(人事交流制度)  
3. 高齢者も対象とした健康管理センターの設立  
(健康相談、健康維持・増進事業、栄養管理、配食サービス)  
4. 就労継続支援(A型、B型)受け入れプログラムの開発  
(指導・管理担当への登用や高齢者と協働の場の創出)

太陽グループ

A企業 → 人事交流 → B企業 → 退職or人事交流 → 太陽の家

太陽の家 → 各種障害福祉サービス → 住居

No Charity, but a Chance!

14

生きがいの支援

● 施設に停留する人(福祉的就労者)の支援

<課題> 1. 働きがいのある仕事の確保  
・高工賃の確保  
・多様性の尊重  
・教育や訓練の成果が仕事に反映できる支援システム  
2. 重度化による作業能力の低下(工賃の低下)  
3. 健康の維持  
4. 人生設計や目標が持ちにくい

<提案> 1. 新規作業の開拓(共同受注意口の活用等)  
2. 施設内検定制度の実施(アビリンピック参加に向けた)  
3. 企業定年退職者等を活用した作業改善実施(治具化など)  
4. B型でのスポーツリハビリ、趣味嗜好プログラムの提供  
5. ライフプラン作成の支援

健康

お金

10代 20代 30代 40代

No Charity, but a Chance!

15

その他提案

<提案> 1. 当事者(障がい者)が経営に携わる組織にする。  
2. 株式会社の機能的合理的な組織運営を目指し、経営の自立化を図る。  
3. むぎの会OB会を設立し、退職後も継続して活動に参画できるようにする。  
4. むぎの会をNPO化(JSIと合体)し、レクリエーションやスポーツの普及と振興に寄与する。  
5. サンシティ(太陽の街)を作り、共生社会の先進モデルとする。

No Charity, but a Chance!

16



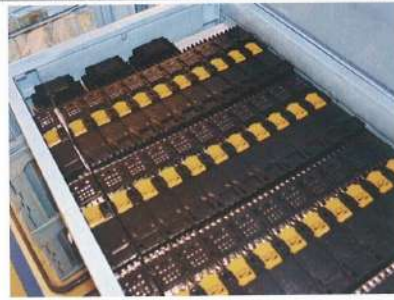
太陽のなかまたち

# オール太陽 全員集合!



## 別府事業本部

別府ワークセンター (就労継続支援A型)  
別府ワークショップ (就労継続支援B型)  
就労移行支援  
ゆたか (障害者支援施設)  
施設入所支援  
障害者相談支援センターたいよう  
障害者就業・生活支援センターたいよう  
ホームヘルプセンターたいよう  
ケアプランセンターたいよう  
元気づくりセンター さんほっぶ亀川  
亀川サンクリニック  
コミュニティセンター (多目的ホール)  
サンスポーツセンター (体育館 プール  
トレーニングルーム)  
太陽住宅 (簡易住宅)  
太陽の湯 (公衆浴場)



### 電機科 (就労継続支援B型)

事業内容：制御機器部品の組立  
(主な製品)



### 制御機器科 (就労継続支援B型)

事業内容：制御機器部品の組立  
(主な製品)



## 機材科 (就労継続支援B型)

事業内容：自動車などの電装部品の組立  
(主な製品)



## 工芸科 (就労継続支援B型)

事業内容：軽作業 (ギフト包装、各種箱折、工業部品の組立、革細工など)  
(主な製品)





### 環境科 (就労継続支援B型)

事業内容 : 園芸作業、環境整備  
(主な製品)



### 電子科 (就労継続支援B型)

事業内容 : 電子化書籍の検査、データ入力  
(主な製品)





## 電材科 (就労継続支援B型)

事業内容：電気工事関係部品組立  
(主な製品)



## 紙芸科 (就労継続支援B型)

事業内容：コーヒーフィルター生産  
(主な製品)

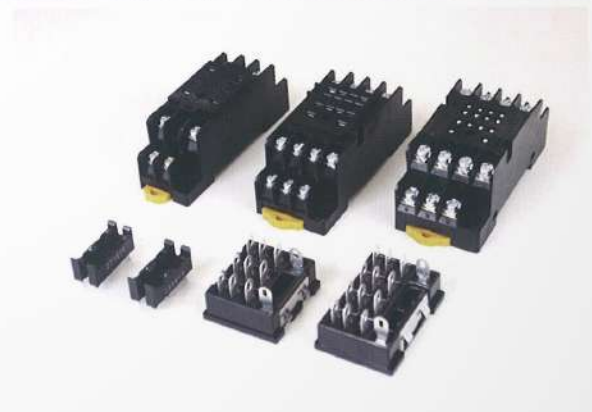


## カフェサービス科（就労継続支援B型）

事業内容： コーヒー等の飲み物、軽食の提供、接客  
(主な製品)

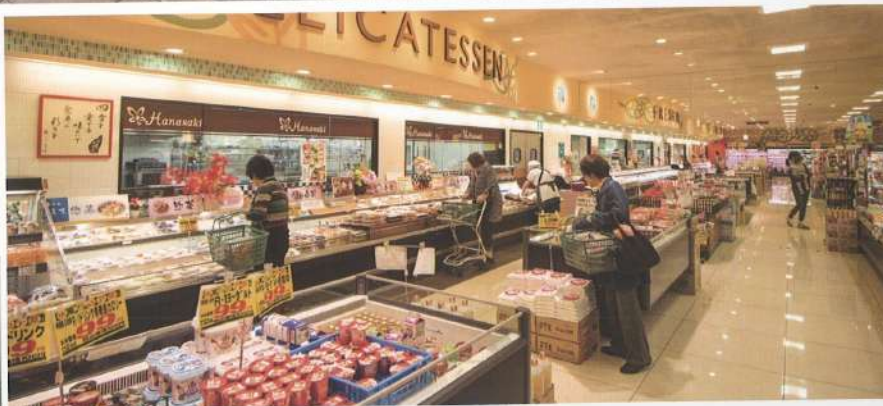


## 就労移行支援事業



## 別府工場（就労継続支援A型）

事業内容： 制御機器部品の組立  
(主な製品)



## サンストア（就労継続支援A型）

事業内容： スーパーマーケット（販売、レジ、パン製造など）  
（主な製品）



## ゆたか（障害者支援施設）

事業内容： 制御機器部品の組立  
(主な製品)



## 大分事業本部

事業内容： サンハウス大手町（小規模多機能型居宅介護事業）、サンガーデン大手町（サービス付高齢者向け住宅）、大手町パーキング（付設駐車場）  
（主な製品）



## 日出事業本部

事業内容： ゆうわ（障害者支援施設）、デイサービスセンターゆうわ、ショートステイ事業、  
（主な製品）  
 ホームヘルプセンターゆうわ、障害者生活支援センター、大神ハイツ







## 杵築事業本部

事業内容： 太陽の家広寿苑(特別養護老人ホーム)、ショートステイ事業  
(主な製品)





事務局（法人本部・地域事業本部・別府事業本部）





## **DENSO** デンソー太陽株式会社

設 立：1984年3月30日  
 所 在 地：愛知県蒲郡市形原町北浜 28-1  
 従業員数：81名 うち障がい者数78名  
 事業内容：自動車用コンピメーター、フェー  
 (主な製品) エルセンダ、スマートキーケ  
 ス等の自動車部品の製造

## 愛知事業本部

愛知太陽の家蒲郡ワークセンター  
 (就労継続支援A型・就労移行支援)  
 愛知太陽の家蒲郡ワークショップ(就労継続支援B型)  
 電装科 自動車用小物部品の加工・梱包  
 福祉ホームひだまり/障がい者相談支援センターにじ  
 /日中一時支援事業わかば/コミュニティセンター  
 (多目的ホール・体育館・喫茶「サニーサイド」蒲郡市図書館分室)  
 蒲郡信用金庫太陽の家支店



1階フロート組付

2階スマートキーライン

3階コンビライン



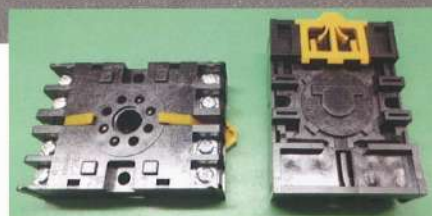
## OMRON オムロン京都太陽株式会社

設立：1985年3月6日

所在地：京都市南区上鳥羽塔ノ森上河原 87

従業員数：37名 うち障がい者数 17名

事業内容：電気機械器具の製造、産業用機械で使  
(主な製品) われるソケットやセンサの製造



### 京都事業本部

京都太陽の家ワークセンター (就労継続支援 A 型)  
 京都太陽の家ワークショップ (就労継続支援 B 型)  
 制御機器科 (制御機器の組立) 環境科 (清掃作業)  
 総合作業科 (軽作業) 施設入所支援  
 京都福祉ホームひまわり



京都太陽の家



A型作業所



工場1F (B型)



総合作業科 (B型)



B型作業所



工場3F (A型)



工場2F (A型)





## OMRON オムロン太陽株式会社

設 立：1972年2月4日

所 在 地：大分県別府市大字内竈中無田 1393 番 1

従業員数：61名 うち障がい者数32名

事業内容：産業機器用のパワーリレーに使用するソケット群の製造等  
(主な製品)



**FUJITSU** 富士通エフサス太陽株式会社

設 立：1995年7月3日

所 在 地：大分県別府市大字内竈 1399 番地の 1

従業員数：60名 うち障がい者数30名

事業内容：富士通製品の保守サービス業務、各種リペア、マニュアル作成、運用・管理業務等  
(主な製品)



## Sony/Taiyo ソニー・太陽株式会社

設 立: 1978年1月14日

所 在 地: 大分県速見郡日出町大字大神字寒水 1402-14

従業員数: 170名 うち障がい者数110名

事業内容: マイクロホン、ヘッドホン、ビデオカメラ・デジタルカメラ関連製品の生産、  
(主な製品) および技術情報管理業務等





 **HONDA**  
ホンダ太陽株式会社

設 立：1981年9月25日  
所 在 地：大分県速見郡日出町大字川崎 3968  
従業員数：199名 うち障がい者数94名  
事業内容：部品製造（二輪車・四輪車・汎用製品）・データ領域業務（二輪車のデザ  
（主な製品） インデータ作成・各種電子化等

 **HONDA**  
ホンダR&D太陽株式会社

設 立：1992年7月17日  
所 在 地：大分県速見郡日出町大字川崎 3968-1  
従業員数：48名 うち障がい者数41名  
事業内容：CADによる輸送機器・福祉機器の研究開発・車イスレーサーの開発等  
（主な製品）





## 三菱商事太陽株式会社

設 立：1983年12月1日  
 所 在 地：大分県別府市大字内竈字中無田 1399 番 1  
 従業員数：95 名 うち障がい者数 61 名  
 事業内容：情報処理業務の受託、データ入力、DTP 業務  
 (主な製品) サーバーホスティングサービス等

東京事務所  
 東京都千代田区丸の内 2-2-3  
 丸の内仲通りビル 9 階  
 北海道事務所  
 北海道岩見沢市志文町 309 番地 9  
 (社福) クピド・フェア内



三菱商事太陽 東京事務所



三菱商事太陽 北海道事務所





## 株式会社 電子印刷センター

設 立：1966年4月1日

所 在 地：大分県別府市大字内竈 1393 番地

従業員数：30名 うち障がい者数2名

事業内容：一般総合印刷、オフセット印刷、オンデマンド印刷、大判インクジェットプ  
(主な製品) リント、製本、加工、ホームページ制作、地図制作など



## 有限会社 大分タキ

設 立：1990年2月1日  
所 在 地：大分県別府市大字内竈字中無田  
従業員数：14名 うち障がい者数2名  
事業内容：福祉・介護用品販売・レンタル、  
(主な製品) 住宅改修サービス等



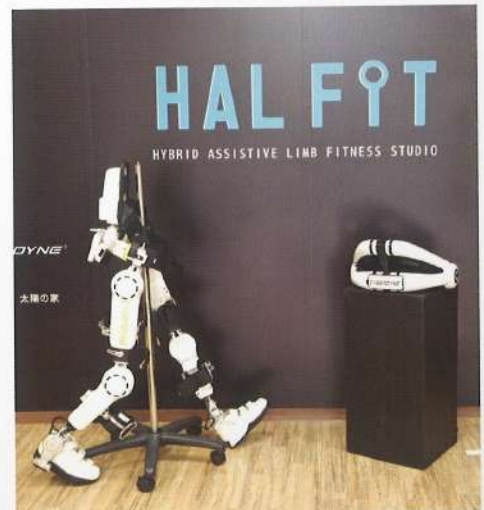



感動を、シェアしたい。 大分銀行 太陽の家支店

設立：1980年7月9日  
所在地：大分県別府市大字内竈 1393 番地  
従業員数：10名



設立：2013年9月11日  
所在地：大分県別府市大字内竈 1393 番地  
事業内容：ロボットスーツHAL®を用いたトレーニングの提供。  
また「HAL FIT®」を主とした健康増進事業等





資料編

# 事業一覧 (平成28年1月1日 現在)

法人 設立認可申請:昭 and 40年11月1日 認可日:昭 and 41年2月14日(厚生省社 第25号) 法人登録日:昭 and 41年3月8日

カテゴリ	事業の種類	事業所名	拠点	定員	事業開始日	事業内容	旧事業	
第一種社会福祉事業	障害者福祉 障害者支援施設	別府第1ワークショップ	別府	45	H23.10.1	施設入所支援、就労継続支援B型、就労移行支援	身体障害者入所授産施設 S41.4.1~	
		別府第2ワークショップ	別府	60	H23.10.1	施設入所支援、就労継続支援B型	〃	
		別府第3ワークショップ	別府	80	H23.10.1	〃	〃	
		ゆたか	別府	40	H23.10.1	施設入所支援、生活介護	肢体不自由者更生施設 S56.4.1~	
		ゆうわ	日出	80	H22.4.1	〃	身体障害者療護施設 S63.4.1~	
老人福祉	特別養護老人ホーム	京都太陽の家ワークショップ	京都	60	H24.4.1	施設入所支援、就労継続支援B型	身体障害者入所授産施設 S61.4.1~	
第一種社会福祉事業	障害者福祉 障害福祉サービス事業	別府第4ワークショップ	別府	40	H23.10.1	就労継続支援B型	身体障害者通所授産施設 S57.4.1~	
		別府第1ワークセンター ※別府工場	別府	40	H23.4.1	就労継続支援A型	第一種 身体障害者福祉工場 S47.4.1~	
		別府第2ワークセンター ※サンストア	別府	20	H22.4.1	〃	収益事業 大規模小売店舗 S52.12.11~	
		ホームヘルプセンターたいよう	別府		H24.4.1	居宅介護、重度訪問介護、同行援護		
		短期入所ゆうわ	日出	2	H22.4.1	短期入所	身体障害者短期入所事業 S63.4.1~	
		ホームヘルプセンターゆうわ	日出		H18.10.1	居宅介護、重度訪問介護、同行援護	身体障害者居宅介護等事業、知的障害者居宅介護等事業 H17.1.1~	
		愛知太陽の家蒲郡ワークショップ	愛知	40	H23.10.1	就労継続支援B型	身体障害者入所授産施設 S59.4.1~	
		愛知太陽の家蒲郡ワークセンター	愛知	80	H20.4.1	就労継続支援A型、就労移行支援	第一種 身体障害者福祉工場 S59.4.1~	
		京都太陽の家ワークセンター	京都	60	H21.4.1	就労継続支援A型	〃 S61.4.1~	
		移動支援事業	ホームヘルプセンターたいよう	別府		H24.4.1	受託事業(移動支援)	
		ホームヘルプセンターゆうわ	日出		H18.10.1	〃		
	地域活動支援センター	デイサービスセンターゆうわ	日出	15	H19.4.1	受託事業(地域活動支援センターⅡ型)	身体障害者デイサービス事業 H2.7.1~	
	福祉ホーム	大神ハイツ	日出	60	H18.10.1	-	第一種 身体障害者福祉ホーム S63.6.1~	
		福祉ホームひだまり	愛知	44	H20.4.1	-	身体障害者入所授産施設 S59.4.1~	
		京都福祉ホームひまわり	京都	46	H21.4.1	-		
	一般相談支援事業	障害者相談支援センターたいよう	別府		H18.10.1	一般相談支援 ※地域移行支援、地域定着支援(H25.4.1移行)	障害者相談支援事業 H17.9.7~	
		太陽の家障害者生活支援センター	日出		H18.10.1	〃	〃 H16.4.1~	
	特定相談支援事業	障害者相談支援センターたいよう	別府		H24.4.1	特定相談支援 ※計画相談支援	障害者相談支援事業 H17.9.7~	
		太陽の家障害者生活支援センター	日出		H24.4.1	〃	〃 H16.4.1~	
		障がい者相談支援センターにし	愛知		H25.3.1	〃		
		障がい者相談支援センターひまわり	京都		H26.1.1	〃		
	児童福祉	障害児相談支援事業	障害者相談支援センターたいよう	別府		H24.4.1	障害児相談支援	障害者相談支援事業 H17.9.7~
			太陽の家障害者生活支援センター	日出		H24.4.1	〃	〃 H16.4.1~
老人福祉	老人居宅介護等事業	ホームヘルプセンターたいよう	別府		H24.4.1	訪問介護、介護予防訪問介護 (※介護予防・日常生活支援総合事業へ移行中)		
		ホームヘルプセンターゆうわ	日出		H17.1.1	〃		
	老人短期入所等事業	短期入所生活介護事業所	杵築	10	H24.4.1	短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護 ※ユニット型		
		太陽の家広寿苑						
	老人デイサービス事業	元気づくりセンター	別府	30	H23.7.1	介護予防通所介護 ※介護予防・日常生活支援総合事業へ移行中		
		さんぽつぶ亀川						
	短期集中予防サービス	別府	10	H27.10.1	受託事業(介護予防・生活支援サービス事業通所型サービスC)	別府市通所型介護予防事業 [元気サンサン倶楽部]H22.4.9~		
社会福祉	小規模多機能型居宅介護事業	サンハウス大手町	大分	25	H24.3.1	-		
社会福祉	宿泊所	憩の家	別府	6室	S40.10.5	-		
		簡易住宅	別府	80戸	H17.4.1	-		

カテゴリ	事業の種類	事業所名	拠点	定員	事業開始日	事業内容	
公益事業	障害者福祉	障害者就業・生活支援センター	障がい者就業・生活支援センターたいよう	別府		H22. 4. 1	受託事業(雇用安定等事業、生活支援事業、障がい者受入れ体験事業)
		大分県障害福祉サービス事業所等共同受注事務局		別府		H25.10.1	-
		障害者委託訓練事業		別府		H26年度	-
		日中一時支援事業	日中一時支援事業わかば	愛知	10	H23.10.1	-
		老人福祉	介護保険法に基づく居宅介護支援事業	ケアプランセンターたいよう ※H27.4.1~休止	別府		H17. 2.14
	介護予防・日常生活支援総合事業	元気づくりセンター	さんほつが亀川	別府		H27. 4. 1	介護予防・生活支援サービス事業第1号通所事業 ※介護予防通所介護から移行中
		ホームヘルプセンター	たいよう	別府		H27. 4. 1	介護予防・生活支援サービス事業第1号訪問事業 ※介護予防訪問介護から移行中
		ホームヘルプセンターゆうわ		日出		H27. 4. 1	〃
	サービス付き高齢者向け住宅事業	サンガーデン大手町	大分	9戸	H24. 4. 1	-	
	その他	診療所	亀川サンクリニック	別府		H19.10. 1	-
諸外国の障害者、団体との体育及び福祉に関する情報交換						-	
中村裕記念基金事業			別府		H21. 8. 1	-	
収益事業	その他	不動産貸付に関する事業				-	
		駐車場の経営	大手町2丁目パーキング	大分		H24. 3. 1	-

### その他施設

施設名	拠点
コミュニティセンター	別府
サンスポーツセンター	別府
太陽の湯	別府
サン・コミュニティホール(喫茶パステル)	日出
サンプラザ	日出
コミュニティホール(体育館、多目的ホール)	愛知

### 廃止した事業 (H28.1.1現在)

カテゴリ	事業の種類	事業所名	拠点	事業開始日	事業廃止日	備考	
第一種	障害福祉	身体障害者授産施設	太陽の家授産場	別府	S41. 4. 1	H16.3.31	S57.4月~H3.6月 通所併設、H16.4月 第一~三授産センターに再編
		重度身体障害者授産施設	太陽の家重度授産場	別府	S46. 6. 1	H16.3.31	〃
		身体障害者入所授産施設	太陽の家第一授産センター	別府	H16. 4. 1	H23.9.30	H23.10月 新体系移行、別府第1~4ワークショップに再編
			太陽の家第二授産センター	別府	H16. 4. 1	H23.9.30	〃
			太陽の家第三授産センター	別府	H16. 4. 1	H23.9.30	〃
		身体障害者通所授産施設	太陽の家通所授産場	別府	H 3. 7. 1	H23.9.30	H5.5月~H17.3月 分場設置(杵築工場)
		肢体不自由者更生施設	ゆたか寮	別府	S56. 4. 1	H23.9.30	H23.10月 新体系移行、「ゆたか」に改名
身体障害者福祉工場	太陽の家福祉工場	別府	S47. 4. 1	H23.3.31	H23.4月 新体系移行、「別府第1ワークセンター」に改名		
収益事業	その他	大規模小売店舗	サンストア	別府	S52.12.11	H22.3.31	H22.4月 新体系移行、「別府第2ワークセンター」に改名
第一種	障害福祉	身体障害者療護施設	ゆうわ	日出	S63. 4. 1	H22.3.31	H22.4月 新体系移行
		身体障害者福祉ホーム	大神ハイツ	日出	S63. 6. 1	H18.9.30	H18.10月 新体系移行
第一種	障害福祉	身体障害者入所授産施設	愛知太陽の家蒲郡授産場	愛知	S59. 4. 1	H23.9.30	H23.10月 新体系移行、「愛知太陽の家蒲郡ワークショップ」に改名
		身体障害者福祉工場	愛知太陽の家福祉工場	愛知	S59. 4. 1	H20.3.31	H20.4月 新体系移行、「愛知太陽の家蒲郡ワークセンター」に改名
第一種	障害福祉	身体障害者入所授産施設	京都太陽の家授産場	京都	S61. 4. 1	H24.3.31	H24.4月 新体系移行、「京都太陽の家ワークショップ」に改名
		身体障害者福祉工場	京都太陽の家福祉工場	京都	S61. 4. 1	H21.3.31	H21.4月 新体系移行、「京都太陽の家ワークセンター」に改名
第二種	障害福祉	相談支援事業	障害者相談支援センターたいよう	京都	H19. 4. 1	H23.3.31	H22.4月~H23.3月 活動休止 ※別府の同名事業所とは別物

# 歴代役員

\*印=他の役職もあり ★印=現在、他役職に就任中

(平成28年1月1日 現在)

役職	氏名	就任年月日
会長	井 深 大	昭和48年7月5日～平成9年12月19日
顧問	*高 安 慎 一	昭和43年3月8日～昭和48年3月24日
	松 田 恒 次	昭和43年3月8日～昭和48年3月24日
	早 川 徳 次	昭和42年5月18日～昭和55年6月24日
	本 田 宗 一 郎	昭和53年10月16日～平成3年8月5日
	立 木 勝	昭和54年6月1日～昭和62年4月13日
	*水 上 勉	昭和61年3月9日～平成16年9月8日
	*吉 村 益 次	昭和61年3月9日～平成11年8月7日
	技術顧問	*森 政 弘
理事長	*高 安 慎 一	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	*中 村 裕	昭和41年3月8日 常務理事 昭和43年3月8日～昭和59年7月23日 理事長
	*畑 田 和 男	昭和43年3月8日 理事 昭和44年7月4日 常務理事 昭和59年7月26日～平成18年3月8日 理事長
理事	*水 上 勉	昭和41年3月8日～昭和61年3月8日
	黒 木 利 克	昭和41年3月8日～昭和47年3月7日
	伊 勢 久 信	昭和41年3月8日～昭和43年10月1日
	*山 本 清 人	昭和41年3月8日～昭和59年3月8日
	羽 田 野 次 郎	昭和41年3月8日～昭和42年8月31日
	工 藤 秀 明	昭和41年3月8日～昭和41年5月 日
	菅 誠 義	昭和41年9月12日～昭和43年3月7日
	日 高 市 蔵	昭和42年1月12日～昭和56年9月4日
	*菊 池 次 郎	昭和42年1月12日～平成6年1月6日
	*松 本 平 逸	昭和42年11月15日～昭和55年6月1日
	椎 原 亼ツヨ	昭和42年11月15日～昭和44年7月31日
	廣 瀬 重 信	昭和43年10月1日～昭和46年3月31日
	*森 政 弘	昭和43年8月1日～昭和49年3月7日
	河 村 友 吉	昭和44年9月1日～昭和59年3月8日
	*後 藤 孔 明	昭和46年4月1日～昭和48年4月19日 昭和59年3月9日～平成16年3月31日
	*水 迫 幸 平	昭和48年4月1日～昭和57年3月8日
	渡 辺 英 一	昭和48年4月18日～昭和50年8月31日
	鍋 島 敏	昭和49年3月8日～昭和59年3月8日
	*村 上 博 之	昭和50年9月1日～昭和54年9月18日
	*宮 野 茂 博	昭和50年9月1日～昭和54年9月18日
	*吉 村 益 次	昭和57年3月9日～昭和61年3月8日
	明 石 六 郎	昭和58年1月21日～平成元年10月27日
	小 尾 知 愛	昭和59年3月9日～昭和63年3月31日
	大 西 利 勝	昭和59年3月9日～昭和61年3月8日
	谷 岡 豊 次	昭和61年3月9日～昭和61年11月22日
	*飯 倉 大 八 郎	昭和63年3月9日～平成2年3月31日

役職	氏名	就任年月日	
理事	大 竹 重 雄	昭和63年5月23日～昭和63年12月9日	
	*佐 竹 孝 之	平成2年3月9日～平成4年11月30日	
	福 島 親 比 古	昭和59年3月9日～平成12年3月8日	
	*中 村 廣 子	昭和59年7月26日～平成10年3月8日	
	清 水 芳 信	昭和61年3月9日～平成11年5月20日	
	三 嶋 直 介	昭和61年11月22日～平成8年3月8日	
	水 藤 勇	平成元年3月3日～平成8年3月8日	
	日 下 照 雄	平成2年3月9日～平成8年5月27日	
	*横 田 繁 夫	平成2年4月1日～平成10年3月8日	
	山 本 哲 司	平成8年3月9日～平成12年3月8日	
	谷 勝 利	平成8年3月26日～平成14年3月8日	
	*吉 永 栄 治	平成10年3月9日～平成15年3月31日	
	向 井 一 正	平成2年3月9日～平成18年3月8日	
	小 島 克 輝	平成6年3月9日～平成18年3月8日	
	*林 栄 一	平成6年3月9日～平成18年3月8日	
	中 根 功	平成8年5月28日～平成26年3月8日	
	平 野 之 夫	平成11年5月21日～平成26年3月8日	
	渡 邊 正 光	平成12年3月9日～平成20年3月8日	
	森 野 泰 一	平成14年3月9日～平成18年3月8日	
	*佐 藤 永 治	平成15年4月1日～平成18年3月8日	
	宮 本 隆 偉	平成18年3月9日～平成22年3月8日	
	監事	堀 七 衛	昭和41年3月8日～昭和50年6月2日
		橋 本 和 子	昭和41年3月8日～昭和42年5月16日
児 玉 宗 忠		昭和42年11月15日～昭和57年3月8日	
佐 藤 迪 男		昭和50年9月1日～昭和53年5月24日	
*後 藤 孔 明		昭和53年5月31日～昭和59年3月8日	
*林 栄 一		昭和59年3月9日～平成6年3月8日	
陣 征 一 郎		平成6年3月9日～平成8年7月31日	
廣 岩 征 雄		平成8年8月1日～平成10年9月30日	
田 染 哲 司		平成10年10月1日～平成12年3月8日	
秦 野 晃 郎		昭和57年3月9日～平成27年5月21日	
運営委員	小 野 進 一 郎	平成12年3月9日～平成18年3月8日	
	吉 村 恭 彰	平成18年3月9日～平成24年3月31日	
	*畔 上 てる子	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	衛 藤 知 一	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	大 蔵 善 雄	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	*角 田 耕 一	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	*河 野 昭 五	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	ジャスティン・W・ダート	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	*調 一 興	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
	高 橋 隆 一	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日	
*富 田 忠 良	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日		

\*印=他の役職もあり ★印=現在、他役職に就任中

(平成28年1月1日 現在)

役職	氏名	就任年月日
運営委員	*中村 泰友	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	*橋本 祐子	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	*畑田 和男	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	*松本 平逸	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	石尾 博一	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	*菊池 次郎	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
	中村 希代子	昭和41年3月8日～昭和42年3月22日
評議員	*畔上 てる子	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	*調 一興	昭和41年3月8日～昭和52年3月17日
	*橋本 祐子	昭和41年3月8日～昭和52年3月7日
	吉田 嗣義	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	高橋 隆司	昭和41年3月8日～昭和47年3月7日
	糸永 孝夫	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	*松本 平逸	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	佐成 正	昭和41年3月8日～昭和47年3月7日
	*富田 忠良	昭和41年3月8日～昭和45年3月7日
	*角田 耕一	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	伊藤 正喜	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	佐藤 敬次郎	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	田村 春夫	昭和41年3月8日～昭和43年3月7日
	*牟田 雪義	昭和41年3月8日～昭和47年3月7日
	*中村 裕	昭和43年3月8日～昭和47年3月7日
	*山本 清人	昭和43年3月8日～昭和59年3月8日
	成田 三吉郎	昭和43年3月8日～昭和49年3月7日
	山田 敦子	昭和43年3月8日～昭和49年3月7日
	*村上 博之	昭和43年3月8日～昭和50年8月31日
	稲田 春苗	昭和43年3月8日～平成4年3月8日
	長田 シゲ	昭和43年3月8日～昭和54年4月16日
	相良好 仁	昭和43年3月8日～昭和61年3月8日
	羽田野 忠文	昭和43年3月8日～昭和59年3月8日
	松延 陽一	昭和43年3月8日～昭和47年3月7日
	河野 友吉	昭和43年3月8日～昭和47年3月7日
	渡技 京馬	昭和43年3月8日～昭和47年3月7日
	北島 雅治	昭和43年3月8日～昭和47年3月7日
	岩男 穎一	昭和47年3月8日～昭和51年3月7日
	*河野 昭五	昭和47年3月8日～平成15年3月31日
	中根 正勝	昭和47年3月8日～昭和50年8月31日
*吉村 益次	昭和47年3月8日～昭和55年3月8日	
増田 元彦	昭和47年3月8日～昭和49年3月7日	
佐々木 忠重	昭和47年3月8日～昭和49年3月7日	
柚木崎 次郎	昭和47年3月8日～昭和49年3月7日	
佐藤 正	昭和47年3月8日～昭和61年3月8日	

役職	氏名	就任年月日
評議員	平岡 弘	昭和47年3月8日～昭和51年3月7日
	*水迫 幸平	昭和47年3月8日～平成2年3月8日
	今村 由男	昭和47年3月8日～昭和62年5月25日
	河合 伊六	昭和49年3月8日～昭和55年3月8日
	菊池 宏	昭和49年3月8日～昭和55年3月8日
	草原 周司	昭和49年3月8日～昭和50年8月31日
	*後藤 孔明	昭和49年3月8日～昭和55年3月8日
	波多野 裕敏	昭和49年3月8日～平成4年10月9日
	山本 喜昭	昭和49年3月8日～昭和61年3月8日
	萩島 秀男	昭和50年9月1日～昭和51年8月5日
	田中 嘉男	昭和50年9月1日～昭和53年3月8日
	★吉松 時義	昭和50年9月1日～昭和61年3月8日 平成18年3月9日～平成20年3月8日
	荒金 進	昭和51年3月9日～平成8年3月8日
	中村 信博	昭和51年3月9日～平成16年3月31日
	*吉永 崇治	昭和52年3月18日～平成4年5月31日 平成9年5月24日～平成18年3月8日
	染川 通	昭和52年3月18日～平成13年3月26日
	*宮野 茂博	昭和52年3月18日～平成10年6月24日
	佐藤 重智	昭和53年3月9日～昭和55年3月8日
	安部 ツヤ子	昭和55年3月9日～平成8年3月8日
	佐伯 秋介	昭和55年3月9日～平成12年3月8日
	右田 光雄	昭和55年3月9日～昭和63年3月8日
	山下 猛	昭和56年2月1日～平成9年9月24日
	大田 友規	昭和56年2月1日～平成4年3月8日
	*中村 廣子	昭和59年7月26日～平成2年3月8日
	菅沢 泰三	昭和61年11月22日～昭和63年3月8日
	江藤 道浩	昭和61年11月22日～平成元年5月22日
	岡田 正友	昭和61年3月9日～平成2年3月8日
	神野 有三	平成元年5月22日～平成3年5月26日
	*飯倉 大八郎	平成2年3月9日～平成12年3月8日
	沢田 富雄	平成2年3月9日～平成3年3月10日
	柳瀬 忠男	平成2年3月9日～平成5年3月31日
	*明石 衛幸	平成2年3月9日～平成4年3月31日 平成5年4月1日～平成9年5月23日
	相馬 滋	平成3年3月11日～平成4年9月30日
	渡辺 泰望	平成3年5月27日～平成6年3月31日
	伊方 博義	平成4年4月1日～平成15年3月31日
	羽田野 勝彦	平成4年6月1日～平成6年1月9日
西田 実	平成4年10月1日～平成5年10月30日	
横繁 隆夫	平成5年11月1日～平成8年6月30日	
大坪 茂	平成6年3月9日～平成8年3月8日	



# 歴代役員

\*印=他の役職もあり ★印=現在、他役職に就任中

(平成28年1月1日 現在)

役職	氏名	就任年月日
評議員	竹友哲夫	平成6年4月1日～平成9年3月31日
	小野能明	平成8年3月9日～平成12年3月8日
	後藤壽夫	平成8年3月9日～平成10年3月8日
	小石誠一	平成9年4月1日～平成12年6月29日
	福田勝	平成9年5月24日～平成13年3月31日
	高橋寛	平成9年5月24日～平成14年3月31日
	塩地喜一	平成10年3月9日～平成13年3月31日
	鈴木利幸	平成10年3月9日～平成12年3月8日
	安部浩	平成12年3月9日～平成13年3月31日
	稲葉隆征	平成12年3月9日～平成16年3月8日
	吉舎俊隆	平成12年3月9日～平成14年6月30日
	藤原宏包	平成12年5月19日～平成13年5月31日
	工藤満治	平成12年6月30日～平成14年3月31日
	山田茂	平成13年3月27日～平成16年3月8日
	阿部幸義	平成13年4月1日～平成14年3月31日
	北地輝昭	平成13年4月1日～平成16年3月31日
	工藤英治	平成13年4月1日～平成15年3月31日
	田ノ口信夫	平成14年4月1日～平成17年3月31日
	森幸一	平成14年4月1日～平成17年7月1日
	上村昇	平成14年7月1日～平成17年3月31日
	★秋山ちえ子	昭和41年3月8日～平成18年3月8日
	*畑田和男	昭和41年3月8日～平成18年3月8日
	井口竹彦	昭和51年3月9日～平成17年12月31日
	長田博行	昭和55年3月9日～平成22年5月31日
	*佐竹孝之	昭和61年3月9日～平成18年3月8日
	江藤秀信	昭和62年5月25日～平成20年6月13日
	★中村太郎	平成2年3月9日～平成10年3月8日 平成15年4月1日～平成20年3月8日
	上野茂	平成2年3月9日～平成18年3月8日
	杉本邦弘	平成2年3月9日～平成25年9月30日
	*横田繁夫	平成2年3月9日～平成9年5月23日 平成10年3月9日～平成18年3月8日
	河野利之	平成4年3月9日～平成18年3月8日
	下谷脩子	平成4年3月9日～平成18年3月8日
	児玉洋子	平成8年3月9日～平成18年3月8日
	岩間秀和	平成8年7月1日～平成12年5月18日 平成13年6月1日～平成21年9月30日
	中村英次郎	平成12年3月9日～平成19年7月31日
	堀高志	平成12年3月9日～平成18年3月8日
	中尾啓二	平成14年4月1日～平成18年3月8日
	*佐藤永治	平成15年4月1日～平成18年3月8日
	小野治良	平成15年4月1日～平成18年3月8日

役職	氏名	就任年月日
評議員	後藤博史	平成16年3月9日～平成18年3月8日
	広渡徳幸	平成16年3月9日～平成18年3月8日
	首藤廣行	平成16年6月1日～平成18年3月8日
	千葉英雄	平成17年4月1日～平成19年3月31日
	呉藤秀昭	平成17年7月2日～平成19年2月26日
	西田晴泰	平成19年4月1日～平成20年3月8日
	北村満	平成18年3月9日～平成21年6月20日
	福原正春	平成18年3月9日～平成21年6月22日
	モンテ・カセム	平成18年3月9日～平成21年12月25日
	児玉貞夫	平成18年3月9日～平成22年3月8日
	仲條弘三	平成18年3月9日～平成22年6月25日
	得丸豊史	平成19年3月13日～平成23年3月17日
	御前照夫	平成20年11月27日～平成23年5月16日
	岡山国和	平成18年3月9日～平成23年6月16日
	樋口克己	平成20年3月9日～平成24年3月8日
	泉田龍吾	平成21年11月24日～平成24年3月8日
	寺岡千年	平成22年11月25日～平成24年11月1日
	梶原誠一	平成21年8月6日～平成25年6月13日
	西光彦	平成22年11月25日～平成25年9月30日
	田中充	平成21年11月24日～平成25年9月30日
	糸長康一	平成23年5月26日～平成26年4月4日
	徳田泰彦	平成24年3月9日～平成26年5月22日
	谷垣信也	平成25年11月14日～平成27年6月16日
合原一美	平成21年8月6日～平成27年11月26日	
築田准	平成24年5月24日～平成27年9月30日	
阿南仁	平成25年11月14日～平成27年11月26日	
所長	*中村泰友	昭和40年10月5日～昭和41年3月31日
事務総長	★吉松時義	平成18年4月1日～平成20年3月31日
事務局長	*牟田雪義	昭和40年10月5日～昭和41年11月20日
	林明次	昭和41年11月21日～昭和42年12月30日
	*水迫幸平	昭和43年4月1日～昭和47年3月31日
	*宮野茂博	昭和47年4月1日～昭和55年3月31日
	佐藤保	昭和55年4月1日～昭和61年3月31日
	*飯倉大八郎	昭和62年4月1日～平成2年3月31日
	*横田繁夫	平成2年4月1日～平成10年3月31日
	*吉永栄治	平成10年4月1日～平成15年3月31日
	*佐藤永治	平成15年4月1日～平成18年3月31日
	早田愛一郎	平成18年7月1日～

※S61.4.1～S62.3.31の事務局長は飯倉大八郎が職務代行  
※敬称略

## 現在の役員

\*印=現在、他の役職を兼務 ★印=過去、他の役職に就任

(平成28年1月1日 現在)

役職	氏名	就任年月日
会長	立石 義雄	平成23年11月22日～
顧問	★秋山 ちえ子	平成18年3月9日～
	鍋島 英幸	平成26年5月23日～
理事長	★中村 太郎	平成10年3月9日～ 理事 平成15年6月17日～平成18年3月8日 副理事長 平成18年3月9日～ 理事長
理事	★吉松 時義	昭和56年2月1日～ 理事 平成18年3月9日～平成20年3月8日 常務理事
	高橋 靖周	平成12年3月9日～
	*早田 愛一郎	平成18年3月9日～
	立花 旦子	平成18年3月9日～
	西村 駿一	平成18年3月9日～
	佐藤 裕士	平成20年3月9日～
	炭谷 茂	平成22年3月9日～
	石田 達	平成26年3月9日～
	山本 英夫	平成26年3月9日～
監事	長野 健	平成24年4月1日～
	恵良 寧	平成27年5月22日～
評議員	中村 英助	平成16年4月1日～
	上野 哲也	平成18年3月9日～
	田島 文博	平成18年3月9日～
	*早田 愛一郎	平成18年3月9日～
	柳瀬 房子	平成18年3月9日～
	尾野 文俊	平成20年3月9日～
	釘宮 卓司	平成20年3月9日～
	増井 玲子	平成20年3月9日～
	伊藤 京子	平成22年3月9日～
	是永 駿	平成22年3月9日～
	岩崎 正	平成23年11月22日～
	渡邊 祐一	平成23年11月22日～
	玄藤 賢一	平成24年11月15日～
	杉本 恵子	平成25年11月14日～
	美馬 幸成	平成25年11月14日～
	宗 良則	平成26年5月23日～
	山下 達夫	平成26年5月23日～
	宮地 功	平成27年6月17日～
	越智 義道	平成27年11月27日～
	能澤 晴雄	平成27年11月27日～
星野 博司	平成27年11月27日～	

## 主な補助金

年度	補助先	金額(円)	用途
1965年(S40)	大分県補助金	20,205,000	第一期工事
1966年(S41)	大分県補助金	10,102,500	第一期工事
	お年玉賦課金寄付	2,500,000	プールの建設
	日本自転車振興会補助金	24,565,000	第二、三作業棟の建設
1967年(S42)	日本自転車振興会補助金	18,255,000	桜寮の建設
1968年(S43)	日本自転車振興会補助金	21,510,000	集塵器ほか設備
1969年(S44)	日本船舶振興会補助金	6,000,000	労働研究機器の購入
1970年(S45)	日本自転車振興会補助金	51,000,000	本館建築工事
	清水基金補助金	7,000,000	本館冷房装置
	別府市補助金	9,000,000	浴場の建設
	労働省委託研究	1,000,000	労働機能研究、脊椎ハンドブック
	三菱財団補助金	8,000,000	多用途監視装置等機器の購入
1971年(S46)	大分県補助金	59,499,000	福祉工場の建設
	三菱財団補助金	11,000,000	重度障害者の労働に関する研究
1972年(S47)	大分県補助金	1,500,000	労働研究
	中央競馬補助金	2,500,000	リフト付車いすの研究
	日本船舶振興会補助金	28,560,000	研修センターの建設
1973年(S48)	大分県補助金	2,000,000	労働研究
	日本自転車振興会補助金	9,910,000	射出成型機の購入
	清水基金補助金	5,000,000	桜寮暖房設備
1974年(S49)	大分県補助金	2,200,000	労働研究
	三菱財団補助金	5,500,000	サイベックスマシン他機械の購入
1975年(S50)	通産省委託事業	19,000,000	福祉機械工場モデル開発
	日本自転車振興会補助金	88,720,000	機能強化センター増改築
	日本IBM補助金	2,000,000	補装具などの研究
	大分県補助金	2,000,000	脳性マヒ研究ほか
	厚生省補助金	4,250,000	SIC自助具等展示事業
	丸紅基金補助金	1,250,000	SIC相談事業
1976年(S51)	日本機械工業連合会委託研究	10,000,000	NC機械作業の研究
	大分県補助金	3,000,000	桜寮屋内消火栓設備
	厚生省展示委託事業	4,038,000	SIC自助具等展示事業
	丸紅基金補助金	1,250,000	SIC相談事業
	東京都補助金	1,737,500	SIC相談事業
	身体障害者雇用促進協会委託	1,000,000	作業用椅子の研究
	清水基金補助金	5,000,000	鶴見寮暖房工事
1977年(S52)	身体障害者雇用促進協会委託	5,000,000	職域拡大研究、調査
	三菱財団補助金	10,000,000	リングダックシステムによる職域拡大研究
1978年(S53)	身体障害者雇用促進協会助成金	50,000,000	職能開発センター建設
	大分県補助金	31,166,000	消防設備事業
	身体障害者雇用促進協会委託	10,000,000	職域拡大研究、開発
1979年(S54)	身体障害者雇用促進協会助成金	50,000,000	職能開発センター建設
	身体障害者雇用促進協会助成金	67,286,000	杵築作業場設置
	大分県補助金	5,000,000	ビデオ教材機器購入
1980年(S55)	日本自転車振興会補助金	172,730,000	ゆたか寮の建設
	別府市補助金	20,000,000	コミセン備品、機器
	三菱財団補助金	4,000,000	コンピュータ関係

年度	補助先	金額(円)	用途
1981年(S56)	日本自転車振興会補助金	68,090,000	第二作業棟改築
1983年(S58)	愛知県補助金	798,660,000	愛知太陽の家建設
	蒲郡市補助金	63,000,000	愛知太陽の家建設
1985年(S60)	京都市補助金	800,105,000	京都太陽の家建設
	京都府補助金	433,795,000	京都太陽の家建設
	蒲郡市補助金	25,000,000	愛知太陽の家コミセン建設
1987年(S62)	大分県補助金	291,667,500	サン・コミュニティ・大神建設
1988年(S63)	大分県補助金	43,832,500	サン・コミュニティ・大神建設
	愛知県共同募金寄付	2,500,000	愛知太陽の家車庫建設
	蒲郡市補助金	1,500,000	顕彰石碑建造
	大分県補助金	262,500	非常通報装置の設置
1989年(H1)	大分県補助金	55,693,696	別府・大規模修繕
	日本船舶振興会補助金	24,900,000	モデルハウスの建設、実験
	大分県補助金	26,285,000	モデルハウスの建設、実験
	大分県補助金	15,000,000	機械設備の近代化
	大分県補助金	10,300,000	スプリンクラーの設置、別府・ゆうわ
1990年(H2)	日本自転車振興会補助金	367,920,000	機能強化研修棟の建設
	大分県補助金	697,481,000	作業棟、食堂棟の建設
	大分県補助金	50,000,000	設備整備
1992年(H4)	大分県補助金	100,559,000	別府・大規模修繕
	大分県補助金	14,904,000	公共下水道工事
	三菱財団補助金	7,000,000	職能評価機器の開発
	中村裕記念身体障害者福祉財団	1,000,000	マラソン練習機の研究
	愛知県共同募金寄付	850,000	愛知、医務室自動ドア工事
1993年(H5)	大分県補助金	107,116,000	別府・大規模修繕
	中央競馬補助金	4,000,000	リフト付車両の購入
	愛知県補助金	796,000	愛知・小規模整備
1994年(H6)	中村裕記念身体障害者福祉財団	1,000,000	言語障害者の発声練習効果の研究
	愛知県補助金	15,128,000	エアコンプレッサー増設
	愛知県補助金	6,643,000	NECオフィスプロセッサー設備
	中央競馬馬主社会福祉財団	3,000,000	公共下水道継ぎ込み工事(愛知)
1995年(H7)	中村裕記念身体障害者福祉財団	800,000	言語障害者の発声練習効果の研究
	地方公共団体補助金	60,000	サラヤ自動手指消毒器1台(愛知)
1996年(H8)	大分県・別府市補助金	20,000,000	太陽の湯改築
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	1,300,000	ハンドドライヤー10台設置(愛知)
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	4,610,000	リフト付福祉車両の購入(京都)
1997年(H9)	地方公共団体補助金	67,637,000	重度授産施設大規模修繕(愛知)
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	10,000,000	ボイラー設備取替2基(愛知)
1998年(H10)	国庫・大分県補助金	199,538,000	療護施設ゆうわ増床
	国庫・大分県補助金	70,700,000	デイサービスセンターゆうわ新設
	市町補助金	5,074,000	スプリンクラーの設置(別府)
	日本自転車振興会補助金	39,090,000	
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	1,700,000	リフト付福祉車両の購入(愛知)
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	2,000,000	公共下水道つなぎ込み工事(京都)

## 主な補助金

年度	補助先	金額(円)	用途
1999年(H11)	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	4,330,000	プールの塗装
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	1,500,000	非常放送設備の更新(愛知)
	愛知県共同募金会	800,000	浴室シャワー水栓22台取り替え
2000年(H12)	国庫・大分県補助金	30,703,000	福祉工場大規模修繕
	別府市補助金	5,117,000	
	日本小型自動車振興会補助事業	20,250,000	リフト付バスの購入
2001年(H13)	車両競技公益資金記念財団助成金	9,310,000	さくら寮の改修
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	2,360,000	エレベーターの改修
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	1,280,000	病院受診用車両の購入(京都)
2002年(H14)	国庫・大分県補助金	60,569,000	ゆたか寮大規模修繕
	別府市補助金	10,095,000	
	国庫・大分県補助金	5,355,000	ゆたか寮拡張
	別府市補助金	892,000	
	日本財団助成金	940,000	車椅子対応車両の購入
	中央競馬馬主社会福祉財団補助金	900,000	病院受診用車両の購入(京都)
2003年(H15)	三菱財団助成金	2,200,000	介護データ記録システムの開発及び実証実験
	日本自転車振興会補助金	2,445,000	リフト付福祉車両の購入
2005年(H17)	日本小型自動車振興会	3,205,000	消毒システム「ステラ」(日出)
	大分県	3,309,000	福祉ホーム外壁補修(日出)
2006年(H18)	大分県	15,038,000	福祉ホーム外壁補修(日出)
	日本自転車振興会	1,073,000	福祉車輛の購入
2007年(H19)	日本財団	2,150,000	福祉車輛の購入
	N E D O	19,782,339	給湯・空調設備更新(京都)
2008年(H20)	愛知県	28,000,000	福祉ホーム改修工事(愛知)
	京都府	10,000,000	工場棟エレベーター改修工事(京都)
2009年(H21)	財団法人J K A	1,725,000	福祉車輛の購入
	京都府	10,000,000	宿舎棟エレベーター改修工事(京都)
2010年(H22)	大分県・別府市	134,750,000	新宿舍棟の建設
	財団法人ヤマト福祉財団	980,000	配達用バイクの購入
	社会福祉法人清水基金	2,100,000	福祉車輛の購入
	大分県	2,970,000	プレートマド挿入機の購入
2011年(H23)	大分県・別府市	314,416,000	新宿舍棟の建設
	別府速見地域広域市町村圏事務組合	1,203,300	地中障害物撤去費用(杵築)
	大分県	6,300,000	福祉ホームスプリンクラー設置工事(日出)
	大分県	4,069,000	福祉車輛の購入
	財団法人J K A	1,725,000	福祉車輛の購入
	大分市	3,000,000	「サンハウス大手町」開設準備費用
	大分市	30,000,000	「サンハウス大手町」改修工事
	愛知県	2,423,000	更衣室改修工事(愛知)
2012年(H24)	蒲郡市	1,200,000	相談支援事業に伴う施設整備(愛知)
	愛知県共同募金会	2,500,000	福祉車輛の購入
2013年(H25)	荒川磯慈善会	485,688	机と椅子の購入(愛知)
	日本財団	2,460,000	福祉車輛の購入(京都)
2014年(H26)	一般社団法人環境供創イニシアチブ	7,346,833	空調設備更新工事(日出)

## 見学者数の推移

(単位:人)

年度	別府			愛知			京都			国内計	海外計	合計
	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計			
1965年(S40)	不明											
1966年(S41)	不明	6	6								6	6
1967年(S42)	不明	7	7								7	7
1968年(S43)	不明	22	22								22	22
1969年(S44)	不明	7	7								7	7
1970年(S45)	不明	20	20								20	20
1971年(S46)	不明	19	19								19	19
1972年(S47)	不明	16	16								16	16
1973年(S48)	不明	60	60								60	60
1974年(S49)	6454	7	6461							6454	7	6461
1975年(S50)	7898	12	7910							7898	12	7910
1976年(S51)	8200	9	8209							8200	9	8209
1977年(S52)	8544	12	8556							8544	12	8556
1978年(S53)	7565	18	7583							7565	18	7583
1979年(S54)	8975	85	9060							8975	85	9060
1980年(S55)	8738	92	8830							8738	92	8830
1981年(S56)	11053	157	11210							11053	157	11210
1982年(S57)	8413	15	8428							8413	15	8428
1983年(S58)	5769	47	5816							5769	47	5816
1984年(S59)	5785	112	5897	9538	42	9580				15323	154	15477
1985年(S60)	5443	269	5712	3973	20	3993				9416	289	9705
1986年(S61)	4553	99	4652	2406	5	2411	5193	130	5323	12152	234	12386
1987年(S62)	5403	97	5500	2149	14	2163	3978	110	4088	11530	221	11751
1988年(S63)	5274	59	5333	2415	7	2422	2681	44	2725	10370	110	10480
1989年(H 1)	4302	97	4399	2142	2	2144	2310	75	2385	8754	174	8928
1990年(H 2)	4235	144	4379	2211	4	2215	2013	78	2091	8459	226	8685
1991年(H 3)	5584	186	5770	1491	12	1503	1942	155	2097	9017	353	9370
1992年(H 4)	5067	256	5323	2307	10	2317	1253	37	1290	8627	303	8930
1993年(H 5)	7272	165	7437	2139	11	2150	1375	14	1389	10786	190	10976
1994年(H 6)	5848	212	6060	1471	52	1523	663	27	690	7982	291	8273
1995年(H 7)	5052	123	5175	1857	36	1893	1375	39	1414	8284	198	8482
1996年(H 8)	5272	193	5465	1833	27	1860	1084	150	1234	8189	370	8559
1997年(H 9)	4397	136	4533	1578	25	1603	790	174	964	6765	335	7100
1998年(H10)	3479	112	3591	1679	27	1706	411	102	513	5569	241	5810
1999年(H11)	4674	234	4908	1336	59	1395	537	9	546	6547	302	6849
2000年(H12)	4088	143	4231	1360	24	1384	611	8	619	6059	175	6234
2001年(H13)	4026	257	4283	1351	47	1398	502	31	533	5879	335	6214
2002年(H14)	4364	400	4764	1707	21	1728	706	47	753	6777	468	7245
2003年(H15)	4694	472	5166	1548	47	1595	492	66	558	6734	585	7319
2004年(H16)	4742	481	5223	1473	45	1518	535	223	758	6750	749	7499
2005年(H17)	3537	730	4267	1464	35	1499	460	40	500	5461	805	6266
2006年(H18)	3690	732	4422	1808	54	1862	401	149	550	5899	935	6834
2007年(H19)	3571	829	4400	1577	104	1681	514	68	582	5662	1001	6663
2008年(H20)	3126	606	3732	1880	43	1923	923	156	1079	5929	805	6734
2009年(H21)	3001	361	3362	841	20	861	734	219	953	4576	600	5176
2010年(H22)	2595	578	3173	985	5	990	509	181	690	4089	764	4853
2011年(H23)	2888	411	3299	1023	20	1043	531	57	588	4442	488	4930
2012年(H24)	3678	388	4066	641	23	664	577	97	674	4896	508	5404
2013年(H25)	3368	722	4090	963	0	963	610	193	803	4941	915	5856
2014年(H26)	4033	521	4554	869	0	869	599	75	674	5501	596	6097
総計	218650	10736	229386	60015	841	60856	34309	2754	37063	312974	14331	327305

# 在籍者数の推移

在籍者の推移

(単位:人)

年度	施設利用者		雇用就労者		高齢者施設	総計
	(西暦)	(和暦)	生活施設	訓練就労		
1965	S40		0	7	5	12
1966	S41		22	7	3	32
1967	S42		69	9	8	86
1968	S43		94	9	16	119
1969	S44		130	8	18	156
1970	S45		150	6	21	177
1971	S46		177	6	25	208
1972	S47		234	39	53	326
1973	S48		225	63	59	347
1974	S49		245	73	75	393
1975	S50		243	73	82	398
1976	S51		235	67	84	386
1977	S52		235	64	85	384
1978	S53		275	66	89	430
1979	S54		256	85	90	431
1980	S55	0	262	104	89	455
1981	S56	22	272	102	129	525
1982	S57	50	298	139	136	623
1983	S58	49	314	144	142	649
1984	S59	48	357	205	205	815
1985	S60	50	369	251	231	901
1986	S61	50	421	348	256	1075
1987	S62	50	423	365	266	1104
1988	S63	77	424	424	311	1236
1989	H1	100	416	445	333	1294
1990	H2	100	419	453	334	1306

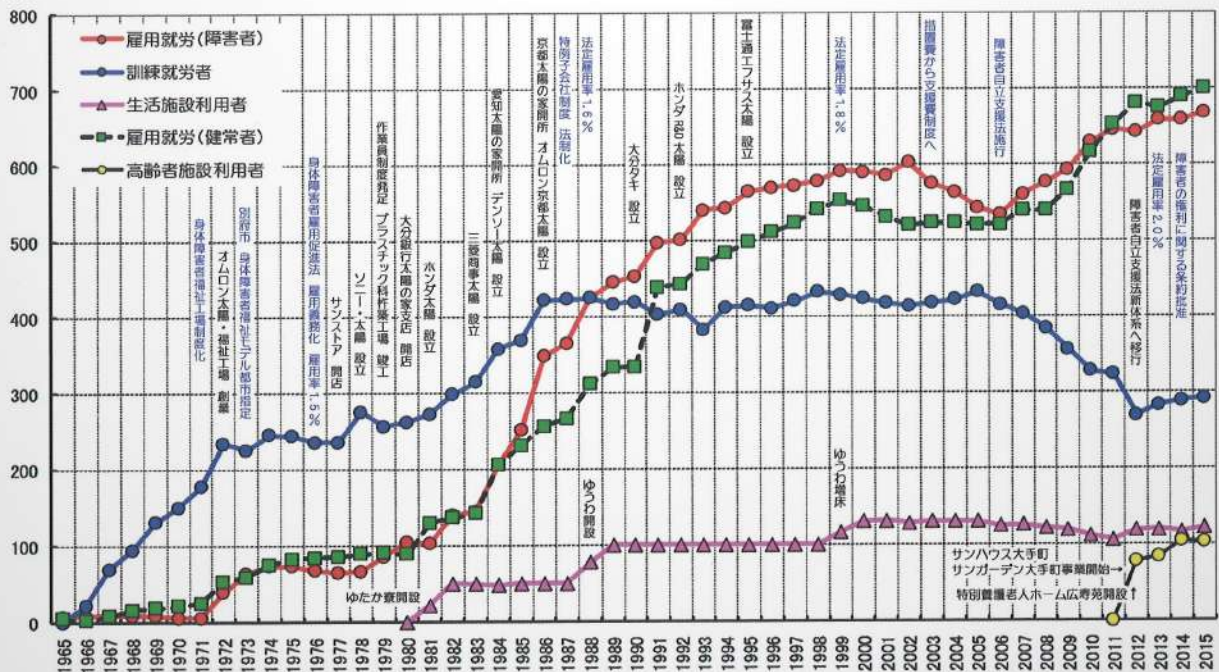
(単位:人)

年度	施設利用者		施設利用者		高齢者施設	総計	
	(西暦)	(和暦)	生活施設	訓練就労			
1991	H3	100	402	497	438	1437	
1992	H4	100	409	501	443	1453	
1993	H5	100	382	540	469	1491	
1994	H6	100	412	543	484	1539	
1995	H7	100	414	564	498	1576	
1996	H8	100	410	569	511	1590	
1997	H9	100	420	572	523	1615	
1998	H10	100	432	578	541	1651	
1999	H11	116	428	591	552	1687	
2000	H12	130	423	590	545	1688	
2001	H13	131	417	585	531	1664	
2002	H14	128	413	602	520	1663	
2003	H15	130	417	574	523	1644	
2004	H16	130	421	563	523	1637	
2005	H17	130	432	543	521	1626	
2006	H18	124	415	533	521	1593	
2007	H19	126	403	560	539	1628	
2008	H20	121	384	576	539	1620	
2009	H21	119	356	593	566	1634	
2010	H22	111	327	629	616	1683	
2011	H23	106	323	646	652	0	1727
2012	H24	118	269	642	681	78	1788
2013	H25	119	282	658	674	83	1816
2014	H26	116	288	658	689	104	1855
2015	H27	121	291	668	700	103	1883

生活施設:旧制度の療養施設・重度更生支援施設、現行制度の障害者支援施設 訓練就労:旧制度の授産施設・通所授産施設、現行制度の就労移行支援・就労継続支援B型

雇用就労:旧制度の身体障害者福祉工場、現行制度の就労継続支援A型および共同出資会社・協力企業、事務局 高齢者施設:特別養護老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅・小規模多機能型居宅介護施設

(人)



障害分類の推移

(単位:人)

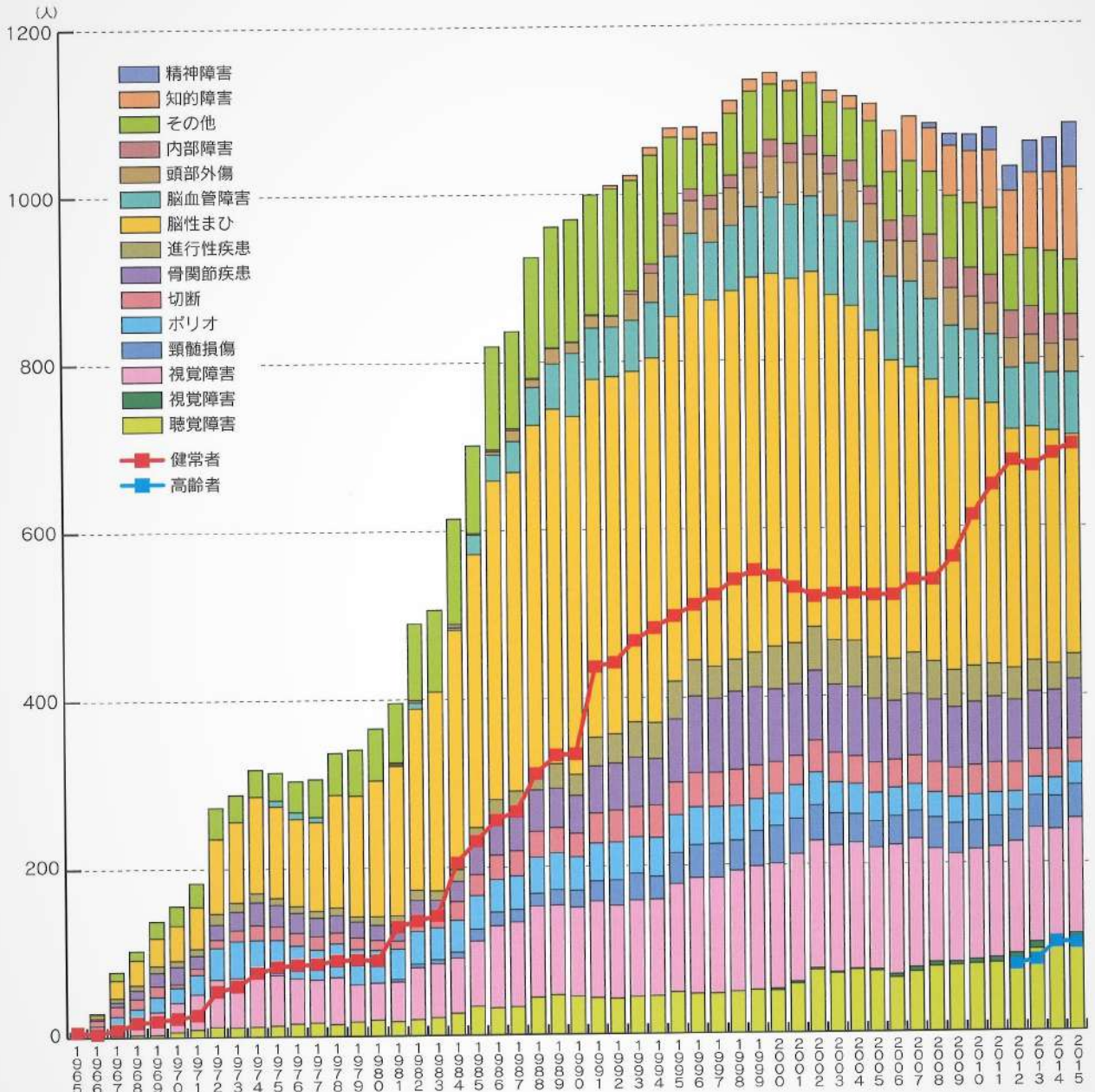
年度		身体障害													知的障害	精神障害	障がい者合計	障害者	高齢者	総計
(西暦)	(和暦)	感覚器		肢体不自由					脳原性			内部								
		聴覚障害	視覚障害	脊髄損傷	頸髄損傷	ポリオ	切断	骨関節疾患	進行性疾患	脳性まひ	脳血管障害	頭部外傷	内部障害							
1965	S40			3			4										7	5	12	
1966	S41	1		8		5	7	2		4						2	29	3	32	
1967	S42	2		12		11	12	5	5	21					10		78	8	86	
1968	S43	3		18		13	12	10	6	30					11		103	16	119	
1969	S44	3		27		18	13	16	8	33					20		138	18	156	
1970	S45	6		35		18	4	21	7	42					23		156	21	177	
1971	S46	9		42		23	8	15	8	50					28		183	25	208	
1972	S47	12		56		38	10	18	13	89					37		273	53	326	
1973	S48	11		59		44	13	22	11	96					32		288	59	347	
1974	S49	12		62		41	18	27	11	115					32		318	75	393	
1975	S50	13		60		42	16	26	8	109	7				33		314	82	396	
1976	S51	15		54		39	15	24	8	104	8				37		304	84	388	
1977	S52	16		51		36	16	22	8	106	6				45		306	85	391	
1978	S53	14		56		40	13	21	9	134	0				50		337	89	426	
1979	S54	17		44		42	14	19	6	144	0				55		341	90	431	
1980	S55	19		44		39	12	18	10	162	0				62		366	89	455	
1981	S56	17		47	3	36	10	19	11	178	1	2	1	71			396	129	525	
1982	S57	19		62	4	39	13	24	12	216	7	3	0	91			490	136	626	
1983	S58	21		64	5	38	11	22	11	237	0	0	0	97			506	142	648	
1984	S59	26		66	7	38	22	24	14	285	3	0	4	125			614	205	819	
1985	S60	34		78	14	40	25	36	20	325	23	0	2	104			701	231	932	
1986	S61	32		98	16	39	29	44	22	379	31	4	2	123			819	256	1075	
1987	S62	33		101	15	40	30	48	23	379	37	13	2	116			837	266	1103	
1988	S63	44		109	15	43	31	49	26	408	45	9	2	144			925	311	1236	
1989	H1	47		107	18	44	30	47	29	422	54	18	1	144			961	333	1294	
1990	H2	45		106	20	40	28	45	25	426	75	13	1	146			970	334	1304	
1991	H3	43		115	24	45	36	56	34	426	61	15	1	143			999	438	1437	
1992	H4	42		111	30	45	38	56	35	425	59	13	1	151	4		1010	443	1453	
1993	H5	44		115	32	43	36	59	42	417	61	31	4	132	6		1022	469	1491	
1994	H6	45		115	27	46	39	55	43	434	66	35	11	130	9		1055	484	1539	
1995	H7	49		129	37	45	39	75	45	434	72	37	14	91	11		1078	498	1576	
1996	H8	47		138	39	45	41	91	43	435	73	39	14	60	14		1079	511	1590	
1997	H9	47		138	40	44	41	88	38	436	69	40	16	61	14		1072	523	1595	
1998	H10	49		144	36	41	43	93	38	439	78	45	15	74	15		1110	541	1651	
1999	H11	51		147	42	38	40	93	41	447	84	47	17	74	14		1135	552	1687	
2000	H12	50	2	149	45	38	38	86	51	444	91	49	20	66	14		1143	545	1688	
2001	H13	58	2	152	42	40	35	85	49	434	88	50	23	63	12		1133	531	1664	
2002	H14	74	2	152	42	39	38	83	52	423	90	50	22	63	13		1143	520	1663	
2003	H15	70	1	151	38	37	35	81	53	411	95	49	22	64	14		1121	523	1644	
2004	H16	74	1	150	34	36	33	82	55	399	100	49	24	62	15		1114	523	1637	
2005	H17	72	2	145	31	34	36	76	49	389	106	45	21	78	21		1105	521	1626	
2006	H18	64	4	154	34	34	33	70	50	355	100	43	24	58	49		1072	521	1593	
2007	H19	71	5	153	33	32	34	73	49	340	102	48	30	66	53		1089	539	1628	
2008	H20	77	5	135	37	30	36	74	46	335	96	45	32	75	52	6	1081	539	1620	
2009	H21	78	4	129	36	31	35	72	44	324	86	45	35	75	60	14	1068	566	1634	
2010	H22	80	5	131	34	31	35	75	43	317	83	39	35	77	62	20	1067	616	1683	
2011	H23	81	6	132	36	28	36	78	39	310	82	37	34	80	69	27	1075	652	1727	
2012	H24	85	7	133	37	22	35	74	38	284	73	35	33	66	77	30	1029	681	78	1788
2013	H25	97	8	136	38	22	33	69	37	278	75	34	34	69	91	38	1059	674	83	1816
2014	H26	99	8	132	39	22	34	70	32	277	69	34	35	76	94	41	1062	689	104	1855
2015	H27	103	12	137	40	26	28	71	30	261	74	38	31	65	111	53	1080	700	103	1883

障害者:共同出資会社・協力企業・事務局に所属する人  
 高齢者:高齢者福祉制度の利用者 (特別養護老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅・小規模多機能型居宅介護施設)



# 在籍者数の推移

障害分類の推移



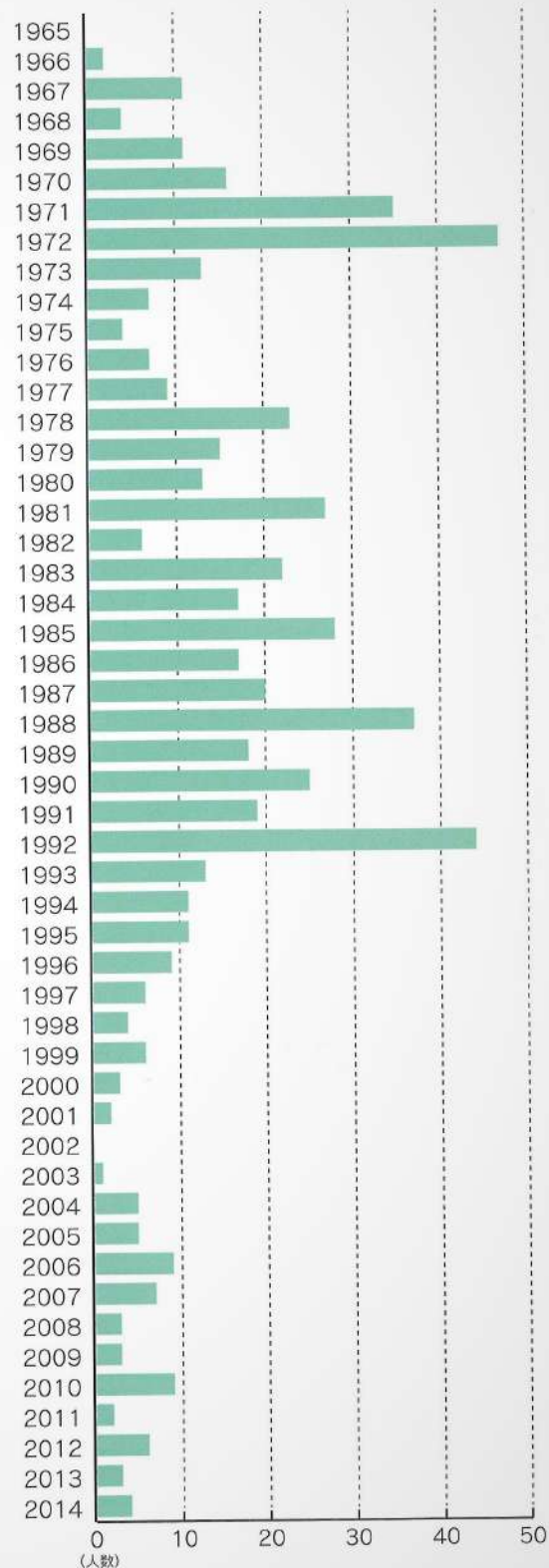
## 授産施設・B型事業所から雇用された人数

(単位：人)

年度	別府		愛知		京都		合計
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	
1965年(S40)							0
1966年(S41)		2					2
1967年(S42)		11					11
1968年(S43)		4					4
1969年(S44)		11					11
1970年(S45)		16					16
1971年(S46)	34	1					35
1972年(S47)	45	2					47
1973年(S48)	11	2					13
1974年(S49)	6	1					7
1975年(S50)	4						4
1976年(S51)	7						7
1977年(S52)	9						9
1978年(S53)	23						23
1979年(S54)	13	2					15
1980年(S55)	12	1					13
1981年(S56)	27						27
1982年(S57)	5	1					6
1983年(S58)	22						22
1984年(S59)	5		11	1			17
1985年(S60)	12		7	9			28
1986年(S61)	4		4	7	2		17
1987年(S62)	8		4	4	4		20
1988年(S63)	18		3	1	10	5	37
1989年(H1)	5	1	3	4	1	4	18
1990年(H2)	11	2	3	6	2	1	25
1991年(H3)	6	3	1	4	2	3	19
1992年(H4)	29	3	8	1	2	1	44
1993年(H5)	8		2	2		1	13
1994年(H6)	8		3				11
1995年(H7)	9		2				11
1996年(H8)	7		2				9
1997年(H9)	2	2	2				6
1998年(H10)	1	1	2				4
1999年(H11)	2	1	3				6
2000年(H12)	3						3
2001年(H13)		1	1				2
2002年(H14)							0
2003年(H15)					1		1
2004年(H16)	1	1	1	1		1	5
2005年(H17)	4		1				5
2006年(H18)	5	1	1		2		9
2007年(H19)	5	1	1				7
2008年(H20)	3						3
2009年(H21)	2		1				3
2010年(H22)	6	1	1		1		9
2011年(H23)		2					2
2012年(H24)	3		2		1		6
2013年(H25)		1	1		1		3
2014年(H26)	1		1		2		4
総計	386	75	71	40	31	16	619

内部へ 488 (78.8%)

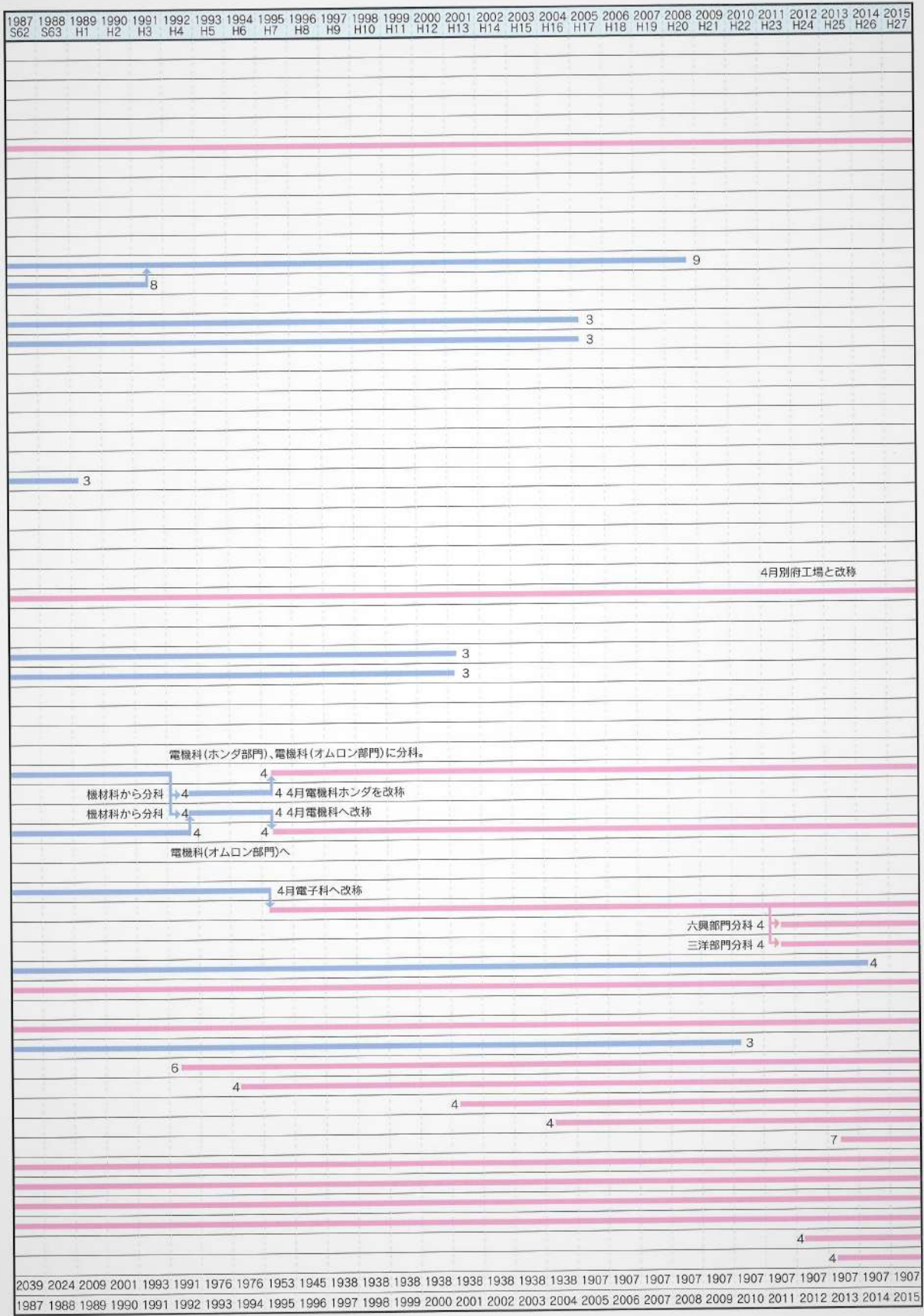
外部へ 131 (21.2%)



# 事業種目の変遷

科目	協力企業	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
		S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61
竹工科	並松製作所	10						5															
義肢科	別府義肢	10						9															
縫製科		10						12															
木工科		10						12															
金工科	菅製作所	10						12															
印刷科	㈱電子印刷センター	4																					
木工科シャープ	シャープ㈱			5								6											
木工科太陽二平	太陽二平㈱											6		7									
クリーニング科	綿久寝具㈱			5					11														
金工科(関西エバー)	関西エバーブラック㈱			11								10											
金工科(京都度器)	京都度器製作所			6					9														
金工科(田島製作所)	㈱田島製作所								10														
金工科(ヒートセット部門)	㈱田島製作所										10												
第1プラスチック科	㈱田島製作所			2																			
プラスチック科																							
プラスチック科(作業工場)																							
電器科(ウェストン)	ウェストン音機㈱					9		5															
第2プラスチック科	㈱京屋工業					6																	
医療機器科	川澄化学工業㈱								4														
木工科サンアップ	サンアップ工業㈱								8														
工作科(治工具)									10														
工作科																							
リハビリテーション機器科																							
木工科唐木	伏野唐木㈱								12														
電機科(オムロン前作業)	オムロン太陽㈱								12														
応用資材科	オムロン太陽㈱								4														
特産科OSK	㈱OSK																						
特修科																							
福祉工場	オムロン太陽㈱																						
工芸科(窓口サービスセンター)									3														
工芸科(木工)									5														
園芸科																							
特機科	ソニー・太陽㈱																						
工芸科(釜我つけ工芸)	㈱釜我つけ工芸																						
工芸科(カナクラ)	㈱金倉仏光堂																						
工芸科OM	オムロン太陽㈱																						
工芸科ホンダ	ホンダ太陽㈱																						
機材科	ホンダ太陽㈱																						
電機科(ホンダ部門)	ホンダ太陽㈱																						
電機科(オムロン部門)	オムロン太陽㈱																						
電機科	ホンダ太陽㈱																						
電機科OM	オムロン太陽㈱																						
電機科TI	日本テキサスインスツルメント㈱																						
電子科TI	日本テキサスインスツルメント㈱																						
電子科	日本テキサスインスツルメント㈱																						
電材科	六興電気㈱																						
紙材科	㈱三洋産業																						
精機科	ホンダ太陽㈱																						
情報処理科	三菱商事太陽㈱																						
応用訓練科																							
制御機器科	オムロン太陽㈱																						
商業科	㈱トキハイダストリー																						
FJ機器科	富士通エフサス太陽㈱																						
工芸科																							
環境科																							
福祉用具科	㈱大分タキ																						
カフェサービス科																							
愛知福祉工場	デンソー太陽㈱																						
電装科	デンソー太陽㈱																						
京都福祉工場	オムロン京都太陽㈱																						
制御機器科(京都)	オムロン京都太陽㈱																						
環境科																							
総合作業科																							
年間所定作業時間(作業所)		-	-	-	-	-	-	-	2235	2220	2130	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2070	2047
		1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986

\*表中の数字は月を表す。 \*年間所定作業時間は最も長い作業所の数値を採用。



## 共同出資会社一覧

「太陽の家の支援者は投資者である」

障がい者の安定雇用を目指した中村博士の答えが共同出資会社でした。

オムロン創設者立石一真氏の支援で設立されたオムロン太陽電機株式会社(現オムロン太陽)の設立。

現在では計8社の共同出資会社が設立されました。

“CSR(企業の社会的責任)”としてだけではなく、

障がい者の安定した雇用の実現“サステナビリティ(持続可能性)”を追及する運営を各社が行っています。

※資本金、株主構成は設立時

設立	1972年(S47)2月4日	1978年(S53)1月14日	1981年(S56)9月25日	1983年(S58)12月1日
社名	オムロン太陽株式会社 (設立時:オムロン太陽電機株式会社)	ソニー・太陽株式会社 (設立時:株式会社サンインダストリー)	ホンダ太陽株式会社	三菱商事太陽株式会社
資本金	500万円	500万円	500万	1,000万円
株主構成	立石電機----- 45% 太陽の家----- 26% 立石電機関係者----- 15% 太陽会(障がい者の持株会) 14%	ソニー----- 51% 太陽の家----- 23% その他----- 26%	本田技研工業株式会社 51% 日本精機----- 10% 太陽の家----- 33%	三菱商事株式会社--- 67% 太陽の家----- 33%
現在の所在地	大分県別府市大字内籠 字中無田1393番1	大分県速見郡日出町大字 大神字寒水1402-14	大分県速見郡日出町大字 川崎3968	大分県別府市大字内籠 1399番1
生産品目	制御機器(サムロータリー スイッチ、ソケットなど) の製造	マイクロホン、 IT製品の生産等	二輪・四輪・汎用製品の 部品製造 データ領域業務	システム開発、HP制作、 サーバーホスティング、 DTPデザイン

※資本金、株主構成は設立時

設立	1984年(S59)3月30日	1985年(昭和60年)3月6日	1992年(平成4年)7月17日	1995年(平成7年)7月3日
社名	デンソー太陽株式会社	オムロン京都太陽株式会社 (設立時:京都オムロン太陽株式会社)	ホンダR&D太陽株式会社	富士通エフサス太陽株式会社 (設立時:富士通カスタマ太陽株式会社)
資本金	1,500万円	1,500万円	3,000万円	2,000万円
株主構成	日本電装----- 51% 太陽の家----- 49%	オムロン株式会社----- 61% 太陽の家----- 39%	株式会社本田技術研究所 60% 本田技研工業株式会社 25% 太陽の家----- 15%	株式会社富士通エフサス 75% 太陽の家----- 25%
現在の所在地	愛知県蒲郡市形原町 北浜28-1	京都市南区上鳥羽塔ノ森 上河原87	大分県速見郡日出町大字 川崎3968-1	大分県別府市大字内籠 1399番1
生産品目	自動車用コンピメーター、 フューエルセンダ、スマート キーケース等の自動車部品	制御機器(センサー、タイマ、 リレー、ソケットなど)、 健康機器(体温計、血圧計) の製造	CAD設計、輸送用機器及び 福祉機器の研究開発 車いすレーサーの開発	ICT分野における各種 サービスの提供 システム運用・監視/ATM およびPCのリペア

## 給与・工賃支給実績 (平均月額)

(単位：円)

年	授産・B型施設		
	別府	愛知	京都
1965年(S40)			
1966年(S41)	3,000		
1967年(S42)	6,000		
1968年(S43)	12,800		
1969年(S44)	14,500		
1970年(S45)	17,500		
1971年(S46)	19,400		
1972年(S47)	21,500		
1973年(S48)	25,800		
1974年(S49)	32,500		
1975年(S50)	35,400		
1976年(S51)	34,852		
1977年(S52)	38,344		
1978年(S53)	37,750		
1979年(S54)	34,916		
1980年(S55)	36,725		
1981年(S56)	38,285		
1982年(S57)	38,520		
1983年(S58)	38,208		
1984年(S59)	38,417	26,148	
1985年(S60)	39,111	29,549	
1986年(S61)	39,933	30,457	19,485
1987年(S62)	36,018	31,642	25,562
1988年(S63)	37,265	31,916	30,066
1989年(H 1)	44,152	32,855	30,031
1990年(H 2)	44,865	35,166	30,889
1991年(H 3)	45,740	35,181	33,191
1992年(H 4)	44,816	37,329	34,413
1993年(H 5)	44,250	37,585	36,329
1994年(H 6)	45,259	36,536	37,250
1995年(H 7)	46,941	37,146	38,275
1996年(H 8)	45,059	38,364	39,383
1997年(H 9)	44,320	39,675	40,491
1998年(H10)	43,964	41,815	40,966
1999年(H11)	41,530	42,307	40,208
2000年(H12)	42,142	43,466	41,216
2001年(H13)	40,226	43,491	40,658
2002年(H14)	38,031	44,324	38,725
2003年(H15)	34,388	45,362	39,933
2004年(H16)	33,326	45,802	39,966
2005年(H17)	37,398	46,495	38,308
2006年(H18)	36,009	47,290	38,066
2007年(H19)	34,645	48,308	37,641
2008年(H20)	36,661	48,135	38,275
2009年(H21)	28,572	37,141	35,325
2010年(H22)	28,134	42,557	37,633
2011年(H23)	34,988	44,220	39,141
2012年(H24)	35,514	40,015	32,130
2013年(H25)	34,398	44,633	31,476
2014年(H26)	28,104	47,650	30,024

(授産・B型施設)

別府 1966～1975 太陽の家10年の歴史(1975)より

別府 1976～1977 決算報告書の年間総支給額を各月在籍者の年間延べ人数で除した額。

別府 1978～1993 事業実績報告書より 工賃(平均)月額+年間費与額(平均)/12 で算出。

別府 1994～2013 事業実績報告書より 工賃(平均)月額+((夏費与額平均+冬費与額平均)/12)で算出。

別府 2014 (基準内工賃のみ、直営部門は賞与がなかった)

愛知 2012年度より賞与なし

京都 2012～2014 時間給・賞与なし。 月平均稼働時間×時間給 で算出。工場部門のみ計上。

(単位：円)

年	福祉工場・A型施設		
	別府	愛知	京都
1965年(S40)			
1966年(S41)			
1967年(S42)			
1968年(S43)			
1969年(S44)			
1970年(S45)			
1971年(S46)			
1972年(S47)	39,183		
1973年(S48)	41,694		
1974年(S49)	45,468		
1975年(S50)	54,331		
1976年(S51)	70,921		
1977年(S52)	79,993		
1978年(S53)	97,204		
1979年(S54)	125,655		
1980年(S55)	104,856		
1981年(S56)	114,000		
1982年(S57)	124,600		
1983年(S58)	107,000		
1984年(S59)	141,588	101,434	
1985年(S60)	146,446	116,211	
1986年(S61)	153,901	124,072	113,525
1987年(S62)	164,601	132,647	127,141
1988年(S63)	176,380	136,681	137,389
1989年(H 1)	177,057	144,027	150,279
1990年(H 2)	180,813	156,956	165,787
1991年(H 3)	161,999	158,388	171,983
1992年(H 4)	195,283	168,273	181,071
1993年(H 5)	177,579	172,178	192,418
1994年(H 6)	229,518	171,943	184,758
1995年(H 7)	232,682	176,395	190,225
1996年(H 8)	232,290	179,987	195,208
1997年(H 9)	214,337	186,074	200,216
1998年(H10)	178,447	187,956	204,391
1999年(H11)	180,721	192,202	200,775
2000年(H12)	173,055	197,251	203,475
2001年(H13)	185,103	196,103	208,158
2002年(H14)	183,469	197,668	201,041
2003年(H15)	171,476	199,656	210,850
2004年(H16)	181,964	202,297	213,125
2005年(H17)	185,510	203,215	187,381
2006年(H18)	188,727	203,856	214,975
2007年(H19)	172,844	194,100	215,633
2008年(H20)	166,224	195,226	210,133
2009年(H21)	162,517	164,794	194,366
2010年(H22)	173,985	196,423	197,333
2011年(H23)	180,065	200,180	207,516
2012年(H24)	174,158	198,162	206,166
2013年(H25)	159,130	198,895	205,483
2014年(H26)	169,559	200,273	208,533

(福祉工場・A型施設)

別府 1966～1975 太陽の家10年の歴史(1975)より

別府 1976～1978 事業実績報告書より 賞与含まず。

別府 1979～1983 事業実績報告書より 賞与含む。

別府 1984～1992 事業実績報告書より 給与平均年額(賞与含む)/12 で算出。

別府 1993～2009 事業実績報告書より 工賃(平均)月額+((夏費与額平均+冬費与額平均)/12)で算出。

別府 2010～2014 サンストア含まず、別府工場のみ。

愛知/京都 全年度 工賃(平均)月額+((夏費与額平均+冬費与額平均)/12)で算出。

## フェスピック大会参加状況

### 「フェスピック大会」「アジアパラ競技大会」とは

「FESPIC/フェスピック」は、アジア・南太平洋の国・地域の障がい者スポーツの祭典で第1回大会は1975年故中村裕博士の提唱によって大分県で開催された。「FESPIC」という名称は、この大会の英文名称である「Far East and South Pacific Games for the Disabled」に由来する。FESPIC連盟には45カ国・地域が加盟し、太陽の家に事務局が置かれ、故中村裕博士や畑田和男前理事長が連盟会長を務めた。純粋な競技大会であるパラリンピックと異なり、各国選手の3割は国際大会未経験者とするなど、障がい者スポーツの普及を最大の目的としている。国際パラリンピック委員会によって、2001年にオセアニア地域、2002年にアジア地域をそれぞれ管轄する評議会が設立された。これを受けてアジア地域の障がい者スポーツの統括団体を一本化する提案がなされ、フェスピック連盟は2006年に開催された第9回FESPIC大会後にアジアパラリンピック評議会と合併し、「アジアパラリンピック委員会」と改称した。これによってFESPIC大会はその役割を終え、以後「Asian Para Games/アジアパラ競技大会」として4年に一度、国際パラリンピック委員会の地域委員会であるアジアパラ委員会が主催することとなった。2007年にはこれまでのFESPICの功績をたたえ、事務局が置かれていた太陽の家に記念モニュメントが設置された。

### フェスピック競技大会

回	開催年	期間	開催地	参加国数	参加者数(人)	参加者
1	1975年(S50)	6.1~6.3	日本(大分市・別府市)	18	973	太陽の家から選手35名と役員5名が出場
2	1977年(S52)	11.20~11.26	オーストラリア(パラマツタ)	16	430	(団長)中村裕理事長 (選手)長田博行・松倉英治・永末俊雄・江藤秀信・宮本猪一郎(コーチ)高橋寛
3	1982年(S57)	10.31~11.7	香港(シャティン)	23	744	(団長)中村裕理事長(選手)中原清・木本弘光・白浜美智男(コーチ)高橋寛・小林順一(通訳)後藤敬子
4	1986年(S61)	8.31~9.7	インドネシア(スラカルタ)	19	834	(選手)河野敏幸・江川正喜・黒沢忠巳・城隆志・田中昌彦・吉川勇・柏木光一(コーチ)高橋寛・小林順一・衛藤慶次(通訳)平川奈津子 (フェスピック連盟)畑田和男理事長・野尻義孝
5	1989年(H1)	9.15~9.20	日本(神戸市)	41	1646	(選手)河津英信・矢田成昭・藤原修・柿木原龍二・嶋隆之・田村浩司・河野敏幸・奈良輪正也・徳永祐政(コーチ)高橋寛・古手川俊明 (フェスピック連盟)畑田和男理事長・野尻義孝・宮原実乃・平川奈津子
6	1994年(H6)	9.4~9.10	中華人民共和国(北京)	42	2081	(選手)吉次一哉・奈良輪正也(選手団医師)中村太郎理事(コーチ)高橋寛・古手川俊明 (フェスピック連盟)畑田和男理事長・麻生学・安岡由恵・四ツ谷奈津子
7	1999年(H11)	1.10~1.16	タイ(バンコク)	34	2258	(選手団医師)中村太郎理事(コーチ)高橋寛 (フェスピック連盟)畑田和男理事長・麻生学・安岡由恵・大原明子
8	2002年(H14)	10.26~11.1	大韓民国(釜山)	40	2199	(選手)荒力・加藤裕和・渡辺習輔・牧野巧・安井和彦・田村算啓(コーチ)今吉豊・佐々木利恵 (フェスピック連盟)畑田和男理事長・中村太郎副理事長・麻生学・仲前信治・岡田承子
9	2006年(H18)	11.25~12.1	マレーシア(クアラルンプール)	46	2346	(選手)太田恵蔵・山口良太・安井一彦 (役員)今吉豊・堀川裕二 (フェスピック連盟)中村太郎理事長・麻生学・仲前信治・岡田承子
	2007年(H19)	10.4~5	FESPICモニュメント除幕式			秋山ちえ子・北郷勲夫・Dr. John Grant夫妻・Dr. York Chow・Dato' Zainal Abu Zarin・畑田和男・中村廣子・中村太郎夫妻

### アジアパラ競技大会

10	2010年(H22)	12.12~12.19	中国(広州)	41	3798	(選手)橋爪 優・荒力
11	2014年(H26)	10.18~10.24	韓国(仁川)	41	6000	(選手)城隆志・木谷隆行

## 大分国際車いすマラソン大会参加状況

1981年の国際障害者年を記念して、故中村裕博士が世界で初めての「車いすだけのマラソンの国際大会」の開催を提唱しスタートさせた。現在では、世界最大、最高レベルの大会として、国内外から高い評価を受け毎年数多くの選手が出場している。(2015年現在、男女共に世界記録がこの大会で記録されている)。トップ選手になると平均時速30km超、下り坂では時速50kmを超える。

### ハーフマラソン(21.0975km)

大会回数	開催年	参加者数			太陽の家TOPランナー
		別府	愛知	京都	
1	1981年(S56)	20			杉尾 良一 (総合20位 1時間19分56秒)
2	1982年(S57)	16			杉尾 良一 (総合14位 1時間15分27秒)
3	1983年(S58)	6			松本千太郎 (総合13位 1時間26分40秒)
4	1984年(S59)	11			白浜美智男 (総合12位 1時間08分39秒)
5	1985年(S60)	7	4		白浜美智男 (総合10位 1時間10分32秒)
6	1986年(S61)	6	2		二木 一巳 (総合23位 1時間09分48秒)
7	1987年(S62)	4	4		吉川 勇 (総合43位 1時間14分48秒)
8	1988年(S63)	4	5	1	近藤 豊 (総合14位 1時間04分07秒)
9	1989年(H1)	3	1	3	二木 一巳 (総合29位 1時間08分15秒)
10	1990年(H2)	3	2	6	浜岡 正昭 (総合97位 1時間15分39秒)
11	1991年(H3)	3	2	6	黒沢 忠己 (総合95位 1時間15分02秒)
12	1992年(H4)	6	2	6	田中 郁宏 (総合83位 1時間05分38秒)
13	1993年(H5)	9	2	4	城 隆志 (総合34位 59分31秒)
14	1994年(H6)	7	2	4	山口 敏喜 (総合56位 1時間06分08秒)
15	1995年(H7)	7	3	7	赤松 政宏 (総合45位 59分31秒)
16	1996年(H8)	12	4	5	矢田 成昭 (総合34位 57分00秒)
17	1997年(H9)	12	5		佐藤 裕巳 (総合40位 57分39秒)
18	1998年(H10)	13	4	1	大野 修一 (総合13位 52分54秒)
19	1999年(H11)	10	5		杉尾 良一 (総合57位 1時間01分34秒)
20	2000年(H12)	15	3		渡辺 習輔 (総合12位 49分38秒)
21	2001年(H13)	10	7		渡辺 習輔 (総合 1位 45分01秒)
22	2002年(H14)	10	6		渡辺 習輔 (総合11位 45分01秒)
23	2003年(H15)	9	9		渡辺 習輔 (総合 1位 44分01秒)
24	2004年(H16)	9	5		渡辺 習輔 (T53/54 1位 46分05秒)
25	2005年(H17)	7	2	1	渡辺 習輔 (T53/54 1位 47分17秒)
26	2006年(H18)	7	2	1	吉田 高志 (T53/54 1位 45分06秒)
27	2007年(H19)	8	2	2	吉田 高志 (T53/54 1位 45分24秒)
28	2008年(H20)	10	4	2	渡辺 習輔 (T53/54 1位 46分51秒)
29	2009年(H21)	9	3	2	渡辺 習輔 (T53/54 2位 46分23秒)
30	2010年(H22)	12	3	3	渡辺 習輔 (T53/54 1位 45分11秒)
31	2011年(H23)	9		2	渡辺 習輔 (T53/54 2位 48分10秒)
32	2012年(H24)	9	3		佐矢野利明 (T53/54 1位 46分46秒)
33	2013年(H25)	7	2	1	渡辺 習輔 (T53/54 3位 46分25秒)
34	2014年(H26)	6	1		佐矢野利明 (T53/54 3位 50分33秒)
35	2015年(H27)	12		2	渡辺 習輔 (T53/54 3位 48分40秒)

### マラソン(42.195km)

大会回数	開催年	参加者数			太陽の家TOPランナー
		別府	愛知	京都	
1	1981年(S56)				実施せず
2	1982年(S57)				実施せず
3	1983年(S58)	6			吉松 時義(総合9位 2時間24分03秒)
4	1984年(S59)	8			吉松 時義(総合15位 2時間14分50秒)
5	1985年(S60)	9			杉尾 良一(総合23位 2時間20分25秒)
6	1986年(S61)	11	3		杉尾 良一(総合23位 2時間14分28秒)
7	1987年(S62)	11	1	2	矢田 成昭(総合25位 2時間12分46秒)
8	1988年(S63)	12	2		吉松 時義(総合24位 2時間06分50秒)
9	1989年(H1)	12	1	1	矢田 成昭(総合26位 1時間55分05秒)
10	1990年(H2)	15	1	1	矢田 成昭(総合15位 1時間47分15秒)
11	1991年(H3)	14		1	矢田 成昭(総合54位 1時間55分49秒)
12	1992年(H4)	10	1	1	矢田 成昭(総合94位 1時間52分30秒)
13	1993年(H5)	8	1	1	吉松 時義(総合98位 2時間04分18秒)
14	1994年(H6)	8		1	吉松 時義(総合49位 1時間59分29秒)
15	1995年(H7)	4	1	1	吉松 時義(総合62位 1時間59分40秒)
16	1996年(H8)	7		1	佐藤 裕巳(総合73位 1時間49分53秒)
17	1997年(H9)	5		1	渡辺 習輔(総合72位 1時間49分28秒)
18	1998年(H10)	6		1	二木 一巳(総合31位 1時間40分38秒)
19	1999年(H11)	8		1	廣道 純(総合 7位 1時間31分55秒)
20	2000年(H12)	7		1	廣道 純(総合 4位 1時間32分51秒)
21	2001年(H13)	5		1	廣道 純(総合 5位 1時間29分38秒)
22	2002年(H14)	4		1	廣道 純(総合 3位 1時間30分20秒)
23	2003年(H15)	3		1	廣道 純(総合 9位 1時間32分16秒)
24	2004年(H16)	1		2	吉松 時義(T53/54 37位 1時間45分19秒)
25	2005年(H17)	3		2	宮平 盛男(T53/54 39位 1時間01分38秒)
26	2006年(H18)	4		1	笹原 廣喜(T53/54 1位 1時間24分15秒)
27	2007年(H19)	5		1	笹原 廣喜(T53/54 14位 1時間28分21秒)
28	2008年(H20)	6			笹原 廣喜(T53/54 8位 1時間29分24秒)
29	2009年(H21)	3		1	笹原 廣喜(T53/54 8位 1時間29分24秒)
30	2010年(H22)	3			笹原 廣喜(T53/54 30位 1時間38分13秒)
31	2011年(H23)	3		1	笹原 廣喜(T53/54 39位 1時間51分33秒)
32	2012年(H24)	2	3		笹原 廣喜(T53/54 30位 1時間43分15秒)
33	2013年(H25)	2		1	笹原 廣喜(T53/54 24位 1時間39分28秒)
34	2014年(H26)	2	1		笹原 廣喜(T53/54 20位 1時間42分32秒)
35	2015年(H27)	3	2	1	笹原 廣喜(T53/54 19位 1時間39分51秒)



## 全国障害者スポーツ大会参加状況

回	開催年	期間	開催地	別府・日出		
1	1965年(S40)	11.6~7	岐阜			
2	1966年(S41)	11.5~6	大分			
3	1967年(S42)	11.4~5	埼玉			
4	1968年(S43)	10.12~13	福井			
5	1969年(S44)	11.8~9	長崎	吉松時義・木部役子		
6	1970年(S45)	10.24~25	岩手	宮本猪一郎		
7	1971年(S46)	11.6~7	和歌山	江藤秀信		
8	1972年(S47)	11.11~12	鹿児島	原田のリ子・車椅子バスケットクラブ		
9	1973年(S48)	10.27~28	千葉	車椅子バスケットクラブ		
10	1974年(S49)	11.2~3	茨城	杉尾良一・渡辺裕一・鬼塚理子		
11	1975年(S50)	11.8~9	三重	上村秀行		
12	1976年(S51)	11.6~7	佐賀	永末俊雄		
13	1977年(S52)	10.15~16	青森	矢野修吉		
14	1978年(S53)	10.23~24	長野	隅田晋治		
15	1979年(S54)	10.27~28	宮崎	河津英信・永田いつ子		
16	1980年(S55)	10.25~26	栃木	木本弘光・佐藤孝		
17	1981年(S56)	10.24~25	滋賀			
18	1982年(S57)	10.16~17	島根	椎正憲・森崎一晴		
19	1983年(S58)	10.29~30	群馬	西村小百合		
20	1984年(S59)	10.27~28	奈良	岩瀬昭廣・神埼一繁	愛知	
21	1985年(S60)	11.2~3	鳥取	藤原修	村本潔	
22	1986年(S61)	10.25~26	山梨	田村浩司・奈良輪正也		京都
23	1987年(S62)	11.14~15	沖縄	柿木原龍二・河野敏幸	真田伊都子	
24	1988年(S63)	10.29~30	京都	立野奈美子・富山順次・車椅子バスケットクラブ		
25	1989年(H1)	9.30~10.1	札幌	佐藤進・隈元弘志・車椅子バスケットクラブ		
26	1990年(H2)	11.3~4	福岡	日野正弘・田中勝巳・車椅子バスケットクラブ		
27	1991年(H3)	10.26~27	石川	日野正弘・田中勝巳・車椅子バスケットクラブ		
28	1992年(H4)	10.17~18	山形	龍良彦・嶋隆之・車椅子バスケットクラブ		
29	1993年(H5)	11.6~7	徳島	田中昌彦・松本千太郎	大林四郎	浜岡正昭
30	1994年(H6)	11.12~13	愛知	松本秀樹・車椅子バスケットクラブ	近藤豊	田中育宏・山口良太
31	1995年(H7)	10.28~29	福島	荒力・相澤知文・車椅子バスケットクラブ	加藤誠	森本啓文・十九川和弘
32	1996年(H8)	10.26~27	広島	嶋田栄作・城隆志・車椅子バスケットクラブ	山口敏書・愛甲正利	赤松政宏・坂しのぶ
33	1997年(H9)	11.2~3	大阪	奈良輪正也・池田正行・車椅子バスケットクラブ	和田裕・西尾かおり	仲地延啓
34	1998年(H10)	11.7~8	神奈川	牧野巧・沢竹寿一郎		
35	1999年(H11)	11.6~7	熊本	前糖由布子・荒力・釘宮修二	秋田修・加藤裕和	
36	2000年(H12)	10.28~29	富山	早川格・宮田明子		寺本光良・藤田景子・谷泰宏
1	2001年(H13)	10.27~29	宮城	橋爪優・車椅子バスケットクラブ	松永育江	藤井健介・西村昌展
2	2002年(H14)	11.9~11	高知	渡辺久之・車椅子バスケットクラブ	清水昭雄・渋谷太要・疎志・井上直美	青木武
3	2003年(H15)	11.8~10	静岡	相澤知文・車椅子バスケットクラブ	大庭由紀乃	大野修・高橋聡

全国障害者スポーツ大会は、東京パラリンピックの翌年である1965年から身体障がい者を対象に行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、1992年から知的障がい者を対象に行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」が統合され、2001年から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。2008年には精神障がい者のバレーボールが正式競技となりすべての障がい者が参加する日本最大の障がい者スポーツの祭典となっている。大会の目的は、パラリンピックなどの競技スポーツとは異なり、障がいのある人々の社会参加の推進や、国民の障がいのある人々に対する理解を深めることであり、太陽の家からも前身の「全国身体障害者スポーツ大会」時代から数多くの代表選手を送り出している。

## 全国障害者スポーツ大会参加状況

回	開催年	期間	開催地	別府・日出	愛知	京都
4	2004年(H16)	11.13~15	埼玉	牧野巧・宮平盛男	牧原勇人	清水均
5	2005年(H17)	11.5~7	岡山	清水由美枝・長孝至・ 車椅子バスケットクラブ	牧原勇人	清水均・岩淵恵太・田中幹人
6	2006年(H18)	10.14~16	兵庫		永田いつ子・望月正美・山口二郎	
7	2007年(H19)	10.13~15	秋田	相澤知文・倉富和子	青木大心・山口二郎・藤川敏	木田親典
8	2008年(H20)	10.11~13	大分	相澤知文・笹原廣喜・藤原修・ 荒力・坂野嘉樹・首藤進司・ 倉富和子・立川順也・田村浩司・ 車椅子バスケットクラブ	青木大心・坂田秀司	
9	2009年(H21)	10.10~12	新潟		坂田秀司	
10	2010年(H22)	10.23~25	千葉			
11	2011年(H23)	10.20~7	山口	坂本幸輔・長孝至・首藤進司	平木菊夫・寺田秀明	和田直也
12	2012年(H24)	10.31~15	岐阜	松田梢・竹田勉		
13	2013年(H25)	10.12~14	東京	倉富和子・首藤進司・塩地優・ 増野浩嗣・柴田十祉治		
14	2014年(H26)	11.1~3	長崎	神崎一繁・倉富和子・首藤進司・ 江川正喜・寺本健太郎・野中守・ 車椅子バスケットクラブ		
15	2015年(H27)	10.24~26	和歌山	藤井邦博		

平成12年までは全国身体障害者スポーツ大会。平成13年以降は全国障害者スポーツ大会

## パラリンピック夏季大会参加状況

パラリンピックとは、国際パラリンピック委員会(IPC フィリップ・クレイヴァン会長 本部:ドイツ・ボン市 1989年創設)が主催する障害者による世界最高峰の競技大会である。夏季大会は、第1回大会以降、概ねオリンピック開催地で行われ、2016年の第15回大会はブラジル(リオデジャネイロ)で、2020年の第16回大会は日本(東京)で開催することが決まっている。

回	開催年	期間	開催地	参加国数	参加者数(人)	参加者
1	1960年(S35)	9.18~9.25	イタリア(ローマ)	23	400	日本不参加
2	1964年(S39)	11.8~11.12	日本(東京)	22	390	中村裕博士(団長)
3	1968年(S43)	11.3~11.13	イスラエル(テルアビブ)	29	750	中村裕理事長(団長)
4	1972年(S47)	8.2~8.10	西ドイツ(ハイデルベルグ)	44	1000	中村裕理事長(団長)・田中慶博(槍正確投・ スラローム)・梅田幾世(槍正確投・60m・スラローム)
5	1976年(S51)	8.3~8.11	カナダ(トロント)	42	1600	中村裕理事長(団長)・杉尾良一(スラローム・ フェンシング)・槍正確投・車椅子バスケットボール)
6	1980年(S55)	6.21~7.5	オランダ(アーネム)	42	2500	中村裕理事長(団長)・江藤秀信(車椅子バスケット ボール)・黒沢忠巳(車椅子バスケットボール)
7	1984年(S59)	7.22~8.1	アメリカ(ニューヨーク) イギリス(ストークマンデビル)	42	4800	西村小百合(女子車椅子バスケットボール)・ 高橋寛(コーチ)
8	1988年(S63)	10.15~10.24	大韓民国(ソウル)	61	3053	椎正憲(100m走)・徳永祐政(車椅子バスケット ボール)・高橋寛(コーチ)・小林順一(コーチ)
9	1992年(H4)	9.3~9.14	スペイン(バルセロナ)	82	3020	徳永祐政(車椅子バスケットボール)・ 高橋寛(コーチ)・古手川俊明(コーチ)
10	1996年(H8)	8.15~8.25	アメリカ(アトランタ)	103	3195	坂野嘉樹(水泳)・和田裕(ヨット)・ 高橋寛(総務)・大原明子(通訳)
11	2000年(H12)	10.18~10.29	オーストラリア(シドニー)	123	3843	中村太郎理事(日本選手団医師)・廣道純(陸上)・ 荒力(水泳)・高橋寛(総務)
12	2004年(H16)	9.17~28	ギリシャ(アテネ)	136	3837	中村太郎副理事長(日本選手団医師) 荒力(水泳)・ 畑野泰子(車いすバスケットボール)・仲前伸治(通訳)
13	2008年(H20)	9.6~17	中華人民共和国(北京)	146	3951	笹原廣喜(陸上)・木谷隆行(ボッチャ)
14	2012年(H24)	8.29~9.9	イギリス(ロンドン)	164	4310	

## 主な国際スポーツ大会参加状況

開催年	期間	大会名	開催地	参加者
1969年(S44)	7.19~7.22	第2回国際半身麻痺者競技大会	オーストリア(ウィーン)	江藤秀信・森崎一晴
	7.22~7.24	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	江藤秀信・森崎一晴
1974年(S49)	7.20~7.27	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	畑田和男常務理事(日本選手団医師)
1978年(S53)	7.23~7.29	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	中村裕理事長(団長)・神田すみ江(フェンシング、スラローム)・高橋寛(コーチ)
1979年(S54)	7.22~7.28	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	畑田和男常務理事(団長兼医師)
	10.13~11.4	香港プレフェスピックゲーム	香港	佐藤保事務局長を団長に車椅子選手7名・役員5名
1983年(S58)	7.24~7.30	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	黒沢忠巳(車椅子バスケットボール)
	5.20~5.31	車椅子バスケットボール世界選手権	カナダ(ノバスコシア州)	小林順一(コーチ)
1984年(S59)	6.17~6.29	84国際身体障害者スポーツ大会	アメリカ(ニューヨーク)	中原清(クロスカントリー)
1985年(S60)	7.28~8.4	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	矢田成昭(車椅子バスケットボール)
1986年(S61)	5.31	ゼンバツハ湖一周車いすマラソン	スイス	藤原修・吉永栄治(団長)
	7.22~8.9	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	西村小百合(車椅子バスケットボール)
1990年(H2)	7.29~8.5	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	矢田成昭(陸上)
	7.5~8.11	車椅子バスケットボール世界選手権	ベルギー	徳永祐政(車椅子バスケットボール)
1992年(H4)	2.13~2.16	オーストラリアオープンテニス	オーストラリア	柿木原龍二(車椅子テニス)
1993年(H5)	8.25~8.30	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	指宿立(コーチ)
1994年(H6)	4.5~4.19	車椅子バスケットボール世界選手権	イラン	徳永祐政(車椅子バスケットボール)
1995年(H7)	7.22~7.30	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	堀川裕二(コーチ)
1998年(H10)	8.20~8.28	国際ストークマンデビル競技大会	イギリス	河原畑純(ツインバスケット(公開競技))・今吉豊(コーチ)
1999年(H11)	9.29~10.10	1999ボッチャワールドカップ	アルゼンチン	佐々木利恵(コーチ)
2002年(H14)	6.18~6.29	ボッチャ世界選手権	ポルトガル	阿部宏(ボッチャ)・堀川裕二(ランプ介助)
2003年(H15)	10.28~11.7	2003ボッチャワールドカップ	ニュージーランド	佐々木利恵(監督)
2003年(H15)	10.28~11.7	2003 Boccia World Championships	ニュージーランド	佐々木利恵(監督)
2005年(H17)	9	アジア・南太平洋ボッチャ選手権大会	マレーシア	木谷隆行(ボッチャ)
2006年(H18)	7.3~16	2006年世界車椅子バスケットボール選手権大会	オランダ	畑野泰子(車椅子バスケットボール)
2006年(H18)	10.5~15	2006 Boccia World Championships	ブラジル	木谷隆行(ボッチャ)
2007年(H19)	5.9~19	2007 Boccia World Championships	カナダ	木谷隆行(ボッチャ)
	7.14~15	アジアドリームカップ2007	日本(別府)	大分県選抜(車椅子バスケットボール)
2009年(H21)	11.22~12.3	IWAS世界大会2009	インド	池部純政(コーチ)
2010年(H22)	5.30~6.10	2010 Boccia World Championships	ポルトガル	木谷隆行(ボッチャ)
2013年(H25)	9.13~23	IWAS世界大会2013	オランダ	池部純政(コーチ)
	10.18~24	アジア・オセアニア ボッチャ選手権大会	オーストラリア	木谷隆行(ボッチャ)
2014年(H26)	9.19~28	2014 Boccia World Championships	中華人民共和国	木谷隆行(ボッチャ)
2015年(H27)	6.10~14	Boccia Asia/Oseania Team&paris Championships	香港	木谷隆行(ボッチャ)
	6.16~22	Boccia World Open Ponzan	ポーランド	木谷隆行(ボッチャ)
	6.17~21	The 2015 Spanish Para Open	スペイン	宿野部拓海(卓球)
	6.24~28	ROMANIAN INTERNATIONAL TABLE TENNIS OPEN	ルーマニア	宿野部拓海(卓球)
	7.25~26	アジアドリームカップ2015	日本(別府)	大分県選抜(車椅子バスケットボール)

## 主な研究概要

研究名	身体障害者労働医学研究機器整備、重度障害者に関する労働医学的・人間工学的研究（1969, 1970, 1971）
概要	当時、障害者の就労に関する労働医学的研究はほとんど行われていなかった。太陽の家では、障害者の残存能力を引き上げ、障害者に適した生産作業を開拓するため労働研究室を設置し、実際の労働現場において就労時の疲労、合併症予防、適性職種の設定、機械器具の改善等、労働医学的・人間工学的研究を行った。多用途監視記録装置、ポータブル心電計、トレッドミル、TKKフリッカー、脳波計、レスピロメーター、エルゴメータ、ビデオカメラ等を揃え様々な計測を行った。また、労働心理・生化学的検査も加え、より科学的な作業姿勢・動作、適性職種・作業量の選定を可能とした。



脳波計測中の中村裕先生



フリッカーテスト中の畑田和男先生



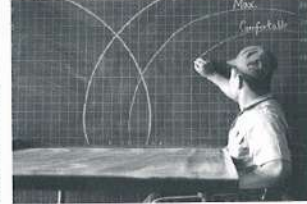
透明シートによる臀部皮膚温計測



プッシュアップ



トレッドミル上でのガス分析



リーチ計測

車椅子での2時間の連続座位で皮膚温度低下と発赤が認められたが、このとき数十秒間両腕で身体を持ち上げると皮膚温が直ちに回復することが観察された。プッシュアップが褥瘡防止に非常に有効であることが判明、作業スケジュールにプッシュアップ休憩を組み込むことで、褥瘡による欠勤をほとんどなくすることができた。

研究名	重度身体障害者のための居住実験(実験住宅テトラエース)（1969～1970）
概要	東京大学生産技術研究所・東陶機器(株)・ナショナル住宅建材(株)・フランスベッド(株)などの協力のもと、頸髄損傷など重度の障害者が自立して生活できる住宅および機器を開発した。鉄骨プレハブユニット構造平屋建(床面積は46.68㎡)で、サニタリー・キッチン・寝室の3ユニットで構成。昇降式ベッド、入浴用電動リフト、電動棚、自動ドア、自動洗浄便座付き便器、リモコン式テレビ等まだ一般化されていなかった設備を開発・採用した。完成後、頸髄損傷者2名が居住実験を行った。身障者用住宅研究の先駆けとなった。



テトラエース外観



キッチンユニット。テレビドアは超音波リモコンで操作できた。自動ドア



研究名	電動車椅子開発研究事業（1972）
概要	中央競馬会福祉財団より助成を受け、独自に研究を続けていたリフト付電動車椅子と電動式和式車椅子を立石電機料と共同して試作開発した。頸髄損傷など重度の四肢麻痺者の場合、車椅子への移乗が困難である。笛を吹くことで操作可能な移乗用のリフトを備えた電動車椅子である。同時に日本家屋用として畳の上を走行できる和式電動車椅子も開発した。



リフト付電動車いす2号機



超音波受信部

リフト付電動車いす3号機



和式電動車いす

<b>研究名</b>	<b>身体障害者機能開発補助事業 (1973,1974)</b>
<b>概要</b>	身体障害者機能開発センターの運営補助として実施。就労に関しては「疲労と生産能率、作業姿勢、基礎体力と作業適応性」などの研究を行った。機器に関しては「自助具・治工具、重度障害者用各種車いす」を開発した。脊髄損傷者の褥瘡・尿路感染予防・健康管理について「脊損ハンドブック」を作成配布し教育を行った。



レバー式車いす



座敷用車いす



エスカレーター用車いす



自助具各種



<b>研究名</b>	<b>重度身体障害者による電動車いすの製作および製作工場システムの開発研究 (身障モデル福祉機械工場) (1975)</b>
<b>概要</b>	ソニー(株)と大分大学の協力を得て、重度障害者や高齢者向けの実用性の高い電動車いすの開発を行うと同時に、重度障害者の雇用就労の場を拡大するための生産工場システムの研究を行った。車いすの作業者が操作可能な工作機械(旋盤・フライス盤・ボール盤など)や溶接装置(ガス・アーク)、作業用プラットホーム、車いすで使用できる電動運搬台車などを開発した。約670㎡の工場内にこれらの機器を展開しモデル工場とした。



開発した電動車いす



プラットフォームと改造旋盤



改造フライス盤



イナートガス溶接

<b>研究名</b>	<b>リングダックシステムによる重度障害者の新しい職業分野の開拓研究 (1977)</b>
<b>概要</b>	リングダックシステム(重度障害者の入力動作を、レーダーや超音波・光・圧力・舌の接触など様々な手段で感知し出力する装置)を導入して、寝たきりもしくはそれに近い脳性まひ者を対象に日常生活の改善を計った。また、リングダックを用いて数値制御式ボール盤の作業命令用プログラム紙テープパンチング機を操作し、重度障害者にとっての全く新しい重機械使用の職業分野を開拓した。



説明する中村先生



システム全体



大きなキーボード



舌スイッチ

<b>研究名</b>	<b>コンピューター利用による重度障害者の適職判定ならびに重度障害者を対象とするコンピューター要員の養成 (1979)</b>
<b>概要</b>	重度障害者の職業適性の判定にコンピューターを導入し、判定者の経験・主観に依存する度合いを軽減、職業適性評価の内容を改善した。また、蓄積されたデータを基本情報として入力し、標準的なソフトウェアを確立した。さらに、購入したMELCOM86を活用し新規授産科目として、重度障害者を対象とするコンピューター要員の養成を行った。(情報処理科)



情報処理科の様子



情報処理科のメンバー

## 主な研究概要

研究名	シルバーハウジング開発研究、高齢身障用モデルハウスの建築（1987～1990）
概要	高齢化が進む社会において生活の基盤となる住環境に関わる分野の調査研究を1987から3年間行った。1987年度は高齢者および介助者に適した「入浴システム」「サニタリー」「介助用動力システム」を、日本大学・大分大学・東京工業大学の主任研究者が実施した。1988年度は「高齢者の在宅生活を支援する様々なシステム」「障害高齢者の移動システム」「居住環境整備に関する総合的研究」を国立障害者リハビリセンター・法政大学・神奈川総合リハビリセンターが参加して実施した。1989年度はこれまでの研究成果を具体化し一般に公開するため高齢身障用モデルハウス「年輪」を建築し実証実験を行った。



モデルハウス「年輪」外観



サニタリー

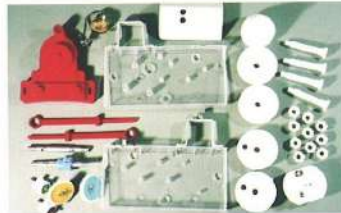


寝室



移乗システム

研究名	身体障害者の職能評価器具の開発（メカニック検査の標準化）（1992～1994）
概要	障害者の職能評価法として、分解組立が可能なおもちゃの機関車を使った検査を実施していたが、このおもちゃの機能・構造を分析し、評価要素を再設計して新しい検査器具を製作した。また、統一した評価が可能になるよう評価システム（評価項目・着目点・測定方法・記録方法）を構築し、障害者の職能評価に利用できる有効な検査手法として確立した。



メカニック検査器具



検査の様子

研究名	車いすマラソンのスピードトレーニング練習機の試作（1992）
概要	中村裕記念身体障害者福祉財団より助成を受け、車いすマラソン選手が自己最高記録以上の走行速度を体感するため、オートバイで牽引する練習機を試作して走行実験を行なった。競技用車いすとオートバイは電磁石で連結しており、所定の速度まで牽引加速した後に簡単に切り離すことができる。時速35km位で牽引走行実験を行った。



牽引走行実験



牽引装置

研究名	ウェルフェアテクノハウス大分研究会(大分県産学官共同研究) 歩行/移乗動作解析による障害者トイレの研究開発（1998～2002）
概要	便器としてすりにの6軸力センサーを組み込んだ模擬トイレで、車いすや立位から便器への移乗動作で作用する力を計測し、さらに3次元動作解析装置で移乗動作を記録した。障害レベルをパラメータとしてトイレ内でのアプローチの方法・移乗方法・作用力・所要時間・重心の移動などを解析した。また、便器への着座荷重や手すりに作用する力やモーメントから、障害の状況に合わせたトイレ機器や取付構造に必要な強度を解明した。大分大学および九州工業大学と共同で実施した。



模擬トイレでの移乗計測実験



電動車いす消費エネルギー計測実験

## 「研究紀要」発行

太陽の家身体障害者職能開発センター(1979.4~2003.3)は毎年各種の研究事業を行い、その結果は個別の研究報告書やTADカード(Technical Aids for the Disabled)等で記録・報告してきた。事業部や厚生部等で行われる研究も含め、これらを統一した形式で記録保存し、研究資料や活動記録として共通の財産とし活用するために「研究紀要」を発行した。

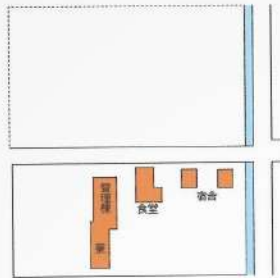
番号	発行年度	内容
No.1	1993年(H5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入所者の状況調査</li> <li>・精神科デイケアにおける作業訓練について -実践のまとめと結果の考察-</li> <li>・福祉ホーム(増設分)居住者へのアンケート調査</li> <li>・身体障害者の職能評価器具の開発(メカニク検査の標準化)</li> <li>・頸髄損傷者の住宅研究(プレハブ住宅の新築)</li> </ul>
No.2	1994年(H6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40歳以上の退所者の分析</li> <li>・50歳以上の授産在籍者へのアンケート調査</li> <li>・低床式電動リフトの試作</li> <li>・浴場に関するアンケート調査</li> <li>・身体障害者の職能評価器具の開発(メカニク検査の標準化)第2報</li> </ul>
No.3	1995年(H7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害者施設での現場実習報告</li> <li>・亀川地区の居住者調査</li> <li>・住宅改造成果集</li> </ul>
No.4	1998年(H10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある在宅障害者夫妻の生活状況</li> <li>・新入所者経過調査</li> <li>・障害者の就労と生活設計 -太陽の家33年の経験から-</li> <li>・歩行/移乗動作解析研究</li> <li>・実生活場面における電動車いすのエネルギー需要評価 (大学共同研究)</li> <li>・太陽の家就労者の生活環境に関する研究 大分大学工学部建設工学科 小林 貴代/古賀 泰司</li> <li>・太陽の家の調査から学んだもの -障害者の自立に関する心理学的研究に参加して- 北九州大学文学部人間関係学科 山内 隆久/河野 賢/谷野 智子/吉田 良</li> <li>・車いす使用者および歩行不自由者を対象とした「屋外移動に関する調査」報告書 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科デザイン工学専攻 樽見 晃</li> </ul>
No.5	2000年(H12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の握力 ~入所面接時の握力測定結果~</li> <li>・介護記録のデータ処理装置の研究開発(調査研究)</li> <li>・歩行/移乗動作解析研究第2報 (大学共同研究)</li> <li>・居住形態別に見た身体障害者の住生活の評価と住宅供給の課題に関する研究 大分大学工学部福祉環境工学科 鴨崎 義人/谷戸美和子</li> <li>・肢体不自由者の衣生活の現状と問題点に関するアンケート調査 大分大学教育学部人間福祉科学課程 西牟田美紀</li> <li>・出勤時間に関する職場規範の研究 ~規範の実効性検証の試み~ 北九州大学文学部人間関係学科 三沢 良</li> </ul>
No.6	2001年(H13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体計測結果の分析(身長・体重・BMI)</li> <li>・オーダー型車いすの形状と身体寸法</li> <li>・住宅改造成果(浴室改造と電動式昇降機の設置)</li> <li>・障害者の就労を支える地域機能(ある障害者夫妻の事例から)</li> <li>・歩行/移乗動作解析研究第3報</li> <li>・太陽の家ホームページの企画・製作</li> </ul>

## 敷地・建物配置の推移

### 太陽の家(亀川)

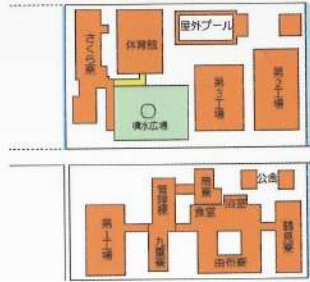
1965年 開設当初

土地:5947.00㎡  
建物:594.00㎡



1968年  
第1期から4期工事完了時

土地:13415.00㎡  
建物:6232.28㎡



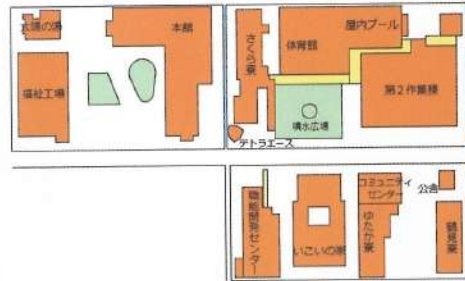
1976年  
機能強化センター完了時

土地:20048.00㎡  
建物:19493.22㎡



1985年  
職能開発センター、  
ゆたか寮、  
コミュニティセンター、  
第2作業棟完了時

土地:21482.00㎡  
建物:25786.00㎡



1996年  
第1作業棟竣工  
体育館・プール、  
サンストア移転

土地:23030.37㎡  
建物:34226.77㎡



2015年 現況

土地:27441.83㎡  
建物:34101.85㎡

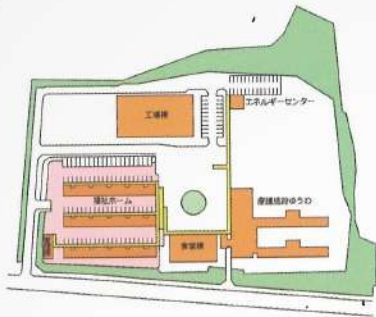




### 日出事業本部

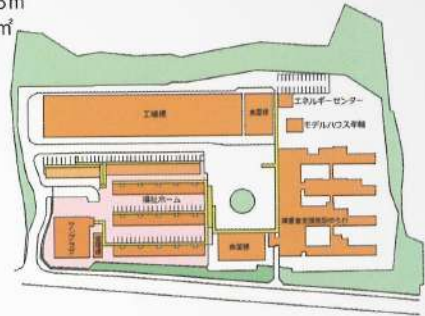
1988年 開設時

土地:36783.50㎡  
建物:4625.70㎡



2015年 現況

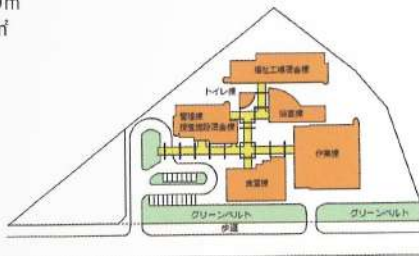
土地:42720.63㎡  
建物:8146.49㎡



### 愛知事業本部

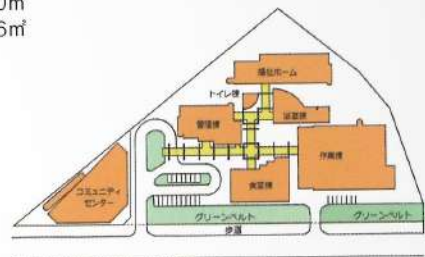
1984年 開設時

土地:11840.00㎡  
建物:7618.00㎡



2015年 現況

土地:11840.00㎡  
建物:11721.06㎡



### 京都事業本部

1986年 開設時

土地:10029.00㎡  
建物:7810.00㎡



2015年 現況

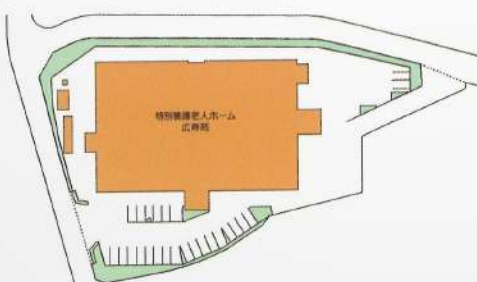
土地:10029.00㎡  
建物:7986.51㎡



### 杵築事業本部

2015年 現況

土地:5571.77㎡  
建物:4799.62㎡



### 大分事業本部

2015年 現況

土地:314.04㎡  
建物:1027.44㎡  
別途駐車場:433.05㎡



## 敷地建物の変遷（今昔航空写真）

1961

■ 別府事業本部(別府市亀川地区) 1961年

1961年4月25日撮影



太陽の家となる小野田セメント療養所  
(土地約5900㎡、建物ブロック平屋約590㎡)が中央部に見える。  
太陽の家開設4年前の状況。

国土交通省国土地理院 写真番号 MKU612-C1-3

2013

■ 別府事業本部(別府市亀川地区) 2013年

2013年9月17日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 CKU201310-C13-7

## 敷地建物の変遷（今昔航空写真）

1990

■ 日出事業本部

1990年4月29日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 KU853X-C13-31

2013

2013年1月12日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 KU904X-C11-6

1987

■ 愛知事業本部

1987年10月22日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 CCB874-C14B-21

2010

2010年8月18日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 CCB20103-C15-62

## 敷地建物の変遷（今昔航空写真）

1987

■ 京都事業本部

1987年10月4日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 CKK871-C11-14

2008

2008年5月7日撮影



国土交通省国土地理院 写真番号 CKK20081-C26B-8

## むぎの会

1965年に15人で開所した太陽の家は翌年には32人となり、同年4月16日自治組織「木の芽会」が発足した。授産施設として認可された1966年以後は施設利用者と事務局職員によって運営されたが、1972年に福祉工場が創業し、「木の芽会」の有効メンバーが退会した。その後、木の芽会は発展的に解消し、福祉工場従業員、施設利用者、事務局職員が参加して「むぎの会」が発足した。愛知太陽の家、京都太陽の家が開設した後は、それぞれの事業本部でむぎの会が発足した。

それぞれのむぎの会は、太陽の家や協力企業が設置運営する職場または施設に所属する者で組織し、互助・親和の精神を養い、会員の生活の向上と福祉をはかるとともに、障がい者にとって住みよい社会をつくるための自主的活動を推進し、その発展と社会福祉の増進に寄与することを目的としている。

### ■ あゆみ

年 度	月 日	内 容
1966年 (S41)	4月16日	自治組織「木の芽会」発足
	8月20日	木の芽会主催納涼大会
1967年 (S42)	12月17日	第1回木の芽会主催クリスマスパーティー
1968年 (S43)	10月21日	第1回木の芽会主催運動会
1973年 (S48)	3月5日	自治親ばく組織「むぎの会」発足
	7月3日	むぎの会「太陽新聞」創刊
	11月1日	第1回文化祭
1974年 (S49)	12月21日	むぎの会忘年会(食堂)
1975年 (S50)	8月9日	むぎの会傘下のクラブ主催による第1回納涼大会が開催される
1977年 (S52)	8月6日	むぎの会納涼大会
1978年 (S53)	10月	運動会
1984年 (S59)	8月3日	愛知太陽の家むぎの会発足
1986年 (S61)	12月25日	京都太陽の家むぎの会発足(忘年会)
1987年 (S62)	8月1日	「'87サマーフェスティバル IN 京都太陽の家」第1回開催(京都)
1989年 (H1)	5月20日	むぎの会旅行(京都)
1991年 (H3)	10月5日	第1回亀川地区清掃活動
	10月13日	亀川小学校グラウンドでむぎの会主催運動会
1992年 (H4)	8月1日	亀川夏まつりに屋台を出店
	10月10日	むぎの会運動会に鶴崎中学校の生徒参加(最後の運動会)
	10月24日	第1回3太陽むぎの会交流会(京都)
1994年 (H6)	6月19日	第1回インドアサッカー大会(サンスポーツセンター)
	12月9日	第九コンサート初参加(京都)
1996年 (H8)	10月27日	「京都まつり」初参加(京都)
	12月4日	第1回イルミネーションツリー点灯
2000年 (H12)	6月12日	第1回囲碁大会 ～15日
	7月29日	2000サマーフェスティバル(京都)
2001年 (H13)	12月23日	第1回チャリティーバンド選手権
	10月6日	15周年記念大旅行(京都)
2003年 (H15)	3月27日	地域住民やボランティアを招待して「感謝デー」実施(愛知)
	12月17日	映画「ウイニング・パス」試写上映会(以後、別府市、大分市でも上映会実施)
2004年 (H16)	2月	映画「石井のおとうさんありがとう」上映会
2005年 (H17)	11月14日	むぎの会会長杯争奪ポッチャ第1回大会(京都)
	5月14日	「愛・地球博」見学ツアー(愛知)
2006年 (H18)	6月7日	第7回ふれあい囲碁大会
	9月30日	むぎの会インドアスポーツ大会
	10月9日	別府湾周遊ゆうぐれ散歩
2007年 (H19)	9月16日	愛知にて3事業本部むぎの会交流会
2008年 (H20)	2月19日	第1回ホトコンテスト
2009年 (H21)	12月1日	イルミネーションツリー点灯
2013年 (H25)	12月6日	第20回むぎの会忘年会(愛知)
2014年 (H26)	6月25日	オール太陽・卓球バレー大会
2015年 (H27)	7月18日	太陽の家創立50周年記念納涼大会
	9月29日	むぎの会歌の祭典
	12月	イルミネーションツリー点灯(別府)



1966年(S41) 自治組織「木の芽会」発足



1973年(S48) 第1回文化祭



1974年(S49) むぎの会忘年会(食堂)



1977年(S52) むぎの会納涼大会



1978年(S53) 運動会



1986年(S61)  
京都太陽の家むぎの会発足(忘年会)



1989年(H1) むぎの会旅行(京都)



2000年(H12)  
サマーフェスティバル(京都)



2004年(H16)  
映画「石井のおとうさんありがとう」上映会



2006年(H18) むぎの会インドアスポーツ大会



2007年(H19) 愛知にて3事業本部むぎの会交流会



2009年(H21)  
イルミネーションツリー点灯(愛知)



2013年(H25) 第20回むぎの会忘年会(愛知)



2015年(H27)  
太陽の家創立50周年記念納涼大会



2015年(H27)  
イルミネーションツリー点灯(別府)

## ■ クラブ・同好会活動

2015年(平成27年)4月1日現在

太陽の家 むぎの会(別府)	クラブ	太陽の家スパーズ(車椅子バスケット)、太陽の家ブレイカーズ(車椅子ツインバスケット) 太陽の家アポロンズ(車椅子ツインバスケット)、太陽の家Spash(テニス) 太陽の家ドンキーズ(ローリングバレー)、太陽の家サンシャイン(卓球バレー) FC太陽フリーダムス(サッカー)、太陽の家SUN Chips(ポッチャ) 太陽の家サンフィッシュ(カヌー)、太陽の家ADventure(フライングディスク) 太陽の家卓球クラブ、アンサンプル太陽(吹奏楽)
	同好会	太陽の家バトミントンクラブ、阪神タイガースファンクラブ、映画同好会
愛知太陽の家 むぎの会	クラブ	DENSO SUNS(車いすバスケットボール)、水泳、卓球バレー、車いすマラソン、ポッチャ、カラオケ
京都太陽の家 むぎの会	クラブ	FEDER(車椅子ツインバスケットボール)、サンチップス京都(ポッチャ) 卓球バレー、京都ピアフレンズ(障がい者野球)



過去に出版された太陽の家関係の書籍・記念誌



編集後記

記念誌制作にあたり、たくさんの方々にご協力いただきお世話になりました。言葉に表せないほどの感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。編集は、50周年のテーマである「挑戦！自分と未来に」を意識して取り組みました。中村裕博士から始まった挑戦が、たくさんの方々の心に響き、ご支援を受け、継承されて今があるということを忘れずに、また太陽の家の歴史と伝統を考慮に入れ、写真を多く使いわかりやすく見ていただけるように工夫しました。

私心を忘れ、信念を持って太陽の家を築いた中村裕博士を知る当時の関係者は少なくなりました。時々、この記念誌を開いてタイムスリップしていただき、諸先輩方の苦難の道に思いを寄せ、何事にも挑戦せねばと奮起していただけたら本望です。

編集委員一同

50周年記念誌  
編集委員

池部 純政  
小田 博道  
金高 茂生  
三ノ京佳代子  
徳田 構一  
中原 豪  
長谷 孝彦  
右田 裕香里  
森本 泰秀  
四ッ谷奈津子  
田中 信隆

社会福祉法人太陽の家  
創立50周年記念誌

編集・発行 社会福祉法人 太陽の家 創立50周年記念誌編集委員会  
〒874-0011 大分県別府市大字内蔵1393番2 TEL:0977(66)0277 FAX:0977(67)0453  
URL <http://www.taiyonoie.or.jp>

発行日 2016年(平成28年)3月20日  
印刷・製本 株式会社電子印刷センター

